

FM Stereo/SW/MW/LW PLL Synthesized Receiver

取扱説明書

JP

お買い上げいただき、ありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品
を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られ
るところに必ず保管してください。

Operating Instructions

GB

Manual de instrucciones

ES

XXXXX Korean

KR

XXXXX Chinese(simplified)

CS

ICF-SW07

こんなことができます

- 世界の現地時刻がわかります。
都市名を選ぶだけで、簡単に世界の現地時刻を調べることができます。
 - 世界中の放送が受信できます。
 - PLL(Phase Locked Loop)シンセサイザー方式を採用し、簡単に正確な選局ができます。
 - 国内では以下の放送が受信できます。(詳しくは付属の「ウェーブハンドブック」および「ハウトゥキャッチザウェーブ」をご覧ください。)
- テレビ音声 : 1 ~ 3ch(90 ~ 108MHz)
- FM : 76 ~ 90MHz
- SW(短波) : 国内外の短波放送、業務用通信など
1621 ~ 29999kHz
- MW(中波) : 530 ~ 1620kHz
- LW(長波) : ロシアなどの長波放送の一部、ラジオビーコン(航空無線標識局、船舶無線標識局)など
150 ~ 529kHz
- SW STATION CALL
主要短波放送局の局名ボタンを押すだけで、ROMに収められたデータから時差帯に合った周波数を呼び出すことができます。
 - マイメモリー選局
最大100の周波数をあらかじめ登録しておき、スキャンして呼び出すことができます。
 - 目的に合わせて、その他4種類の選局方法でも受信できます。
 - 周波数を直接指定して選局する、ダイレクト選局。
 - 手動で少しずつ周波数を調節する、マニュアル選局。
 - 自動的に放送局を探す、スキャン選局。
 - あらかじめ放送局を登録しておき、ワンタッチで選局できる、プリセット選局。
 - ラベルを変更できます。
プリセットした周波数や選択した時差に、放送局名や都市名などのラベルをつけることができます(英数字で6桁まで)。
 - 聞きたい時刻に受信できます。
内蔵の2つのタイマーで、お聞きになりたい放送をお好きな時刻に受信することができます。
 - ラジオを聞きながらおやすみになれます。
スリープタイマーを使うと約60分で自動的に電源が切れますので、ラジオを聞きながら安心しておやすみになれます。
 - 付属のステレオヘッドホンでFM放送がステレオで楽しめます。

目次

はじめに

各部の名称と働き	4
電源について	9
乾電池で使う	9
付属のACパワーアダプターで使う	11
時計を合わせる	12
現在時刻を合わせる	12
他地域の現地時刻を知る	14

受信のしかた

いろいろな受信のしかた	16
周波数を直接指定して聞く	
— ダイレクト選局	16
手動で周波数を選んで聞く	
— マニュアル選局	18
自動的に局を探して聞く	
— スキャン選局	20
いつも聞く局を記憶させて聞く	
— プリセット選局	22
局名ボタンで探して聞く	
— SW STATION CALL	24
記憶させた局を探して聞く	
— マイメモリ選局	27
SSBやCWを受信する	30
AM放送を良い状態で受信する	
— 同期検波	31

便利な使いかた

付属の外部アンテナを使う	32
放送を録音する	35
ラベルを編集する	36
タイマーを使う	38
ラジオまたはブザーで目覚める	
— スタンバイ機能	38
ラジオを聞きながら眠る	
— スリープタイマー機能	41
誤操作を防ぐ— ホールド機能	42
ピープ音を消す	43

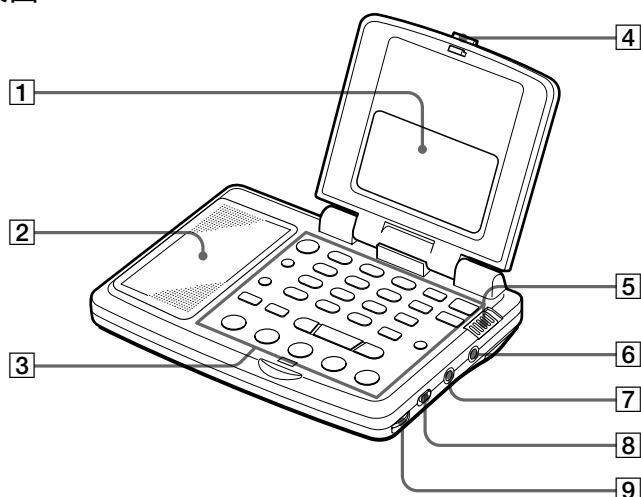
その他

使用上のご注意とお手入れ	44
故障かな?と思ったら	46
保証書とアフターサービス	48
主な仕様	49
ミニ知識	51

各部の名称と働き

()内のページに詳しい説明があります。

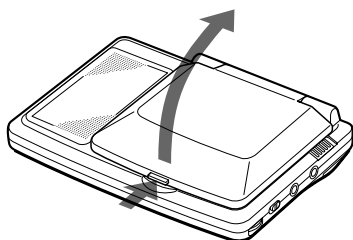
表面



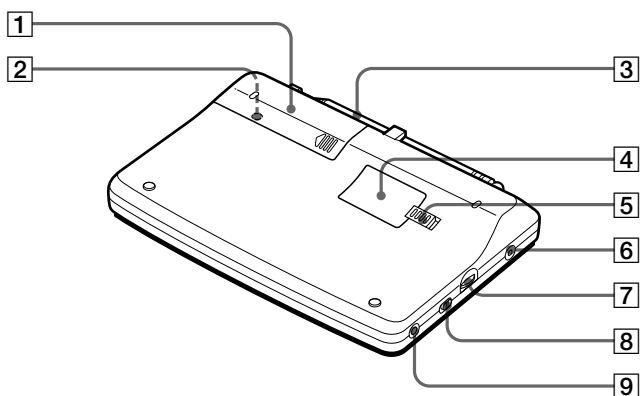
- ① 表示窓(7)
- ② スピーカー
- ③ 操作部(6)
- ④ OPEN(開く)ボタン(4)
- ⑤ HOLD(誤操作防止)スイッチ(42)
- ⑥ ()ヘッドホン)端子
- ⑦ ライン アウト LINE OUT(録音出力)端子(35)
- ⑧ トーン TONE(音質切り換え)/ステレオ ST・モノラル MON(ステレオ・モノラル切り換え)スイッチ(17)
- ⑨ ボリューム VOL(音量調節)つまみ(17)


ふたの開けかた

OPENボタンを押しながら、ふたを上にあげます。お好きな角度に調節してください。



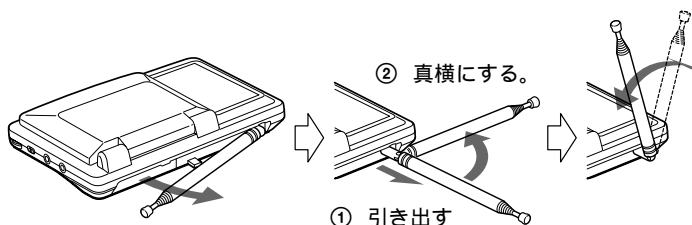
裏面



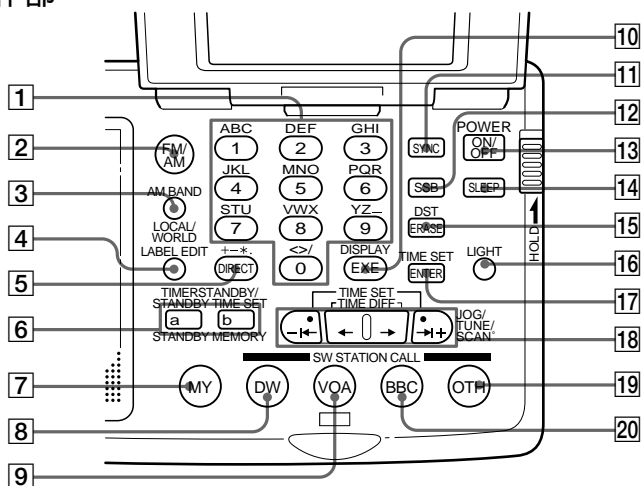
- | | |
|--|---|
| <p>① 電池ぶた(9)</p> <p>② <small>リセット</small> RESETボタン</p> <p>電池収納部にあります。不具合が生じたときなどに先の細いものでボタンを押すと時計などがリセットされ、出荷時の状態に戻ります。記憶させた周波数は保持されます。</p> <p>③ ロッドアンテナ(17)</p> <p>④ ROM収納部ぶた(45)</p> | <p>⑤ <small>リリース</small> RELEASE(ROM収納部ぶた開け)つまみ(45)</p> <p>⑥ DC IN 3V  (外部電源入力端子)(11)</p> <p>⑦ <small>アッテネーター</small> ATTコントロール(減衰量調節)つまみ(21)</p> <p>⑧ <small>アッテネーター</small> ATT ON・OFF(減衰器ON/OFF)スイッチ(21)</p> <p>⑨ <small>エイエム エクスターナル アンテナ</small> AM EXT ANT(AM外部アンテナ入力)端子(33)</p> |
|--|---|

アンテナの伸ばしかた

イラストのように、アンテナロッドの受け軸をまっすぐ引っ張り出してからアンテナを回転させてください。



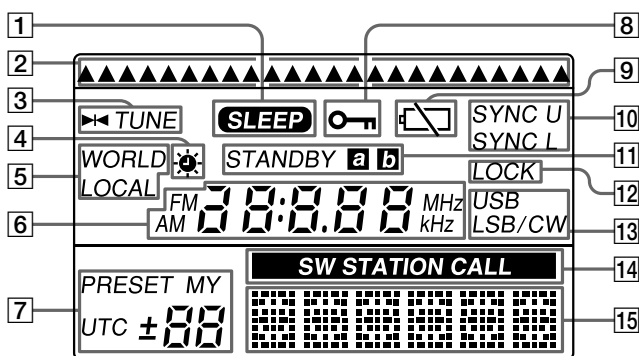
操作部



- | | |
|--|--|
| ① 数字ボタン(16, 22, 36) | ⑪ シンク
SYNC(同期検波)ボタン
(31) |
| ② FM/AM切り換えボタン(16, 43) | ⑫ エスエスピー
SSBボタン(30) |
| ③ <small>バンド</small>
AM BAND(AMバンド) | ⑬ <small>パワー オン オフ</small>
POWER ON/OFF(電源入/
切)ボタン(16) |
| ④ <small>ローカル ワールド</small>
LOCAL/WORLD(地域時刻
/ 世界時刻)切り換えボタン
(14, 18) | ⑭ <small>スリープ</small>
SLEEPボタン(41) |
| ⑤ <small>ラベル エディット</small>
LABEL EDIT(ラベル編集)ボ
タン(36) | ⑮ <small>イレース ディーエステー</small>
ERASE・DST(削除・サ
マータイム)ボタン(12, 23,
29, 40) |
| ⑥ <small>ダイレクト</small>
DIRECT(ダイレクト選局)ボ
タン(16) | ⑯ <small>ライト</small>
LIGHT(照明)ボタン

このボタンを押すと約30秒
間表示窓が照明され、暗いと
ころでも表示が読めます。 |
| ⑦ <small>スタンバイ メモリー</small>
STANDBY MEMORY・
<small>タイマー スタンバイ</small>
TIMER STANDBY/
<small>スタンバイ タイム セット</small>
STANDBY TIME SET(スタ
ンバイメモリー・スタンバイ
設定 /スタンバイ時刻設定)ボ
タン(38) | ⑰ <small>エンター タイム セット</small>
ENTER・TIME SET(入力・
時刻設定)ボタン(12, 22,
27, 38) |
| ⑧ <small>マイ</small>
MYボタン(27) | ⑱ <small>ジョグ チューン スキャン タイム</small>
JOG/TUNE/SCAN・TIME
<small>ディファレンス タイム セット</small>
DIFF/TIME SET(マニユア
ル選局/スキャン選局・時差
設定/時計合わせ)ボタン(12,
18, 20) |
| ⑨ <small>ドイチェ ヴェレ</small>
DWボタン(24) | ⑲ <small>アザース</small>
OTHボタン(25) |
| ⑩ <small>ヴィーオーエー</small>
VOAボタン(24) | ⑳ <small>ビービーシー</small>
BBCボタン(24) |
| ⑪ <small>エグゼキュート ディスプレイ</small>
EXE・DISPLAY(実行・表
示)ボタン(13, 16, 36) | |
| ⑫ ラジオを聞いているときにボ
タンを押すと、時刻表示に切
り換わり、もう一度押すと戻
ります。押さないとき約10秒
後に自動的に戻ります。 | |

表示部

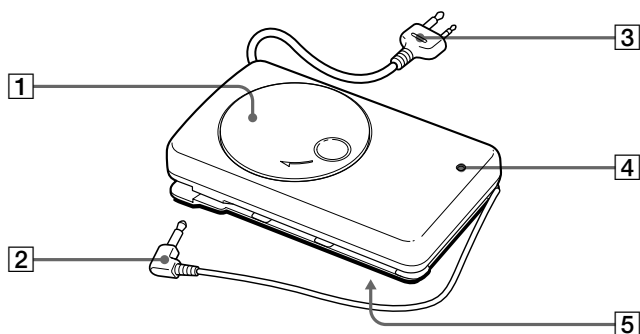


- | | |
|---|---|
| <p>① <small>スリープ</small>
SLEEP(スリープタイマー)表示(41)
スリープタイマーが動作中に点灯します。</p> <p>② 時差帯指示表示(12, 14)
指定された時差になる時差帯を指し示します。</p> <p>③ <small>チューン</small>
TUNE(選局)表示(16)
放送を受信したときに点灯します。</p> <p>④ <small>☀</small>(サマータイム)表示(12, 14)
サマータイムを設定しているときに点灯します。</p> <p>⑤ <small>ワールド ローカル</small>
WORLD・LOCAL表示(12, 14)</p> <p>⑥ 時刻/周波数表示欄(12, 16)</p> <p>⑦ メモリー番号/時差表示欄(12, 22, 27)</p> | <p>⑧ ホールド(誤操作防止)表示(42)
表示されているときはボタン操作を受け付けません。</p> <p>⑨ 電池消耗表示(10)</p> <p>⑩ <small>シンク ユー シンク エル</small>
SYNC U・SYNC L(同期検波)表示(31)</p> <p>⑪ <small>スタンバイ</small>
STANDBY a・b表示(38)
タイマー予約しているときに点灯します。</p> <p>⑫ <small>ロック</small>
LOCK(同期ロック)表示(31)
同期検波が働いているときに点灯します。</p> <p>⑬ <small>ユー・エスピー エル・エスピー・シー・ダブリュー</small>
USB・LSB / CW(SSB / CW方式)表示(30)</p> <p>⑭ <small>エスダブリュー ステーション コール</small>
SW STATION CALL表示(24)</p> <p>⑮ ラベル表示欄(12, 16)
放送局名や都市名、バンド、メーターバンドなどが表示されます。</p> |
|---|---|

短波(SW)放送専用アクティブアンテナAN-LP2

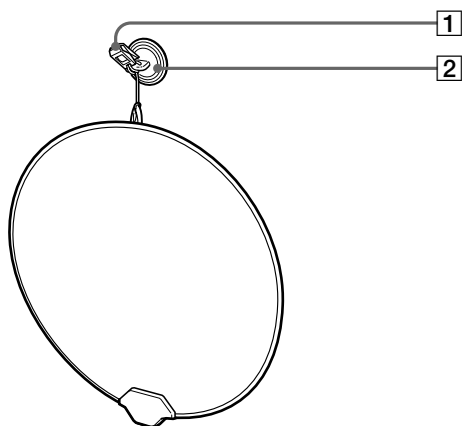
アクティブアンテナの使い方については32ページをご覧ください。

アンテナコントローラー



- ① 巻き取り
- ② 短いコード
- ③ 長いコード
- ④ POWERランプ
- ⑤ 電池入れ

アンテナモジュール



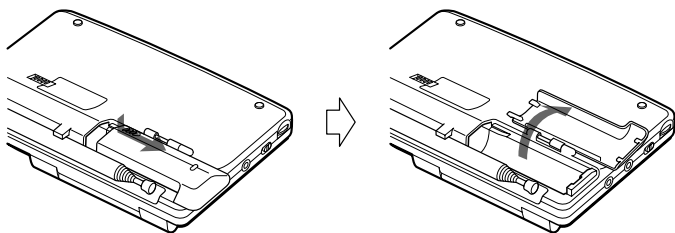
- ① クリップ
- ② 吸盤

電源について

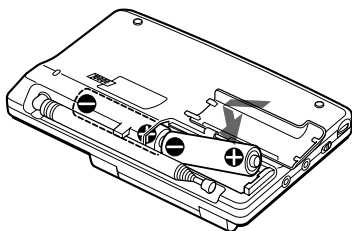
乾電池で使う

コンセントで使う → 付属のACパワーアダプターで使う (11ページ)

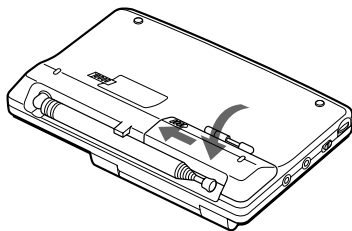
- 1 電池ぶたをスライドさせたあと、開く。




- 2 単3形乾電池を2本入れる。
表示に合わせて⊕⊖を正しく入れる




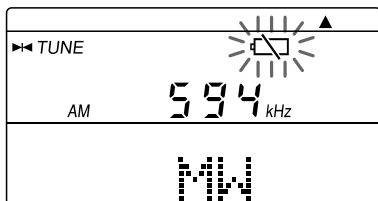
- 3 電池ぶたを閉める。



乾電池の交換時期

乾電池が消耗すると表示窓に「」が点滅し音が小さくなったりひずんだりする場合があります。

さらに消耗すると「」が点灯しラジオの電源が切れます。その場合は乾電池を新しいものと交換してください。



乾電池の持続時間


(JEITA*)

	ソニー単3形アルカリ乾電池	ソニー単3形マンガン乾電池
FM	約32時間	約10時間
AM	約23時間	約8時間

* JEITA(電子情報技術産業協会)規格による測定値です。

実際の電池持続時間は使用する機器の状況により変動する可能性があります。

ちょっと一言

- 乾電池の交換は3分以内に行ってください。
3分以上経過すると、設定した時刻は消えてしまいます。この場合は、もう一度設定をやり直してください。メモリーに記憶させた周波数は消えません。
- 乾電池が完全に消耗するとLIGHT ボタン以外のすべてのボタン操作ができなくなります。
乾電池を交換してラジオの電源を入れ直すと「」表示が消え、再び操作ができるようになります。

乾電池についてのご注意

乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことは必ずお守りください。

- + と - の向きを正しく入れてください。
- 新しい乾電池と使用した乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は充電できません。
- 長い間乾電池を使わないときは、取り出しておいてください。

万一液もれが起こったときは、電池入れについての液をよくふきとってから新しい乾電池を入れてください。

電源について(つづき)

付属のACパワーアダプターで使う

付属のACパワーアダプターAC-E323(日本国内モデル、ワールドモデルに付属)をDC IN 3V端子につなぎます。

お使いになる前に

ACパワーアダプターのインプットセレクターを、お使いになる国の電源電圧に合わせてからつないでください。

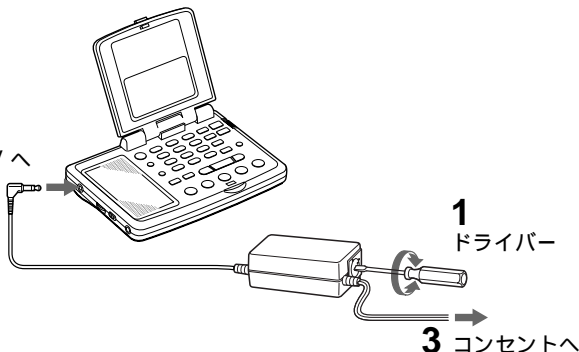
インプットセレクターはドライバーを使って回してください。

インプットセレクターをOFFの位置にするとACパワーアダプターが働きませんので、ご注意ください。

コンセントにつないだ状態で切り換えをすると、故障の原因となります。

2

DC IN 3V へ




ご注意

- 電源コードは、無理に曲げたり、上に重い物を載せたりしないでください。
- コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
- 長い間使わないときは、必ずACパワーアダプターをコンセントから抜いてください。このときは必ず本体からプラグも抜いてください。

ちょっと一言

DC IN 3V端子にACパワーアダプターをつなぐと、乾電池が入っていても自動的に外部電源に切り換わります。

ご注意

- 外部電源で本機を使うときも、内蔵のマイコンのバックアップ用として電池を入れておいてください。この場合も乾電池は消耗しますので、約1年で交換してください。
- 外部電源のプラグを抜き差しするときは、本体の電源を切ってから行ってください。電源を入れたまま行くと、電源が切れて「」表示が出ることがあります。この場合、もう一度本体の電源を入れると表示は消えます。
- 乾電池で使うときは、必ずACパワーアダプターをコンセントから抜いたあと、本機のDC IN 3V端子からプラグを抜いてください。DC IN 3V端子に外部電源のプラグが繋がっていると乾電池で動作しません。
- ACパワーアダプターは、ソニーの推奨品または同等品をお使いください。プラグの極性、その他の仕様の違う製品を使うと、故障したり性能を十分に発揮できないことがあります。
- 海外の220~240V地域でお使いになる場合、ACパワーアダプターの形が壁のコンセントに合わないときは、付属のACプラグアダプターをお使いください。



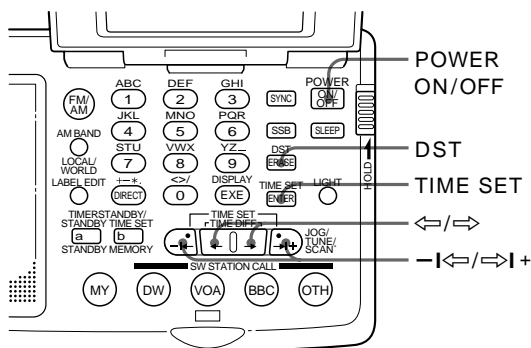
極性統一形プラグ

時計を合わせる

現在時刻を合わせる

はじめて電池を入れたときや時計がリセットされたときには、表示窓に「0:00」が点滅しますので、時計を合わせてください。

設定はラジオを切った状態で行ってください。



LOCAL時刻とはお使いになる地域(国内)の時刻、WORLD時刻とは世界のその他地域の時刻のことです。

時計合わせはLOCAL時刻で行います。時計合わせを行う前に15ページの表を見て、お使いになる地域のUTC(協定世界時刻)との時差を調べてください。本機には主要都市名とその時差がプリセットされています。

1 ラジオの電源が入っていたら、POWER ON/OFFを押して電源を切る。

2 TIME SETを押しながら<=>または=>を押し、お使いになる地域の都市名またはUTCとの時差を選ぶ。

WORLD時刻表示が出ている場合でも、TIME SETを押すと自動的にLOCAL時刻が表示されます。

LOCAL表示が点滅し、<=>または=>を押すごとに時差帯指示表示が左右に移動します。

TIME SETを離すと、LOCAL表示が点灯に変わり、UTCとの時差が決定します。



3 サマータイムに設定する場合は、DSTを押して☀表示を出す。

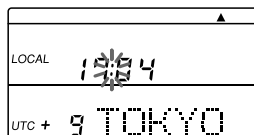
サマータイムが採用されていない地域や、サマータイムでないとき、あるいはすでに☀表示が出ているときは、手順4に進んでください。

4 TIME SETを押しながら-|←または⇒|+を押し、現在のLOCAL時刻を合わせる。

-|←または⇒|+を1回押すたびに1分ずつ変わり、押し続けると速く変わります。

5 TIME SETを離す。

「:」が点滅し始め、時計が動き出します。



ラジオ受信中に時刻を見るには

EXEを押します。もう一度EXEを押すか約10秒たつと、もとの表示に戻ります。ただし、スキャン動作中は時計表示になりません。

サマータイムを採用している地域では

サマータイム時期にはDSTを押して☀表示を出してください(前ページ手順3)。サマータイム終了時には、DSTを押して☀表示を消します。時刻表示は自動的に変わります。

サマータイムでないときに時計合わせを行った場合は、サマータイム開始時にDSTを押してください。時刻表示は自動的に変わります。

ご注意

ラジオを聞いているときは時計合わせはできません。

POWER ON/OFFを押してラジオの電源を切ってから時刻を合わせてください。

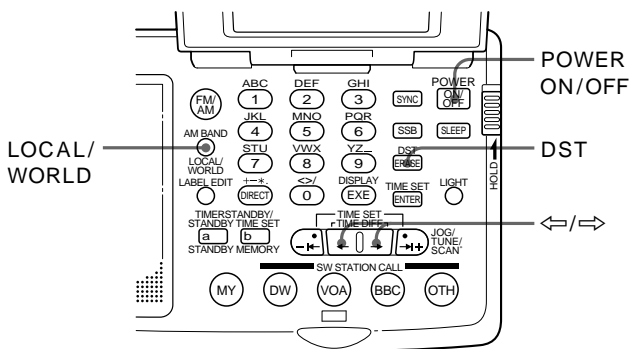
ちょっと一言

- 本機の時計は24時間表示です。
- 「0:00」の点滅を止めるには、TIME SETを押します。
- 秒まで正確に合わせるには、電話の時報サービス(117)をご利用になると便利です。

時計を合わせる(つづき)

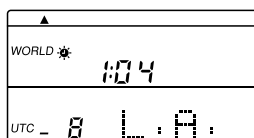
他地域の現地時刻を知る

世界の各地の現在時刻(WORLD TIME)を調べることができます(ラジオがOFFのときのみ)。



- 1 ラジオの電源が入っていたら、POWER ON/OFFを押して電源を切る。
- 2 表示窓に「LOCAL」が表示されているときには、LOCAL/WORLDを押して「WORLD」を表示させる。
- 3 ←または⇒を押して、知りたい地域の都市名かUTCとの時差を表示させる。
- 4 その地域がサマータイムのときは、DSTを押して☀表示を出す。

知りたい地域の現在時刻が表示されます。



LOCAL時刻の表示に戻すには
LOCAL/WORLDをもう一度押します。

希望の都市名または地域名が設定されていないときは
希望の地域を、UTCとの時差によって選択します。
表示される都市名(ラベル)を変更したい場合は(→「ラベルを編集する」、36ページ)。

各地の時差について

各地のUTC時刻との時差は次の表を参考にしてください。

時差 + 1:00はUTC時刻より1時間先、時差 - 1:00はUTC時刻より1時間前を表します。

UTC時刻、LOCAL時刻、時差の関係は次のようになっています。

$$(\text{時差}) = (\text{LOCAL時刻}^*) - (\text{UTC時刻})$$

* DST(サマータイム)を設定していない時刻。DSTを押しして●表示を出している場合も、時差表示は変わりません。

時差	ラベル**	地域または都市名	その他の都市	スキャン間隔
±0	LONDON	ロンドン		9kHz
+1	C.EURO	中央ヨーロッパ	アムステルダム、ストックホルム、チューリヒ、パリ、ウィーン、ブリュッセル、ベルリン、マドリード、リスボン、ローマ	
+2	CAIRO	カイロ	アテネ、イスタンブール	
+3	JEDDAH	ジェッダ	リヤド、ナイロビ、モスクワ	
+4	DUBAI	ドバイ		
+5	KARACH	カラチ		
+6	DHAKA	ダッカ		
+7	BNGKOK	バンコク	ジャカルタ	
+8	S.PORE	シンガポール	北京、ホンコン	
+9	TOKYO	東京	ソウル	
+10	SYDNEY	シドニー	グアム	
+11	SOLMON	ソロモン	ヌメア	
+12	AUKLND	オークランド	フィジー	
-11	SAMOA	サモア		
-10	HAWAII	ハワイ	ホノルル、タヒチ	
-9	ANCHRG	アンカレジ		
-8	L.A.	ロサンゼルス	サンフランシスコ、バンクーバー	
-7	DENVER	デンバー	カルガリー	
-6	CHICAG	シカゴ	ダラス、メキシコ	
-5	N.Y.	ニューヨーク	トロント、パナマ、リマ	
-4	CARACS	カラカス	サンチアゴ	
-3	RIO	リオデジャネイロ	サンパウロ、プエノスアイレス	
-2	FN.ISL	フェルナンドデノロニヤ島		9kHz
-1	AZORES	アゾレス諸島		

** 工場出荷時のラベル。変更したい場合は ➡「ラベルを編集する」(36ページ)。

MW(中波)放送の周波数ステップ(間隔)について

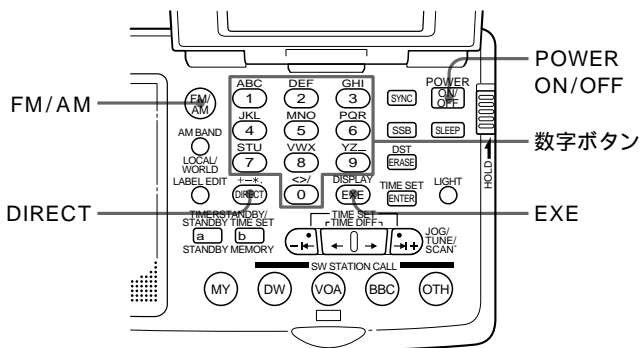
日本をはじめ世界の大多数の国々ではMW放送の周波数は9kHz間隔で配置されていますが、北米や南米など10kHz間隔で放送が行われている地域もあります。スキャン選局またはマニュアル選局では周波数ステップをお使いの地域に合わせる必要がありますが、本機ではLOCAL時刻、WORLD時刻に関係なく、ラジオOFF時に表示されているUTCとの時差により、自動的に設定されます。

いろいろな受信のしかた

周波数を直接指定して聞く

—ダイレクト選局

周波数がわかっているときは、数字ボタンで入力すれば、すばやく正確に選局できます。



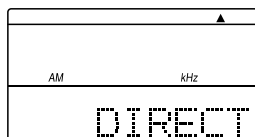
1 POWER ON/OFFを押してラジオの電源を入れる。

2 FM/AMを押してFMまたはAMを選ぶ。

短波(SW)、中波(MW)、長波(LW)を聞くときはAMを選びます。

3 DIRECTを押す。

表示窓の周波数表示が消え、「DIRECT」と表示されます。



4 数字ボタンを押して、聞きたい放送局の周波数を入力する。

FMの場合：小数点を入力する必要はありません。

例)84.7MHzのときは、8 4 7の順に押します。

AMの場合：周波数の最後に0が3つ続くときは省略できます。

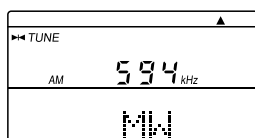
例)10000kHzのときは、1 0の順に押します。

それぞれのボタン操作は、10秒以内に行ってください。

最小入力桁は、FMが0.05MHz(50kHz)で、AMが1kHzです。

5 EXEを押して決定する。

放送を受信すると「▶◀ TUNE」表示が点灯します。



入力を間違えたときは

DIRECTを押すと入力を取り消されます。手順3から操作をやり直してください。

TRY AGAIN表示が出たら

選んだバンドの受信可能周波数以外の周波数を入力すると、ピープ音が鳴り、「TRY」、「AGAIN」と順に表示されます。

周波数を確かめて、手順3から操作をやり直してください。

ご注意

- 手順3～5の各操作は10秒以内に行ってください。10秒以上たつとそれまで聞いていた周波数に戻ってしまいます。このときは、もう一度手順3からやり直してください。
- ピープ音はBEEP OFFに設定されていると鳴りません(➡「ピープ音を消す」、43ページ)。

その他の操作

こんなときは	使うつまみ、押すボタン
周波数を微調整する	← ←、←、⇒、⇒ +
音量を調節する	VOL
ラジオの電源を切る*	POWER ON/OFF

* 電源を入れると、電源を切る前に聞いていた放送局を受信します。

受信状態を良くするには

FM放送

ロッドアンテナを伸ばして向きや角度を変える。

(➡「アンテナの伸ばしかた」、5ページ)。



MW、LW放送

内蔵のバーアンテナが働くので、ロッドアンテナをたたみ、本体の向きを変える。



SW放送

ロッドアンテナを垂直いっばいに伸ばす。

SWは、付属の外部アンテナをお使いいただくとより安定した受信をお楽しみいただけます(➡「付属の外部アンテナを使う」、32ページ)。



ちょっと一言

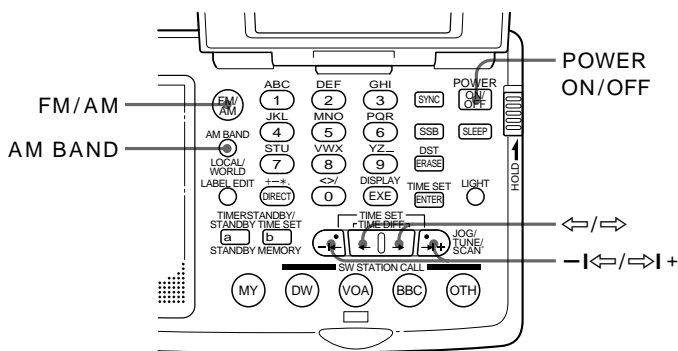
- ヘッドホンを使うと、FMステレオ放送を楽しむことができます。FMステレオ放送はST・MONOスイッチでステレオとモノラルを切り換えることができます。雑音が多くて聞き取りにくい場合は、MONOにしてください。ステレオ効果はなくなりますが、雑音が減り、より安定した受信状態が得られます。
- ニュース番組などを聞くとときは、TONEスイッチをNEWSに合わせると人の声などが聞きやすくなります。音楽番組を聞くとときはMUSICに合わせます。
- このラジオは、内部スプリアス(ラジオ内部に使われている発振器の信号を受信すること)により、3.0MHzおよび3.64MHzの周波数付近では受信しにくいことがあります。

いろいろな受信のしかた(つづき)

手動で周波数を選んで聞く

— マニュアル選局

←|⇐、⇨|+ または ⇐、⇨ ボタンで周波数を送ります。外側のボタンでは大きく、内側のボタンでは細かく周波数が変わります。



1 POWER ON/OFFを押してラジオの電源を入れる。

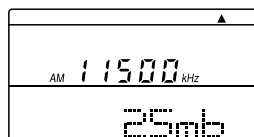
2 FM/AMを押してFMまたはAMを選ぶ。

SW、MW、LWを聞くときはAMにします。

3 AMを選んだときは、AM BANDを押したまま←|⇐または⇨|+ ボタンを押して、MW(中波)、LW(長波)またはメーターバンド(短波)を選ぶ。

バンドまたはメーターバンド名と、最小周波数が表示されます。

FM放送を聞く場合は手順4に進んでください。



4 ←|⇐、⇨|+ または ⇐、⇨ ボタンをくり返し押して、聞きたい局を探す。

ボタンを押すたびに、次の間隔で周波数が変わります。(カッコ内はSSBモード)

バンド	← ⇐または⇨ +	⇐または⇨
FM	0.05 MHz	0.05 MHz
SW	5 kHz (1 kHz)	1 kHz (0.1 kHz**)
MW	9 kHz または 10 kHz* (1 kHz)	1 kHz (0.1 kHz**)
LW	9 kHz (1 kHz)	1 kHz (0.1 kHz**)

* 周波数間隔は、LOCAL時刻、WORLD時刻に関係なく、ラジオOFF時に表示されている時差に対応して自動的に設定されます(→「MW(中波)放送の周波数ステップ(間隔)」について、15ページ)

**0.1 kHzの単位は表示窓には表示されません。

ちょっと一言

- -|⇐または⇒|+ ボタンを押したままにすると、スキャン選局になります(⇒「自動的に局を探して聞く - スキャン選局」、20ページ)。
- ⇐または⇒ボタンを押したままにすると、周波数が速く進み、離すと止まります。AMバンド(LW、SW、LW)では、150~29999kHzの範囲で周波数が連続して変わります。

各バンド・メーターバンドの周波数範囲

(単位: AMはkHz、FMはMHz)

放送バンド	周波数範囲	スキャン選局時	メーターバンド	
AM	LW	150~529	153~522	-
	MW	530~1620	530~1620*	-
			531~1620**	-
	SW	1621~29999	2250~2550	120メーター
			3150~3450	90メーター
			3850~4050	75メーター
			4700~5100	60メーター
			5900~6250	49メーター
			7100~7400	41メーター
			9400~10000	31メーター
			11500~12150	25メーター
			13500~13900	22メーター
			15000~15700	19メーター
			17450~18000	16メーター
18850~19100			15メーター	
21450~21950	13メーター			
25600~26100	11メーター			
FM	76.00~108.00	76.00~108.00	-	

* 周波数ステップが10kHzのとき(15ページ)

** 周波数ステップが9kHzのとき(15ページ)

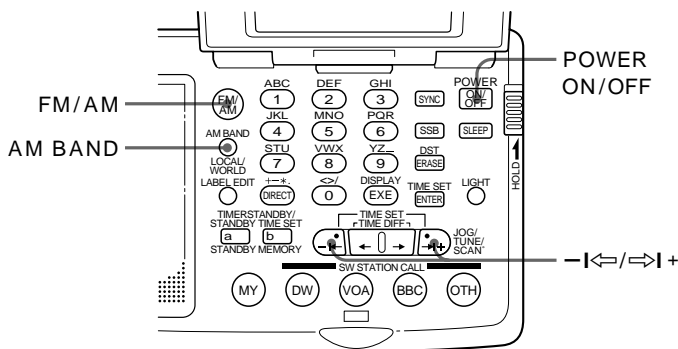
ご注意

実際の短波(SW)の放送バンドと本機のメーターバンドは多少異なります。詳しくは「ウェーブハンドブック」をご覧ください。

いろいろな受信のしかた(つづき)

自動的に局を探して聞く

— スキャン選局



1 POWER ON/OFFを押してラジオの電源を入れる。

2 FM/AMを押してFMまたはAMを選ぶ。

SW、MW、LWを聞くときはAMにします。

3 AMを選んだときは、AM BANDを押したまま \leftarrow または \rightarrow を押して、MW、LWまたはメーターバンドを選ぶ。

FM放送を聞く場合は手順4に進んでください。

4 \leftarrow または \rightarrow を押したままにし、数字が動き始めたら指を離す。

「SCAN」が表示されます。

放送局を自動的に受信して、約3秒間止まり、次の放送局を探します(スキャン選局)。



バンドまたはメーターバンド内でスキャンをくり返します(→「各バンド・メーターバンドの周波数範囲」、19ページ)。

SSB受信時は150~29999kHzの間でスキャンをくり返します。

5 聞きたい局が受信されたところで、 \leftarrow または \rightarrow を押してスキャンを止める。

「SCAN」表示が消え、バンド名が表示されます。

ちょっと一言

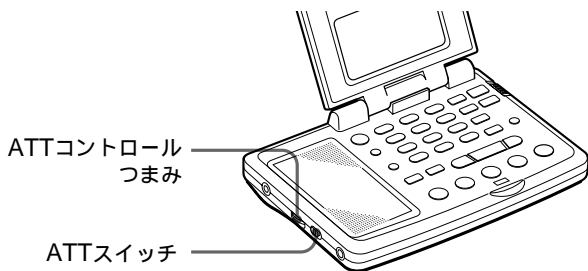
- \leftarrow ⇐ を押し続けてスキャンを開始すると周波数の降順に、⇨ \rightarrow で開始すると昇順にスキャンします。
- スキャン方向を変えるには、逆方向の \leftarrow ⇐ または ⇨ \rightarrow を3秒以上押ししてください。スキャン再開してしまったあと、直前にスキャン停止していた局に戻りたい場合などに便利です。
- 電波の強い夜間のMW放送や混信が多いときは、スキャンで止まる周波数が多すぎることがあります。この場合はATTスイッチをONにして、ATTコントロールつまみで調節してください(→「スキャンストップを調節するには」、下記)。通常はOFFにして使います。

スキャンストップを調節するには

— ATTスイッチとATTコントロールつまみの使いかた

受信感度を調節することができます。

スキャン動作中、ひんぱんにスキャンストップが起きる場合や、混信が多いときなどにお使いください。通常はATTスイッチをOFF(受信感度が最大の状態)にしてお使いください。



ATTスイッチをONにすると、ATTコントロールつまみが有効になります。ATTコントロールつまみをMAXの方向に回すほど受信感度が低くなり、弱い信号は受信しないで、強い信号だけを受信するようになります。

ご注意

ATTコントロールつまみをMAXの方向に回しすぎると、弱い信号が受信できなくなります。ATTコントロールを使う必要がないときは、必ずATTスイッチをOFFにしてください。

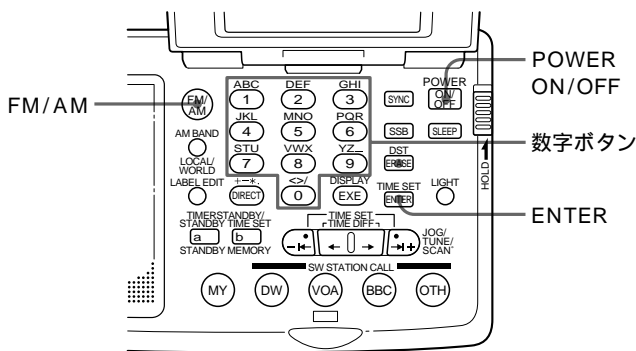
いろいろな受信のしかた(つづき)

いつも聞く局を記憶させて聞く

— プリセット選局

数字ボタンにFM10局、AM10局の計20局を記憶できます。

局を記憶させる



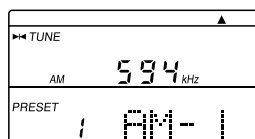
1 POWER ON/OFFを押してラジオの電源を入れる。

2 記憶させたい放送局を受信する。

3 ENTERを押したまま、数字ボタン(0から9)のいずれかを押す。

ENTERを押したままにすると「PRESET MY」表示が点滅します。

数字ボタンを押すとピープ音が鳴り、選んだボタンに放送局が記憶されます。プリセット番号とプリセットラベルが表示されます。



ご注意

選んだ番号のボタンにあらかじめ放送局が記憶されていた場合、新しい放送局が上書きされ、記憶されていた放送局は消えます。また、ラベルは初期設定に戻ります。

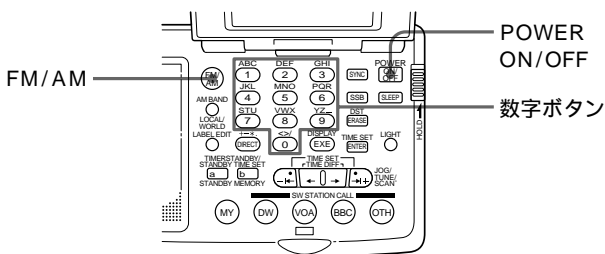
プリセットラベルの初期設定

周波数を新たに記憶させた場合、ラベルは右の初期設定に戻ります。

ラベルを変更したい場合は →「ラベルを編集する」(36ページ)。

ボタン	AM	FM
1	AM-1	FM-1
2	AM-2	FM-2
3	AM-3	FM-3
4	AM-4	FM-4
5	AM-5	FM-5
6	AM-6	FM-6
7	AM-7	FM-7
8	AM-8	FM-8
9	AM-9	FM-9
0	AM-0	FM-0

記憶させた局を受信するには



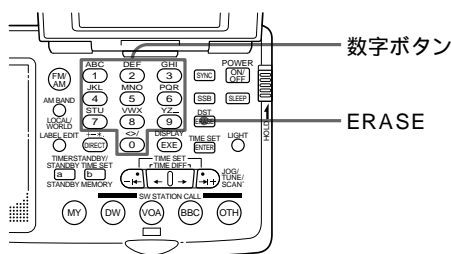
- 1 POWER ON/OFFを押してラジオの電源を入れる。
- 2 FM/AMを押してFMまたはAMを選ぶ。
- 3 聞きたい局が入っている数字ボタン(0から9)を押す。
記憶させている放送局が受信されます。

メモリーに周波数が記憶されていない場合
ボタン(0から9)を押すとピープ音が鳴り、「MEMORY」,「EMPTY」と
順に表示され、もとの状態に戻ります。

ご注意

- お買い上げ時、プリセットメモリーに周波数が記憶されている場合があります。
- BEEP OFFに設定されているとピープ音は鳴りません(→「ピープ音を消す」, 43ページ)。

記憶させた局を消すには



- 1 消したい局が入っている数字ボタン(0から9)を押す。
- 2 ERASEを押し続ける。
ERASEを押している間プリセット番号が点滅します。
約3秒後にピープ音が鳴り、記憶されていた放送局が消えます。プリセット番号とプリセットラベル表示が消えます。

ご注意

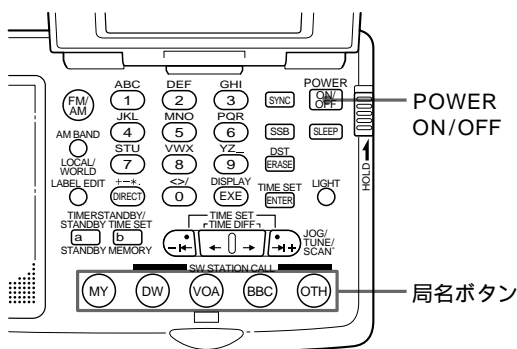
記憶させた放送局を消した場合、ラベルも同時に消えます。

いろいろな受信のしかた(つづき)

局名ボタンで探して聞く

— SW STATION CALL

DW, VOA, BBC, OTH(others)の各局名ボタンを押すと、本機底面に収納されているROM*(SW STATION CALL ROM)に記憶されている各局の周波数を順次スキャンし、受信できた周波数で自動的に止まります。



*Read Only Memory = 読み出し専用メモリー

1 お使いになる地域の時差を正しく合わせる。

LOCAL時刻の場合 → 「現在時刻を合わせる (12ページ)

WORLD時刻の場合 → 「他地域の現在時刻を知る (14ページ)

SW STATION CALLは、LOCAL時刻、WORLD時刻に関係なく、設定されている時差に対応する地域で受信できる周波数だけを選択して呼び出します。時差設定はお使いになる地域に合わせて正しく行ってください。

2 POWER ON/OFFを押してラジオの電源を入れる。

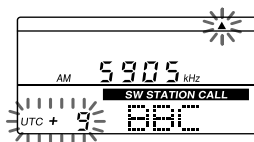
3 希望の局名ボタンを押す。

「SW STATION CALL」と、選択した放送局名と周波数が表示されます。

UTCとの時差と時差帯指示表示が3秒間点滅し、点灯に変わります。

時差設定が正しいかどうか、確認してください。

イラストの周波数は、実際に表示される周波数と異なる場合があります。



4 もう一度、同じ局名ボタンを押す。

選択した放送局の周波数を低い順にスキャンし、放送を受信すると止まります。

同じ局名ボタンを押すと、スキャンを再開します。

スキャンを止めるには
スキャン中に同じ局名ボタンを押します。

スキャンを行わないで1つずつ周波数を呼び出すには
局名ボタンを押しながら←、⇒または←|、⇒|+を押します。
←|⇒または⇒|+を押し続けると速く進み、離すと止まります。

ちょっと一言

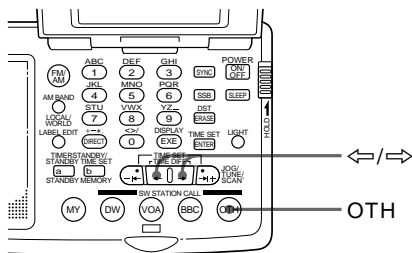
電波の強い夜間や混信が多いときは、スキャンで止まる周波数が多すぎる場合があります。この場合はATTスイッチをONにして、ATTコントロールつまみで調節してください。⇒「スキャンストップを調節するには」(21ページ)。通常はOFFにして使います。

SW STATION CALLで受信できる放送局

局名ボタン	放送局
DW	DW (Deutsche Welle) の英語、ドイツ語放送
VOA	VOA (Voice of America) の英語放送
BBC	BBC (British Broadcasting Corporation) の英語放送
OTH	以下の5局のうち、あらかじめ1つを設定して使用*: R.NED (Radio Nederland) の英語、オランダ語放送 RFI (Radio France International) の英語、フランス語放送 R.JPN (Radio Japan) の英語、日本語放送 REE (Radio Exterior de España) の英語、スペイン語放送 CRI (China Radio International) の英語、中国語放送

*OTHボタンの放送局の設定のしかた

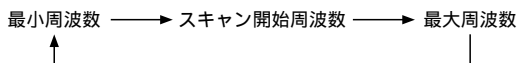
設定はラジオの電源を切った状態で行います。
OTHボタンを押しながら←または⇒ボタンを押して、設定したい放送局が表示されたらOTHボタンを離します。



受信の操作は、他のSW STATION CALL局名ボタンと同じです。

放送局が受信できないとき

スキャンしたすべての周波数で放送が受信できなかった場合、スキャンを開始した周波数に戻ったところでスキャンが止まり、ピープ音が鳴ります。



短波放送は、太陽の黒点による大気圏現象など、さまざまな要因によって電波の伝わり方に影響がでます。また、SW STATION CALL ROMに収められている主要放送局は、季節の変わり目、その他の理由により周波数や放送時間を変更することがあります。このような場合、SW STATION CALLによる放送局の受信ができない場合があります。

SW STATION CALL ROMの更新について

放送局の周波数変更に対応するため、本機はSW STATION CALL ROMを新しいものと交換できるようになっています。最新のSW STATION CALL ROMは有償にて(株)Fコーポレーションより販売しています。ROMは毎年10月頃更新されます。2～3年に一度更新していただくことをおすすめします。

購入については、同梱の「最新のSW STATION CALL ROMの購入について」をご覧くださいの上、(株)Fコーポレーションにお申し込みください。ROMの交換方法については、「SW STATION CALL ROMの交換のしかた」(45ページ)をご覧ください。

ご注意

- SW STATION CALL ROMに収められている主要短波放送局の国際放送の周波数は、放送時間帯が限られているものが多くあります。放送時間帯以外の時には、何も受信できないか、お使いの地域のローカル局など他の放送局を受信することがあります。
- 「SW STATION CALL」が表示されているときに、マニュアル選局など他の選局方法で周波数を変えると、「SW STATION CALL」表示は消えます。
- 設定している時差の地域で受信できる周波数がROMに1つもないときに局名ボタンを押した場合、ピープ音が鳴り、「MEMORY」、「EMPTY」と順に表示され、もとの状態に戻ります。
- SW STATION CALL ROMが入っていないときに局名ボタンを押した場合、ピープ音が鳴り、「NO」、「ROM」と順に表示され、もとの状態に戻ります。また、「SW STATION CALL」が表示されているときにSW STATION CALL ROMが外れると、ピープ音が鳴り、「NO」、「ROM」と順に表示され、マニュアル選局になります。
- SW STATION CALL ROMが入っているにもかかわらず、「NO」、「ROM」と順に表示された場合、ROM接点部の接触不良の可能性ががあります。ROM接点部を綿棒でクリーニングしてください(➡「SW STATION CALL ROM接点部のクリーニングのしかた」、45ページ)。
ラジオ本体のROM収納部の接点パネルは、クリーニング等しないでください。変形して接触不良の原因となります。

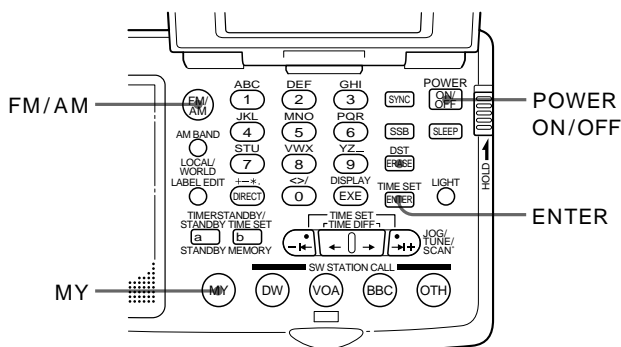
いろいろな受信のしかた(つづき)

記憶させた局を探して聞く

— マイメモリー選局

FM/SW/MW/LWの周波数を、最大100個までMYボタンに記憶し、メモリスキャンすることができます。

周波数を記憶させる



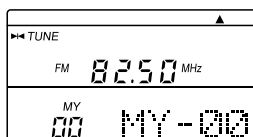
1 POWER ON/OFFを押してラジオの電源を入れる。

2 記憶させたい放送局を受信する。

3 ENTERを押したまま、MYを押す。

ENTERを押したままにすると「PRESET MY」表示が点滅します。

MYを押すとピーブ音が鳴り、マイメモリー番号00～99のなかで、まだ記憶されていない最小の番号に記憶されます。マイメモリー番号とマイメモリーラベルが表示されます。



マイメモリーラベルの初期設定

マイメモリーに周波数を記憶させると、「MY-xx (xxはメモリー番号)」というラベルが自動的につきます。

ラベルを変更したい場合は →「ラベルを編集する (36ページ)」。

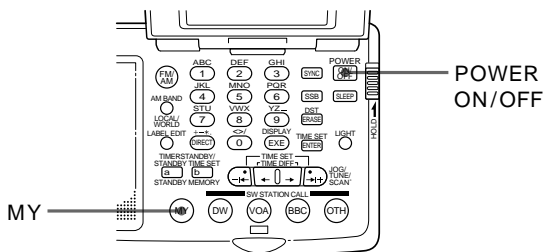
ご注意

お買い上げ時、マイメモリーに周波数が記憶されている場合があります。その場合は消去してから記憶させてください(→「記憶させたマイメモリーを消すには」、29ページ)。

ちょっと一言

- マイメモリー番号00～99まですべて記憶された状態でMYを押すと、ピーブ音が鳴り、「MEMORY」、「FULL」と順に表示され、もとの状態に戻ります。
- マイメモリー選局は、時差の設定とは関係ありません。

記憶させたマイメモリーをスキャンする



1 POWER ON/OFFを押してラジオの電源を入れる。

2 MYを押す。

マイメモリーが呼び出されます。

3 もう一度MYを押す。

マイメモリーのスキャンが始まり、放送を受信すると止まります。
もう一度MYを押すとスキャンを再開します。

スキャンを止めるには
マイメモリースキャン中にMYを押します。

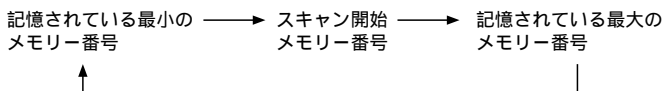
スキャンを行わないで1つずつ周波数を呼び出すには
MYを押しながら \leftarrow 、 \rightarrow または \leftarrow 、 \rightarrow を押します。
 \leftarrow または \rightarrow を押し続けると速く進み、離すと止まります。

ちょっと一言

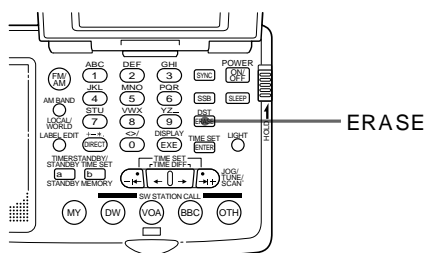
- マイメモリーは、記憶されているマイメモリー番号のみをスキャンし、記憶されていない番号は飛ばします。
- 周波数の順にマイメモリーに記憶させると、スキャン速度が最も速い条件にすることができます。
- マイメモリーに周波数が1つも記憶されていないときにMYボタンを押した場合、ピープ音が鳴り、「MEMORY」、「EMPTY」と順に表示され、もとの状態に戻ります。
- 電波の強い夜間や混信が多いときは、スキャンで止まる周波数が多すぎることがあります。この場合はATTスイッチをONにして、ATTコントロールつまみで調節してください(→「スキャンストップを調節するには」、21ページ)。通常はOFFにして使います。

放送局が受信できないとき

スキャンしたすべての周波数で放送が受信できなかった場合、スキャンを開始したメモリー番号に戻ったところでスキャンが止まり、ピープ音が鳴ります。



記憶させたマイメモリーを消すには



1 消したいマイメモリー番号を呼び出す。

2 ERASEを押し続ける。

ERASEを押している間マイメモリー番号が点滅します。

約3秒後にピープ音が鳴り、記憶されていた放送局が消えます。マイメモリー番号とマイメモリーラベル表示が消えます。

ご注意

記憶させた放送局を消した場合、ラベルも同時に消えます。

記憶させたマイメモリーを変更するには

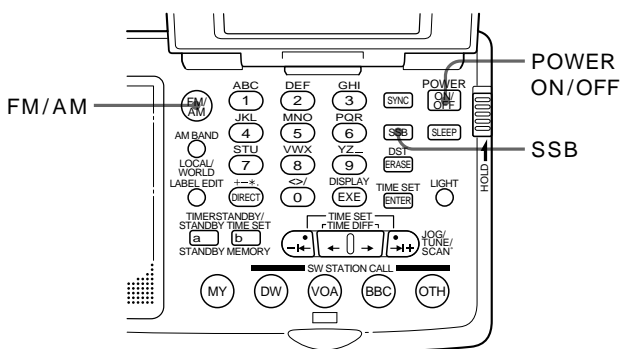
すでに記憶されているマイメモリー番号に、別の周波数を記憶させることはできません。一度そのメモリー番号に記憶されている周波数を消してから、新しい周波数を記憶させてください。

ご注意

マイメモリーは、まだ記憶されていない最小の番号に記憶されます。変更するために消したメモリー番号より小さい番号のメモリーが空になっていると、新しい周波数はその番号に記憶されてしまいます。

SSBやCWを受信する

SSB(Single Side Band)通信やCW(Continuous Wave)通信を受信することができます。



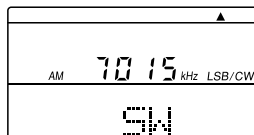
1 POWER ON/OFFを押してラジオの電源を入れる。

2 FM/AMを押して、AMを選ぶ。

3 SSBを押して、「USB」または「LSB/CW」を選ぶ。

SSBを押すごとに次のように表示が切り換わります。

(通常) USB LSB/CW



4 周波数を合わせて受信する。

受信のしかたは「いろいろな受信のしかた」(16～29ページ)をご覧ください。

ちょっと一言

SSB、CWについて詳しくは「ミニ知識」(52ページ)をご覧ください。

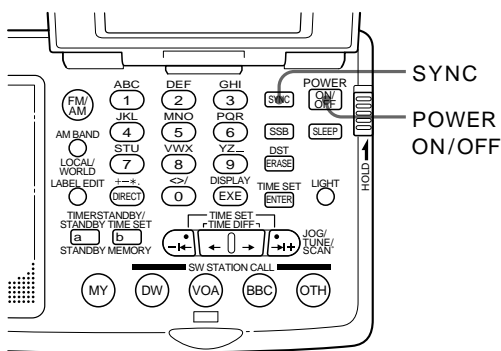
ご注意

- USBやLSB/CWの状態を各メモリーに記憶させることはできません。受信中はUSBやLSB/CWでは0.1 kHz単位で選局ができますが、メモリーに記憶するときは、周波数の小数点以下は切り捨てられます。
- USBやLSB/CWの状態で、AM周波数が記憶されているメモリーを呼び出した場合、USBやLSB/CWの状態は継続されます。

AM放送を良い状態で受信する

— 同期検波

同期検波回路により、AM放送 (特にSW) を明瞭に受信することができます。



受信のしかた

1 POWER ON/OFFを押してラジオの電源を入れる。

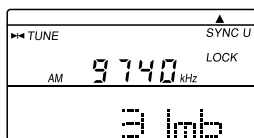
2 放送を受信する。

受信のしかたは「いろいろな受信のしかた (16~29ページ) をご覧ください。

3 SYNCをくり返し押して、「SYNC U」または「SYNC L」のいずれか聞きやすい方を選ぶ。

SYNCを押すごとに次のように表示が切り換わります。

(通常) SYNC U SYNC L



同期検波が働くと「LOCK」表示が点灯します。

ちょっと一言

同期検波について詳しくは「ミニ知識 (52ページ) をご覧ください。

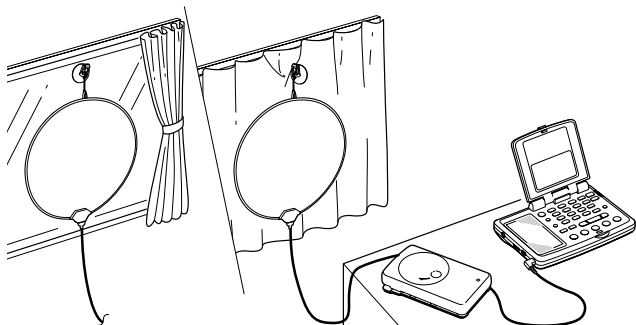
ご注意

- 電池が消耗していると、同期検波が解除されることがあります。
- SYNC L (またはU) が表示されていても、受信している信号が弱いと同期検波が働かず、「LOCK」表示が点灯しないことがあります。
- SYNC L (またはU) の状態を各メモリーに記憶させることはできません。
- SYNC L (またはU) の状態で、AM周波数が記憶されているメモリーを呼び出した場合、SYNC L (またはU) の状態は継続されます。

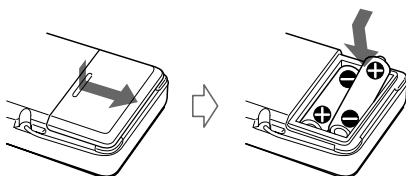
付属の外部アンテナを使う

付属の短波放送専用アクティブアンテナAN-LP2を使って、より安定したSW受信をお楽しみいただけます。アンプが内蔵されていますので、室内でも屋外同様に良好な受信状態が得られます。

付属の外部アンテナが使用できる周波数は、19ページの表にある120メートルから11メートルの各メートルバンドの短波放送帯です。FM、MW、LWを受信する場合は必ずラジオから本アンテナをはずしてください。



乾電池を入れる



- 1 アンテナコントローラーの電池入れのふたを開ける。
- 2 単3形乾電池を2本入れる。
- 3 ふたを閉める。

乾電池の持続時間

ソニー単3形 (R6)マンガン乾電池使用時 (JEITA*) 約40時間

* JEITA(電子情報技術産業協会)規格による測定値です。

実際の電池持続時間は使用する機器の状況により変動する可能性があります。

乾電池の交換時期

乾電池が消耗してくると、アンテナコントローラーのPOWERランプが暗くなります。そのときは、2本とも新しい乾電池に交換してください。

外部アンテナを使う

1 アンテナモジュールをゆっくり広げる。

顔や、周りの人や物にぶつからないように注意してください。

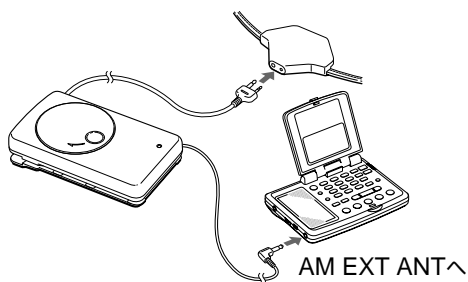


2 アンテナコントローラーから、内部に巻き取られた長いコードを止まるところまで引き出し、アンテナモジュールにつなぐ。

3 アンテナモジュールを窓ガラスやカーテンにつける。

前ページのイラストのように、吸盤やクリップを使い固定してください。

4 アンテナコントローラーの短いコードを、ラジオのAM EXT ANT (AM外部アンテナ入力) 端子につなぐ。



アンテナコントローラーの電源がラジオの電源に連動し、POWERランプが点灯します。

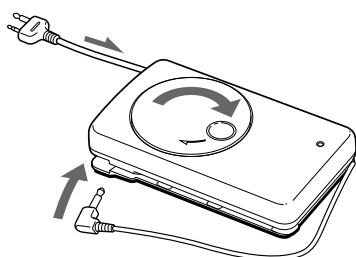
ラジオのATTスイッチは、OFFにしてください。

設置について

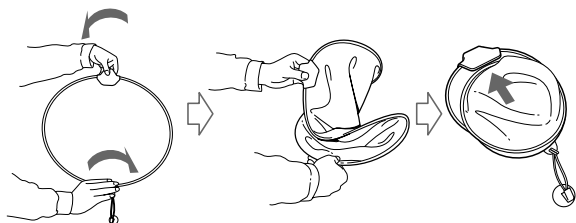
- アンテナモジュールは、窓際など、受信状態のよいところに設置してください。
- アンテナコントローラーの長いコードをラジオに近づけると感度が悪くなる場合がありますので、なるべく離してお使いください。
- 蛍光灯やテレビ、電話、パソコンなどは雑音の原因となることがありますので、ラジオやアンテナをなるべく離してお使いください。
- 外部アンテナはなるべく道路から離れたところに設置してください。
- 屋外では使わないでください。
- 外部アンテナでお使いになるときは、ラジオのロッドアンテナはたたんでおいてください。

収納する

- 1 アンテナモジュール、アンテナコントローラー、ラジオの接続をはずす。
- 2 長いコードをアンテナコントローラー内部に巻き取る。
- 3 短いコードはアンテナコントローラーの周りに巻き付けて、固定する。



- 4 アンテナモジュールをひねるようにしてたたんで、固定し、キャリングケースに入れる。

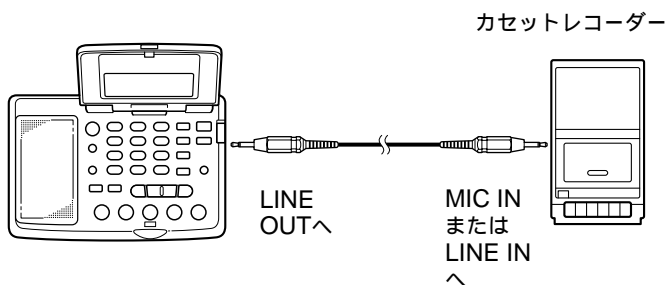


ご注意

- FM、MW、LWを受信する場合は必ずラジオから付属のアンテナをはずしてください。取り付けたままではロッドアンテナやラジオ内部のMW/LW用パーアンテナが働かず、受信できません。
- 付属の外部アンテナは本機専用のアンテナです。他のラジオでは使えません。
- AM EXT ANT端子に推奨以外の外部アンテナをつながないでください。この端子にはアンテナ用電源として直流電圧が出力されています。

放送を録音する

本機を接続ケーブルでカセットレコーダーとつなぎ、放送を録音することができます。



便利な使いかた

- 1 接続ケーブル(別売り)を使って、本機とカセットレコーダーをつなぐ。

カセットレコーダーに合った接続ケーブルをお使いください。

カセットレコーダー		接続ケーブル (別売り)
タイプ	接続ジャック	
モノラル	MIC IN(ミニジャック)	RK-G135
ステレオ	MIC IN(ミニジャック)	RK-G134
	LINE IN(ミニジャック)	RK-G136
	LINE IN(ピンジャック)	RK-G129

- 2 録音したいラジオ番組を受信する。

- 3 テープレコーダーを録音状態にする。

ステレオのテープレコーダーで録音したとき

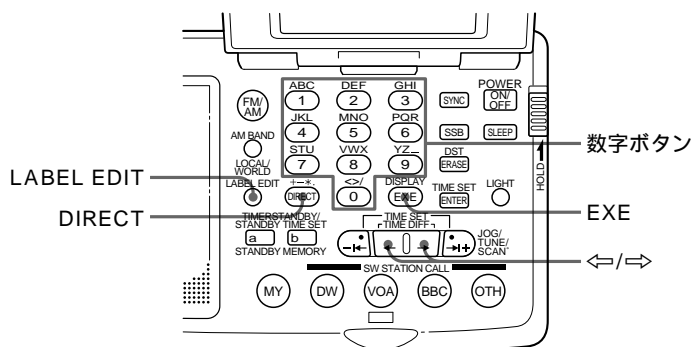
FMステレオ放送はステレオで録音され、AM放送はモノラルで両方のチャンネルに録音されます。

ちょっと一言

録音レベルは、ラジオのVOL(音量)調節つまみの位置に関係なく一定です。

ラベルを編集する

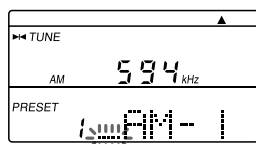
ラベル(プリセットした周波数の放送局名や、UTCとの時差の都市名として表示させる名前)を、6文字までの英数字によって自由につけることができます。



1 プリセット選局 (22ページ)、マイメモリー選局 (27ページ)、世界時計機能 (14ページ)、スタンバイ機能 (38ページ) によって、編集したいラベルを表示させる。

2 LABEL EDITを押す。

ラベルの1文字目が点滅します。



3 <=>または=>を押して、文字の点滅を変更したい文字に移動する。

4 数字ボタン(0から9)およびDIRECTボタンを押して、入力したい文字を選ぶ。

各ボタンを押すとボタンの上に書かれている文字の1文字目が入力されます。同じボタンを続けて押すと入力される文字が次のように変わります。

数字ボタン1を押した場合：A → B → C → 1

① A B C 1	② D E F 2	③ G H I 3
④ J K L 4	⑤ M N O 5	⑥ P Q R 6
⑦ S T U 7	⑧ V W X 8	⑨ Y Z <u> </u> 9
DIRECT + - * .	⑩ < > / 0	—

(注)空白文字
(空白文字は「アンダーバー」
が点滅します)

5 手順3と4を繰り返して、すべての文字を編集する。

それぞれのボタン操作は、20秒以内に行ってください。

6 EXEを押す。

ピーブ音が鳴り、表示中の文字がラベルとして設定されます。

文字の点滅が止まったときは

文字編集中の各操作は20秒以内に行ってください。20秒以上たつともとのラベル表示に戻ってしまいます。このときは、もう一度はじめからやり直してください。

編集を途中でやめるには
LABEL EDITを押します。

ご注意

- SW STATION CALLのラベルを変更することはできません。
- ピーブ音はBEEP OFFに設定されていると鳴りません(→「ピーブ音を消す」、43ページ)。
- プリセットボタンに新たな放送局を上書きすると、ラベルは初期設定に戻ります(→「プリセットラベルの初期設定」、22ページ)。

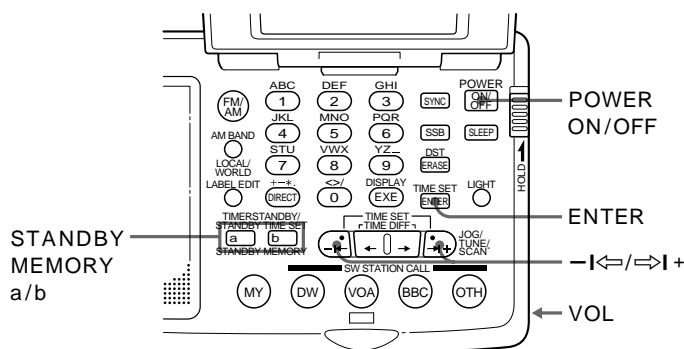
タイマーを使う

ラジオまたはブザーで目覚める

—スタンバイ機能

ラジオ番組を目覚ましとして使うことができます。a / b ボタンに別々の放送局と時刻を設定できます。

ブザーで目覚めたいときは、「ブザーで目覚めるには」(40ページ)をご覧ください。

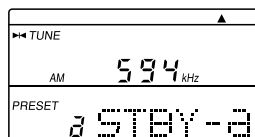


本機の時計を合わせてから操作してください。(12ページ)

- 1 聞きたい放送局を受信する。
- 2 VOLつまみで音量を調節する。
- 3 ENTERを押したままSTANDBY MEMORY aまたはbを押す。

ENTERを押したままにすると「PRESET MY」表示が点滅します。

STANDBY MEMORY aまたはbを押すとピーブ音が鳴り、選んだスタンバイメモリーボタンに放送局が記憶されます。スタンバイメモリー番号(「a」か「b」)とスタンバイメモリーレベルが表示されます。



- 4 POWER ON/OFFを押してラジオの電源を切る。
- 5 手順3で選んだ、STANDBY MEMORYのaまたはbを押したまま、-|<=>|+をくり返し押して、ラジオをつけたい時刻を設定する。

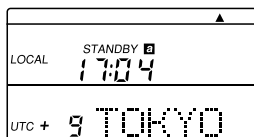
aまたはbを押している間、表示窓に「STANDBY」と「a」または「b」が点滅します。

6 STANDBY MEMORY aまたはbを離す。

「STANDBY」と「**a**」または「**b**」は点灯に変わり、予約が完了します。

設定した時刻になると予約した放送局を受信します。

時計表示は現在の時刻表示に戻ります。



予約を確認するには

電源を切った状態で、STANDBY MEMORYのaまたはbを押し続けます。押し続けている間、予約されている時刻が表示されます。

予約した時刻を変更するには

手順4以降の操作をして、新たに時刻を予約します。

予約を解除するには

電源を切った状態で、STANDBY MEMORYのaまたはbを押して

「STANDBY」**a**」または「**b**」表示を消します。

このときaまたはbボタンは1秒以内に離してください。

1秒以上押し続けた場合は手順5の状態になり、再度予約時刻を設定することができます。

設定した時刻になり予約が動く

ラジオの電源が入り、「SLEEP」が点灯し、予約した放送局を受信します。約60分後に自動的に電源が切れます。

ご注意

- スタンバイ機能は表示窓の時計設定と設定された時刻が一致したときに働きます。LOCAL、WORLDのうち、働かせたい時刻を表示させておいてください。
- 新しく放送局を記憶させると前に記憶させていた放送局は消え、ラベルは初期設定に戻ります。
a = 「STBY-a」
b = 「STBY-b」
ラベルを変更したい場合は →「ラベルを編集する」(36ページ)。
- 予約時刻を設定するときは、必ず電源を切ってください。ラジオ受信中は、時刻設定はできません。

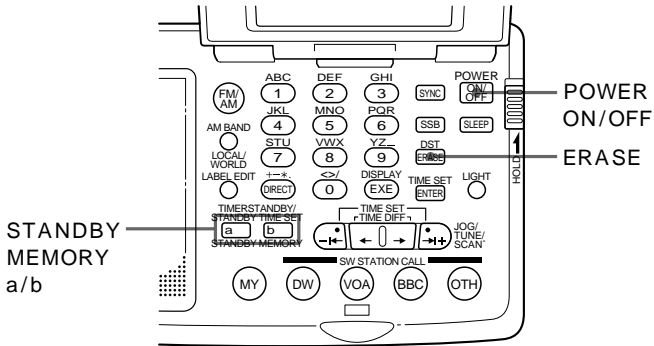
ちょっと一言

- 予約を一時解除するときはラジオの電源を切り、HOLDスイッチを矢印方向にずらし「**o-m**」を表示させます。「**o-m**」表示を消すと予約は復帰します(→「誤動作を防ぐ - ホールド機能」、42ページ)。
- 一度設定した予約は、STANDBY MEMORY aまたはbボタンを押して、「STANDBY」**a**」または「**b**」表示を消して予約を解除しない限り、毎日働きます。また予約を解除しても、新しい設定を記憶させない限り、STANDBY MEMORY aまたはbに記憶されている放送局と予約時刻は消えません。
- 予約が動く、ラジオを聞いていても、自動的に予約した放送局の受信に切り換わりします。
- STANDBY **a** **b**」を同時に設定できます。一方の予約でラジオがついているときに、もう一方の予約が働いた場合、後の予約に設定した放送局の受信に切り換わりします。
- STANDBY **a** **b**」に同じ時刻を設定したときは、STANDBY **a**」のみが働きます。

タイマーを使う(つづき)

ブザーで目覚めるには

STANDBY MEMORYのaまたはbに周波数が記憶されていない場合、予約時刻になると、ブザー音が鳴ります。周波数が記憶されている場合は消去してください。



1 POWER ON/OFFを押してラジオの電源を入れる。

2 STANDBY MEMORY aまたはbを押す。

記憶されている放送局が呼び出されます。

周波数が記憶されていない場合は、ピープ音が鳴り、「MEMORY」、「EMPTY」と順に表示されます。手順4に進んでください。

3 ERASEを押し続ける。

ERASEを押している間スタンバイメモリー番号が点滅します。

約3秒後にピープ音が鳴り、記憶されていた放送局が消えます。スタンバイメモリー番号とスタンバイメモリーラベル表示が消えます。

4 「ラジオまたはブザーで目覚める(38ページ)の手順4以降の操作をして、ブザーを鳴らしたい時刻を設定する。

設定した時刻になるとブザーが鳴ります。

途中でブザーを止めるには

LIGHTボタン以外のボタンを押します。

止めない場合、約60分後に自動的に止まります。

ご注意

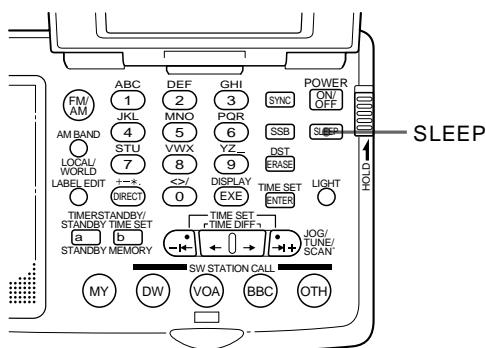
- ブザー音の音量はVOLつまみで調節できません。
- スタンバイメモリーのブザー音はBEEP OFFに設定されていても鳴ります。
- 記憶していた放送局が消された場合、ラベルも同時に消えます。

タイマーを使う(つづき)

ラジオを聞きながら眠る

— スリープタイマー機能

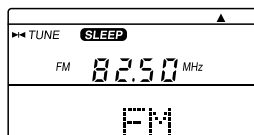
スリープタイマーを使って約60分後に自動的に電源を切ることができます。



便利な使いかた

1 SLEEPを押す。

ラジオがOFFの場合は電源が入ります。
「SLEEP」が点灯します。



2 聞きたい放送局を選ぶ。

約60分後に、自動的に電源が切れます。

途中でラジオを止めるには
POWER ON/OFFを押します。

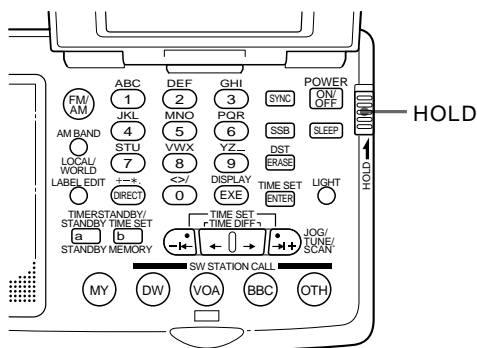
ちょっと一言

- ラジオの電源が入った状態でSLEEPを押した場合は、そのまま「SLEEP」が点灯し、約60分後に自動的に電源が切れます。
- SLEEPを押して電源を入ると、前に聞いていた放送局が受信されます。
- 「SLEEP」が表示されている状態でSLEEPを押すと、新たに押した時点から約60分後に電源が切れます。


誤操作を防ぐ— ホールド機能

ホールド機能を働かせると、ボタン操作を受け付けなくなり、持ち運ぶときにあやまって電源が入ったり、ラジオを聞いているときの誤操作を防ぐことができます。

また、ホールドによりスタンバイ機能を一時的に解除することができます。




1 HOLDスイッチを矢印の方向にずらします。

「」表示が点灯し、ボタン操作を受け付けなくなります。



ホールドを解除するには

HOLDスイッチを矢印と反対の方向にずらして「」表示を消します。

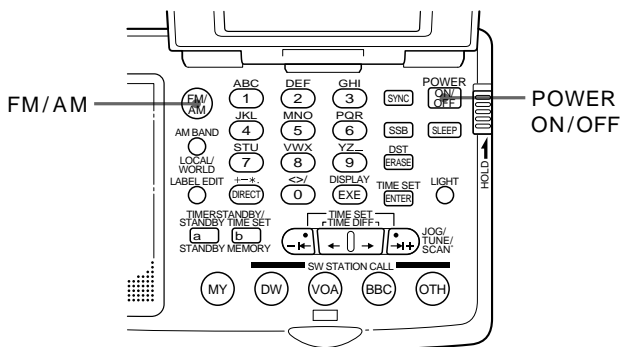
スタンバイの設定を一時解除するには

ホールド機能を働かせると、スタンバイの設定を一時解除することができます(➡「ラジオまたはブザーで目覚める - スタンバイ機能」、38ページ)。

この機能は電源を切っているときのみ働きます。

ビープ音を消す

お好みにより、ビープ音(操作時に鳴る確認音)を消すことができます。
設定は電源を切った状態で行ってください。



便利な使いかた

1 ラジオの電源が入っていたら、POWER ON/OFFを押して電源を切る。

2 FM/AMボタンを2秒以上押し続ける。

ビープ音が鳴り、「BEEP」、「OFF」と順に表示されます。ビープ音が鳴らなくなります。

もう一度FM/AMボタンを2秒以上押し続けると、「BEEP」、「ON」と順に表示され、ビープ音が鳴るようになります。

ちょっと一言

ビープ音を切る設定にしても、スタンバイ機能のブザー音は影響を受けません(→「ブザーで目覚めるには」、40ページ)。

使用上のご注意とお手入れ

置き場所について

次のような場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。

- 暖房器具の近く、窓を閉め切った自動車内(特に夏季)。
- 直射日光や紫外線が長時間当たる場所(夏季の海岸など)。
- 極端に温度が高いところ(周囲温度40 以上)や寒いところ(0 以下)。暑いところでは、表示が「88.88...」と見えることがあります。寒いところでは表示文字の変わりかたがゆっくりになることがあります。(常温に戻せばもとに戻ります)。
- 湿度の高いところ(風呂場など)。
- ほこりの多いところ。
- 強い振動や衝撃のあるところ。

本体について

- 汚れたときは、柔らかい布でからぶきしてください。シンナーやベンジンなどは表面をいためますので使わないでください。
- キャッシュカード、定期券など磁気を利用したカード類をスピーカーに近づけないでください。スピーカー内部の磁石の影響でカードの磁気の変化し、使えなくなることがあります。
- イヤーレシーバーをご使用中、肌に合わないと感じたときは早めに使用を中止して医師またはお客様ご相談センターに相談してください。

アクティブアンテナAN-LP2の取り扱いについて

- アンテナモジュールを水洗いしないでください。
- アンテナモジュールをたたむ時に折らないように注意してください。
- 長い間使わないときは、しまっておいてください。

異常や不具合が起きたら

万一、異常や不具合が起きたとき、異物が中に入ったときは、すぐに電源を切り、(ACパワーアダプターは必ずコンセントから抜いて)内部を開けずにお買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご相談ください。

サービス依頼について

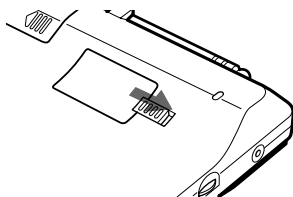
修理のために本体をお預けになると、修理内容により、プリセット局の記憶が消えてしまう場合があります。重要なデータは控えをとっておくことをおすすめします。

特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在または内容を漏らしたり窃用(せつよう)したりすることは、電波法で禁止されています。

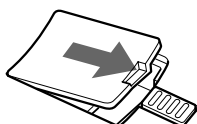
SW STATION CALL ROMの交換のしかた

SW STATION CALL ROMの購入については、同梱の「最新のSW STATION CALL ROMの購入について」をご覧ください。また、(株)Fコーポレーションにお申し込みください。

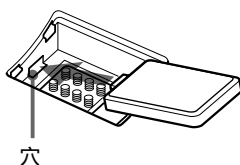
- 1 底面にあるROM収納部ふたを押さえたままRELEASEつまみを矢印の方向に動かし、ゆっくりとふたから手を離します。



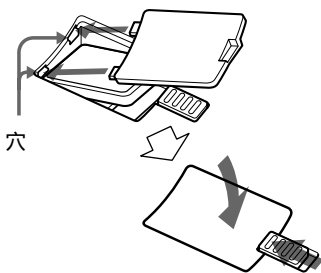
- 2 浮き上がったふたを矢印の方向に引っ張ってはずし、ROMおよび収納部の接点に触れないように、入っていたROMを取り出す。



- 3 新しいROMを、接点を下にし、突起が収納部の穴に入るようにして置く。
ROMおよび収納部の接点には触れないでください。



- 4 ROM収納部ふたの2箇所の突起を収納部の穴に差し込み、ふたを上から押さえた状態で、RELEASEつまみを矢印と逆の方向に動かしてロックする。



ご注意

ROMの接点部分やラジオ本体のROM収納部の接点パネには手を触れないでください。故障の原因となります。

SW STATION CALL ROM接点部のクリーニングのしかた

SW STATION CALL ROMが入っているにもかかわらず、「NO」、「ROM」と順に表示された場合、ROM接点部の接触不良の可能性があります。





上記の手順に従いROMをはずし、接点部を綿棒でクリーニングしてください。


ご注意

ラジオ本体のROM収納部の接点パネは、クリーニング等しないでください。変形して接触不良の原因となります。

故障かな？と思ったら

本機の調子が悪い場合、修理に出す前にもう一度取扱説明書をお読みになり、次のような点検をしてください。

悪いところは？	原因は？	直しかた
ボタン操作を受け付けない	ホールド機能が働いている	HOLDスイッチを矢印と反対の方向にずらす(「  」表示を消す(42ページ))
POWER ON/OFFを押しても電源が入らない	電池の入れかたが違う 電池が消耗している ACパワーアダプターがはずれている	 を正しく入れ直す 新しい電池を入れる しっかり差し込む
表示窓に表示が出ない	電池の入れかたが違う	 を正しく入れ直す
表示窓の文字が薄く見にくい	電池が消耗している	新しい電池を入れる
表示窓の文字の変わりが遅い	極端に寒いところ、湿気が多いところで使っている	適当な場所を選ぶ
音がまったく聞こえない	極端に寒いところで使っている 音量が最小になっている ヘッドホンが差し込まれている 電池の入れかたが違う	適当な場所を選ぶ 音量を調節する ヘッドホンを抜く  を正しく入れ直す
雑音が入る、音が悪い	電池が消耗している 選局やアンテナの調節が不十分 電波が弱い ATTスイッチがONになっている	新しい電池を入れる 正しく同調する、または、アンテナを正しく使う 建物や乗り物の中などでは窓際で聞く ATTスイッチをOFFに切り換える(21ページ)
ダイレクト選局ができない	ボタン操作の間隔が10秒以上空いている	それぞれのボタン操作を10秒以内に行う
放送局を覚えさせられない	覚えさせかたが間違っている	ENTERを押したまま数字ボタン0~9を押す(22ページ)
覚えさせたはずの放送局が受信できない	覚えさせた放送局の番号が間違っている 覚えさせた周波数を誤って消去した	正しい番号を選ぶ もう一度覚えさせる(22ページ)

予約した時刻にラジオが鳴らない	STANDBY MEMORY a またはbを押し忘れている	押す(38ページ)
	ホールド機能が働いている	HOLDスイッチを矢印と反対の方向ににずらす (「  」表示を消す(42ページ))
	電池交換に3分以上かかった	タイマー予約をやり直す
	音量が最小になっている	音量を調節しておく
	STANDBY MEMORYに周波数が記憶されていない	記憶させる(38ページ)
SW STATION CALLが動作しない	ROMが入っていない	ROMを入れる(45ページ)
	ROMが接触不良	ROMの接点をクリーニングする(45ページ)
マイメモリーに記憶できない	00~99番まですべて記憶されている	入れたい番号のメモリーを消去してから記憶させる(29ページ)

その他

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、テクニカルインフォメーションセンターまたは添付の「ソニ - ご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニ - サ - ビス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

ソニーワールドモデルをお買い上げのお客様へ

ワールドモデルとは

日本でも海外でも使用できるように海外、国内の電気事情(電源電圧AC 100~240V)に合わせた規格と仕様で作られたモデルです。

海外での保証とアフターサービスについて

- 保証期間は、お買い上げ日より、日本国内では1年間、海外では90日間です。
- 海外での修理やアフターサービスについてご不明な点は、保証書に記載の海外ソニーサービス特約店にお問い合わせください。

部品の保有期間について

当社ではラジオの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、テクニカルインフォメーションセンターまたはサ - ビス窓口にご相談ください。

主な仕様

ICF-SW07

回路方式	FM : スーパーヘテロダイン方式 AM : デュアルコンバージョンスーパーヘテロダイン方式
受信周波数	FM : 76 ~ 108MHz (TV : 1 ~ 3ch*1) SW : 1621 ~ 29999kHz MW : 530 ~ 1620kHz LW : 150 ~ 529kHz
中間周波数	FM : 10.7MHz SW/MW/LW : 55.845MHz (1st) 455kHz (2nd)
出力端子	録音端子 (ステレオミニジャック) 1個 録音出力レベル約245mV、出力インピーダンス10kΩ以下 φ端子 (ステレオミニジャック) 1個 16Ω
スピーカー	直径 約40mm、8、1個
実用最大出力	200mW (JEITA*2/DC)
電源	DC 3V、単3形乾電池 2本 外部電源端子 DC IN 3V ・付属のACパワーアダプターAC-E323を接続して日本国内にてAC100V、海外にて120V、付属のACプラグアダプターを使って220-240V、50/60Hzで使用可能
最大外形寸法	約135 × 32.5 × 91mm (幅/高さ/奥行き) (JEITA)
質量	約220g ご使用時 約257g (単3形乾電池含む)

アクティブアンテナAN-LP2

電源	DC 3V 単3形乾電池 2本
大きさ	アンテナモジュール ご使用時: 約490 × 480 × 17.8 mm 収納時: 約205 × 180 × 17.8 mm (幅/高さ/奥行き)(JEITA) アンテナコントローラー 約120 × 29.5 × 72 mm (幅/高さ/奥行き) (JEITA)
重さ	アンテナモジュール 約92g アンテナコントローラー 約144g (電池含む)

付属品

ソニー単3形(R6)乾電池(4)*3 (お試用*5)
ステレオヘッドホン(1)
イヤークッション(2)
ACパワーアダプター(1)*4
ACプラグアダプター(1)*4
アクティブアンテナ AN-LP2(1)
本体キャリングケース(1)
アンテナキャリングケース(1)
ウェーブハンドブック(1)
ハウトゥーキャッチザウェーブ(1)*1
取扱説明書(1)
保証書(1)
ソニーご相談窓口のご案内(1)*1

*1 日本国内モデルのみ

*2 JEITA(電子情報技術産業協会)規格による測定値です

*3 日本国内モデル、ワールドモデルのみ

*4 イギリス、オーストラリア、中国(香港含む)、アルゼンチンモデルを除く

*5 付属の乾電池はお試用です。購入する場合は、ソニーアルカリ乾電池をおすすめします。

主な仕様(つづき)

別売りアクセサリ

日本国内のみ販売

LW/MW/SWワイドレンジアンテナ AN-1、AN-102

接続ケーブルRK-G135(ステレオミニプラグ↔ミニプラグ)

RK-G134(ステレオミニプラグ↔ステレオミニプラグ)

RK-G136(ステレオミニプラグ↔ステレオミニプラグ)

RK-G129(ステレオミニプラグ↔ピンプラグx2)

国によって扱っているアクセサリが違います。詳しくはお買い上げ店、サービス窓口、海外ソニーサービス特約店にご相談ください。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

ご案内

ソニーではお客様技術相談窓口として「テクニカルインフォメーションセンター」を開設しています。お使いになってご不明な点、技術的なご質問、故障と思われるときの相談は下記までお問合せください。

テクニカルインフォメーションセンター

電話:048-794-5194

受付時間:月～金 午前9時から午後6時まで(祝日、年末年始、弊社休日を除く)
ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名
- 故障の状態:できるだけ詳しく
- お買い上げ年月日

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはおお客様ご相談センターへ

● ナビダイヤル……………  0570-00-3311

(全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます)

● 携帯電話・PHSでのご利用は…… 03-5448-3311

● Fax ……………… 0466-31-2595

受付時間:

月～金
9:00～20:00

土・日・祝日
9:00～17:00

三二知識

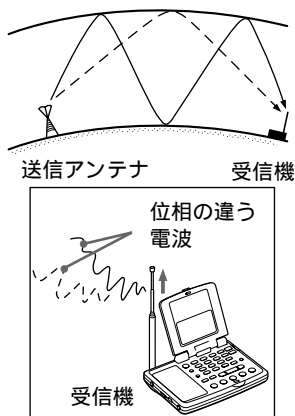
上空を埋めつくす世界の電波。この電波の種類や特長をよくつかんだうえ、ラジオ放送受信をお楽しみください。

付属のウェーブバンドブックは、そのためのわかりやすいガイドブックとなるはずです。よく読んで、ラジオと一緒に保管してください。

以下はよく使われる用語の説明です。

フェージング

短波放送などを聞いていると、音が大きくなったりすることがありますが、これはラジオの故障ではなく、フェージングと呼ばれる現象です。フェージングは、電離層の変化で反射される電波の強さが変わったり、いろいろな経路を通して伝わってきた電波がお互いに干渉し合ったりして起こるものです。たとえば、電離層で1回反射された電波と2回反射された電波とが同時にラジオに入ってくると、2つの電波の位相(波形の位相)がずれていることがあり、それらが干渉し合って電波の強いところと弱いところができ、音が大きくなったり小さくなったりするわけです。



受信した放送局の判別のしかた

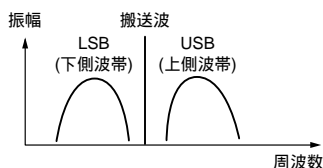
選局すると、次から次へと多くの放送が聞こえてきますが、その中のどれが自分の聞きたい局か、今受信しているのはどの放送か、というのはなかなかわかりにくいものです。このようなときは次のことに注意してみてください。

- 受信周波数 ...表示周波数を放送局の周波数一覧表示などで調べます。
- 放送中のアナウンス ...通常15~30分おきに局名やコールサインをアナウンスしています。
- インターバルシグナル...たいいていの放送局では番組の初めや終わりに特有の音楽や動物の鳴き声を放送します。これらを覚えておくと次からはその判別が容易です。

放送時間や番組内容について詳しく知りたいかたは、希望の放送局に申し込むとプログラムやパンフレットを送ってくれます。

シングル サイド バンド SSB(Single Side Band)とは

普通の放送では音声などの信号は、下図のように上側波帯と下側波帯という2つの周波数成分を用いて送られています。これらのうちどちらか一方をもちいるのがSSB方式で、搬送波より高いものをUSB(上側波帯)、低いものをLSB(下側波帯)と言います。両方を用いるDSB(ダブル サイド バンド)に比べて混信が少なく、業務用通信やアマチュア無線で広く利用されています。SSB方式では一般には、USBが採用されていますが、10MHz以下のアマチュアバンドでは、LSBが使われることが多くなっています。SSB波は普通のラジオで受信してもモガモガという音が聞こえるだけで、音声としては聞けません。SSB波を正常な音声に戻すためには、本機に内蔵されているようなBFO(Beat Frequency Oscillator)という特殊な回路が必要です。

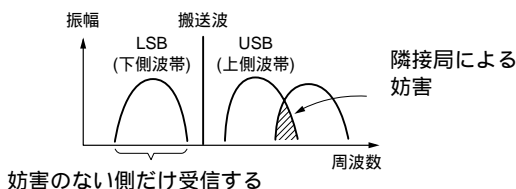


コンティニューアス ウェーブ CW(Continuous Wave)とは

普通の放送は搬送波を音声信号で変調して行いますが、CWでは変調しない、搬送波の断続によって信号を送るもので、一般にモールス信号で通信が行われます。この通信もBFO回路を通すことによりビート音の断続として受信できるようになりますが、通信内容を判断するためにはモールス符号を理解する必要があります。CW通信も各種業務用やアマチュア無線に用いられています。

同期検波とは

短波放送の受信を困難にしている大きな原因は、フェージング(51ページ)によるひずみと隣接局によるビート妨害です。この2つの障害の改善に大きな効果を発揮するのが同期検波方式です。フェージングによるひずみは、途中経路でさまざまな電波の干渉によって搬送波が弱められた結果、過変調となって発生するものです。本機では、まず受信した電波から搬送波のみを取り出し、その後、同期検波回路によって、この搬送波と周波数はもちろん、位相まで同期したレベル変動のない純粋な周波数を作り出して、この周波数を搬送波として受信信号に補っています。これにより、ひずみが軽減されます。また、AM(短波、中波、長波)放送では、普通、搬送波の上下の周波数帯(USBとLSB)を使って変調信号を送るDSB(Double Side Band)方式が用いられていますが、隣接局による妨害はUSBかLSBのどちらか一方のみが影響を受けている場合が多いのです。本機の同期検波回路では、DSB方式のUSBかLSBのどちらか一方のみを抽出できますので、妨害を受けていない方を探して受信することにより、妨害のない明瞭な受信を楽しむことができます。



この説明書は再生紙を使用しています。

Warning

To prevent fire or shock hazard, do not expose the unit to rain or moisture.

To avoid electrical shock, do not open the cabinet.

Refer servicing to qualified personnel only.

Features

- **World clock feature**
Find out the time for any place in the world by selecting a city name.
- **Worldwide coverage with FM stereo/SW/MW/LW reception**
Simple and precise tuning with the quartz controlled PLL (Phase Locked Loop) synthesizer system.
FM: 76–108 MHz
SW: 1621–29999 kHz
MW: 530–1620 kHz
LW: 150–529 kHz
Refer to the supplied “Wave Handbook” for more information.
- **SW STATION CALL tuning**
Tune in to major short wave stations just by pressing the station buttons. The radio automatically chooses the frequencies used in your time zone from the ROM data and scans for them.
- **MY-Memory tuning**
Memorizes and scans up to 100 frequencies of your choice.
- **Four other tuning methods to suit your needs**
 - **Direct tuning:** tune in by inputting the frequency digits directly.
 - **Manual tuning:** tune in by manually changing the frequency step by step.
 - **Scan tuning:** scans automatically through the band and stops at reception.
 - **Preset tuning:** tune in by recalling a preset broadcast station with the single press of a button.
- **Label editing**
Label preset frequencies, time zones, etc., with a station name, city name, etc., or any combination of up to 6 alphanumeric letters.

- **Built-in timer operation**
Turns on the radio automatically at any preset time to a station of your choice. Preset two individual standby-times and frequencies under STANDBY MEMORY a and b.
- **Sleep timer**
Set the sleep timer and fall asleep to the radio. The timer turns off the radio automatically after approximately 60 minutes.
- **Stereo FM reception**
Use the supplied stereo headphones to enjoy stereo FM.

Table of contents

Preparation

Location of parts and controls	4
Power sources	9
Operating on batteries	9
Operating on house current	11
Setting the clock	12
Setting the Local Time	12
Finding out the time in other areas of the world	14

Listening to the radio

Various ways of reception	16
Direct tuning	16
Manual tuning	18
Scan tuning	20
Preset tuning	22
SW STATION CALL tuning	24
MY-Memory tuning	27
Receiving SSB and CW Transmissions	30
Adjusting for optimum AM reception	
—Synchronous detection	31

Other operations

Using the supplied external antenna	32
Recording broadcasts	35
Editing labels	36
Using the timer	38
Waking up to the radio or buzzer	
— Standby function	38
Falling asleep listening to the radio	
— Sleep timer	41
Using the hold function	42
Turning off the beep	43

Additional information

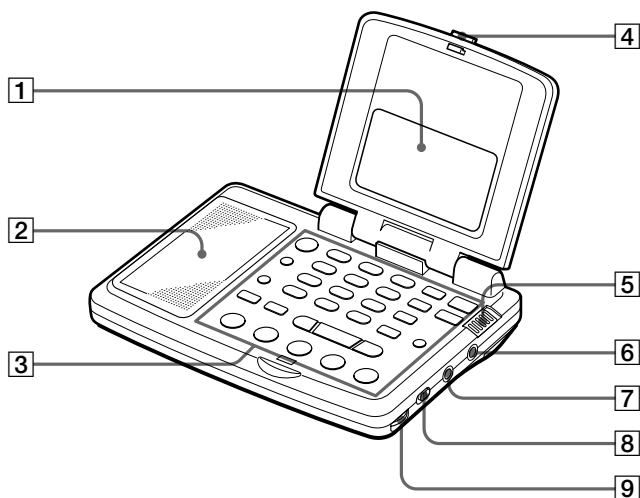
Precautions and maintenance	44
Troubleshooting	47
Specifications	49
Tips on radio waves	50


GB

Location of parts and controls

Refer to the pages in the parentheses for details.

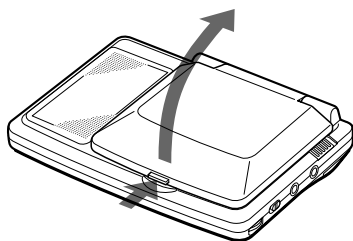
Front



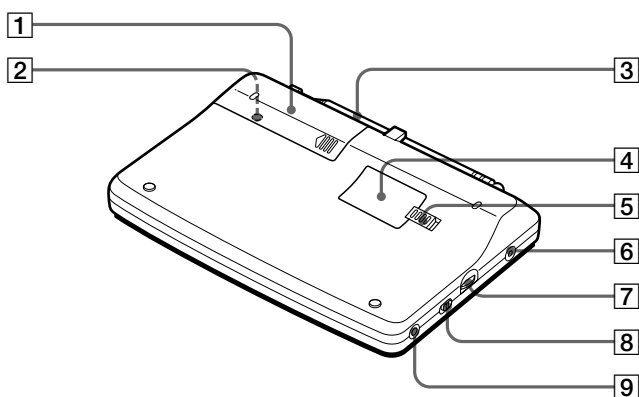
- | | |
|--|---|
| 1 Display (7) | 7 LINE OUT (recording output) jack (35) |
| 2 Speaker | 8 TONE/ST•MONO (stereo•monaural) selector (17) |
| 3 Controls (6) | 9 VOL (volume) control (17) |
| 4 OPEN button (4) | |
| 5 HOLD switch (42) | |
| 6  (headphones) jack | |

Opening the cover

Push the OPEN button to open the cover. Adjust the angle to your choice.



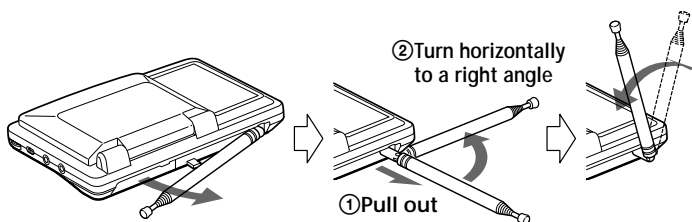
Rear



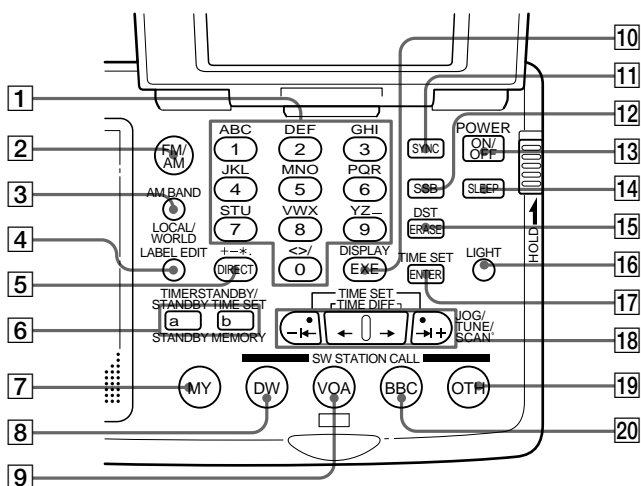
- | | |
|--|--|
| <p>1 Battery compartment (9)</p> <p>2 RESET button
Press this button in the battery compartment with a pointed object when the radio fails to function properly. The clock settings, etc., will revert to the factory preset. The frequencies you have preset in the memory are retained.</p> <p>3 Telescopic antenna (17)</p> <p>4 ROM compartment lid (46)</p> | <p>5 RELEASE (ROM compartment lid slide open) switch (46)</p> <p>6 DC IN 3V \diamond \ominus \diamond (external power input) jack (11)</p> <p>7 ATT (attenuator) control (21)</p> <p>8 ATT ON•OFF (attenuator on•off) selector (21)</p> <p>9 AM EXT ANT (external antenna) jack (33)</p> |
|--|--|

Extending the antenna

Gently pull out the base of the antenna before rotating it, as shown below.

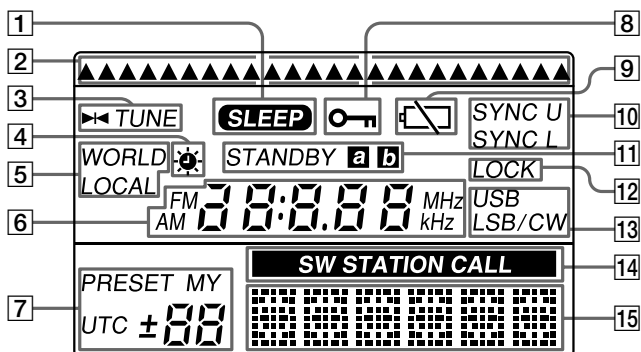


Controls



- | | |
|---|--|
| <p>1 Number buttons (16, 22, 36)</p> <p>2 FM/AM button (16, 43)</p> <p>3 AM BAND • LOCAL / WORLD (local time / world time) button (14, 18)</p> <p>4 LABEL EDIT button (36)</p> <p>5 DIRECT button (16)</p> <p>6 STANDBY MEMORY • TIMER STANDBY / STANDBY TIMESET button (38)</p> <p>7 MY button (27)</p> <p>8 DW button (24)</p> <p>9 VOA button (24)</p> <p>10 EXE • DISPLAY button (13, 16, 36)
Press to switch to clock display while operating the radio. Press again to return to the previous display. If you do not press the button, the display will return to the previous condition in about 10 seconds.</p> | <p>11 SYNC (Synchronous detection) button (31)</p> <p>12 SSB (Single Side Band) button (30)</p> <p>13 POWER ON/OFF button (16)</p> <p>14 SLEEP button (41)</p> <p>15 ERASE • DST (Daylight Saving Time) button (12, 23, 29, 40)</p> <p>16 LIGHT button
Press this button to illuminate the display for approximately 30 seconds.</p> <p>17 ENTER • TIME SET button (12, 22, 27, 38)</p> <p>18 JOG / TUNE / SCAN • TIME DIFF / TIME SET buttons (12, 18, 20)</p> <p>19 OTH (others) button (25)</p> <p>20 BBC button (24)</p> |
|---|--|

Display

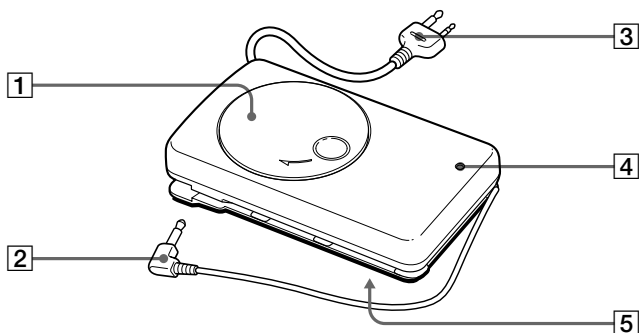


- | | |
|--|---|
| <p>1 SLEEP indicator (41)
Appears when the sleep timer is in effect.</p> <p>2 Time zone indicator (12, 14)
Points at the time zone on the map corresponding to your time difference setting.</p> <p>3 TUNE indicator (16)
Appears when a station is tuned in.</p> <p>4 ☀ (Daylight Saving Time) indicator (12, 14)
Appears when the time display is adjusted to the Daylight Saving Time.</p> <p>5 WORLD • LOCAL indicator (12, 14)</p> <p>6 Time/frequency display (12, 16)</p> <p>7 Memory number/time difference display (12, 22, 27)</p> <p>8 HOLD indicator (42)
Appears when HOLD is in effect. All buttons will be inoperative.</p> | <p>9 Battery indicator (10)</p> <p>10 SYNC U • SYNC L (synchronous detection) indicators (31)</p> <p>11 STANDBY a • b indicators (38)
Appear when standing by for timer activated reception.</p> <p>12 LOCK (synchronous detection lock) indicator (31)
Appears when synchronous detection is in effect.</p> <p>13 USB • LSB/CW (single side band/continuous wave) indicators (30)</p> <p>14 SW STATION CALL indicator (24)</p> <p>15 Label display (12, 16)
Names of the preset stations, cities, bands or meter bands are displayed.</p> |
|--|---|

Short wave active antenna AN-LP2

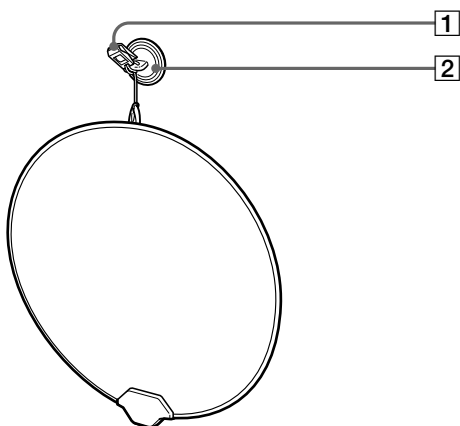
Refer to page 32 on how to use the active antenna.

Antenna controller



- 1 Cord winder
- 2 Short cord
- 3 Long cord
- 4 Power lamp
- 5 Battery compartment

Antenna module



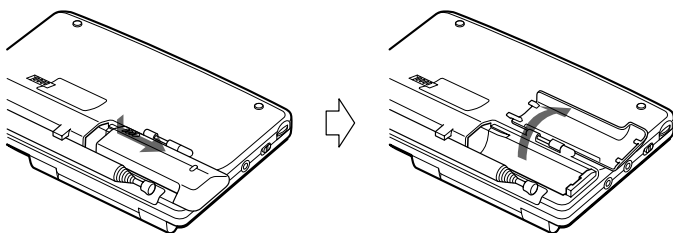
- 1 Clip
- 2 Suction cup

Power sources

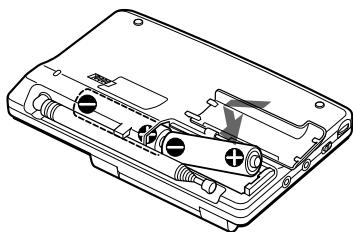
Operating on batteries

To operate the unit on house current, see “Operating on house current”, page 11.

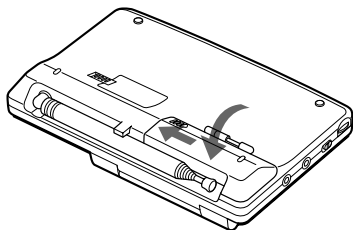
- 1 Slide and open the battery compartment lid.



- 2 Insert two R6 (size AA) batteries in the battery compartment.
Insert with correct polarity as shown.

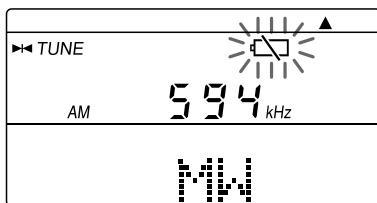


- 3 Close the battery compartment lid.



Replacing the batteries

When the batteries become weak, the sound may become weak or distorted, and “☹” will flash in the display. After that, when the batteries are used up, “☹” will light and the power of the unit will be turned off. If this happens, replace the batteries with new ones. The unit will switch to the clock mode from any other mode.



Battery Life

(JEITA*)

	Sony LR6 alkaline (size AA)	Sony R6(size AA)
FM	approx. 32 hours	approx. 10 hours
AM	approx. 23 hours	approx. 8 hours

* Measured by JEITA (Japan Electronics and Information Technology Industries Association) standards. The actual battery life may vary depending on the circumstance of the unit.

Tips

- Replace the batteries within 3 minutes. Otherwise, the clock setting will be erased. Frequencies preset in the memory are not erased.
- When the batteries are completely exhausted, all buttons except the LIGHT button will become inoperable.

The buttons will not become operable again until you replace the batteries and press POWER ON/OFF to turn on the power and clear the “☹” indications.

Notes on dry batteries

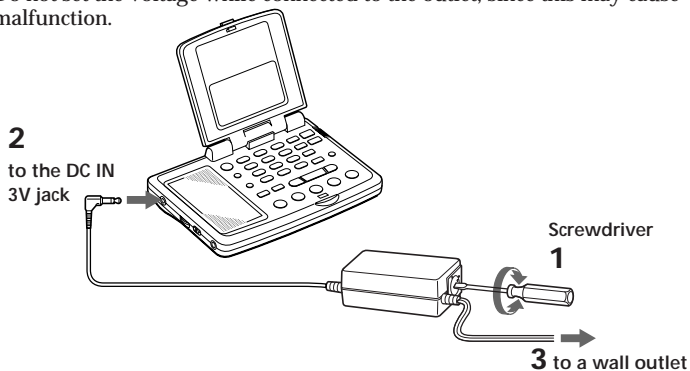
- Insert the batteries with the correct polarity.
- Do not mix new and used batteries. Do not mix different types of batteries.
- Do not try to charge dry batteries, as they cannot be charged.
- Remove the batteries when the unit is not to be used for a long time.
- Should any battery leakage occur, wipe the battery compartment thoroughly before installing new batteries.

Operating on house current

To operate the unit on house current, connect the supplied AC power adaptor* to the DC IN 3V jack of the unit.

Before connecting the AC power adaptor, be sure to set the voltage of the adaptor to your local power line voltage with a screwdriver as illustrated. The AC power adaptor does not operate when set to OFF.

Do not set the voltage while connected to the outlet, since this may cause malfunction.



Notes on the AC power adaptor

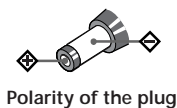
- Do not bend or twist the power cord forcibly. Do not place heavy objects on the power cord.
- When disconnecting the AC power adaptor from the wall outlet, pull out by the plug. Do not pull the cord itself.
- Disconnect the AC power adaptor from the wall outlet and the radio when the unit is not to be used for a long period of time.

Tip

When the AC power adaptor is plugged into the DC IN 3V jack, the batteries are disconnected, and the unit automatically switches to external power source.

Notes on external power sources

- Keep the batteries installed even when operating on external power, as they supply power for the unit's memory backup. Replace the batteries once a year.
- Turn off the unit when connecting or disconnecting external power sources. Otherwise, the power may go off and "⏻" may appear. In this case, turn on the power again to clear the "⏻" indication.
- When operating the unit on batteries, first disconnect the AC power adaptor from the wall outlet, then disconnect the AC power adaptor from the DC IN 3V jack of the unit. The unit will not run on batteries as long as the DC IN 3V jack is plugged in.
- Use only the recommended AC power adaptor manufactured by Sony. Using AC power adaptors with different specifications (polarity of the plug, etc.) will result in malfunction and damage to the unit.
- Use the supplied AC plug adaptor* if the AC power adaptor plug does not match your wall outlet.



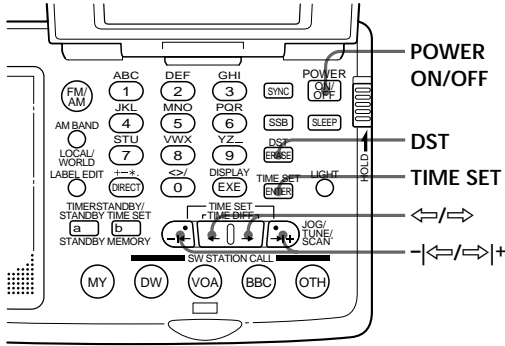
Polarity of the plug

* Not supplied for models for certain countries. See "Specifications".

Setting the clock

Setting the Local Time

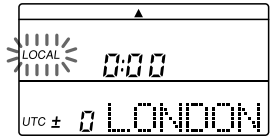
Set the clock if "0:00" flashes in the display (i.e., when you installed the batteries for the first time or after you reset the clock). Set the clock with the radio turned off.



LOCAL time signifies the time for your time zone, while WORLD time is the time for any other time zone in the world.

Clock adjustment is done in LOCAL time. Before setting the clock, refer to the table on page 15 and check the time difference between your area and the UTC (Coordinated Universal Time). Names of major cities and their time differences from the UTC are preset in the unit's memory.

- 1** If the radio is turned on, press POWER ON/OFF to turn it off.
- 2** Hold down TIME SET and press \leftarrow or \rightarrow to choose a city or the time difference between your local time and the UTC.
When TIME SET is pressed, the clock display will automatically switch to LOCAL time if WORLD time had been displayed. The LOCAL indication flashes. Each time you press \leftarrow or \rightarrow , the time zone indicator will move to the right or left.
When you release TIME SET, LOCAL indication will stop flashing and light up. Your local time zone has been selected.



- 3** Press DST if your area is now under daylight saving time.
☀ appears in the display.
If daylight saving time is not used in your area, or if ☀ is already displayed, skip this step.

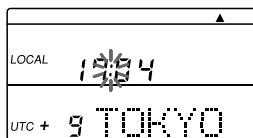
- 4** Hold down TIME SET and press \leftarrow or \rightarrow to set the local time.

Each time you press \leftarrow or \rightarrow , the current time will decrease or increase by a minute.

To change the digits rapidly, hold down \leftarrow or \rightarrow .

- 5** Release TIME SET.

“:” starts flashing and the clock starts running.




To switch to clock display while the radio is turned on

Press EXE. The current time appears for about 10 seconds and then returns to the previous display. Press EXE again to return to the previous display manually.

The display will not switch to the clock while the radio is running scan.

For areas adopting daylight saving time (summer time)

Press DST to light up the  indication if you are now in the summer time period (step 3 in the previous page). If you are now in the standard time period, press DST at the beginning of the daylight saving time period. Press again at the end of the daylight saving time period to clear the indication. The time display will be adjusted accordingly.

Note

You cannot set the clock while listening to the radio.

If the radio is on, press POWER ON/OFF first to turn off the radio.

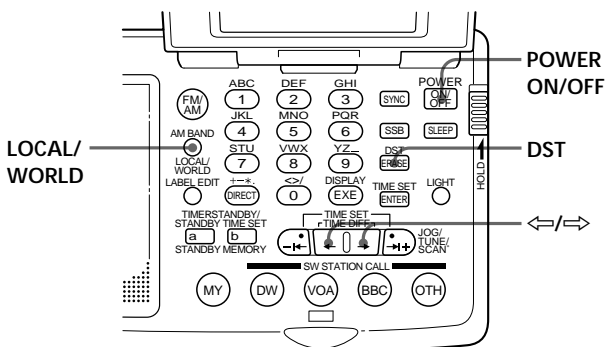
Tips

- The clock is displayed in the 24 hour system.
- Press TIME SET to stop the flashing of “0:00”.
- To adjust the time to the second, release TIME SET at the time of the tone.

Setting the clock (continued)

Finding out the time in other areas of the world

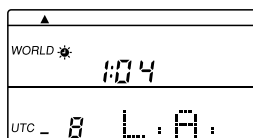
Besides your local time, you can display the time for any other area in the world (WORLD time). Turn off the radio to display the WORLD time.



- 1** If the radio is turned on, press POWER ON/OFF to turn it off.
- 2** If the LOCAL indication is displayed, press LOCAL/WORLD to switch the indication to WORLD.
- 3** Press ← or → to choose a city or the time difference with the UTC.
- 4** Press DST to light up the ☀ indication if the specified area is now under daylight saving time.

If daylight saving time is not used in the desired area, or if ☀ is already displayed, skip this step.

The current time for the area you have specified will appear in the display.



To switch back to the LOCAL time display

Press LOCAL/WORLD again.

If the desired city name or area name is not preset

Select the area by selecting the time difference with the UTC.

To edit the label (i.e., name of the city) for the time zone, see "Editing labels", page 36.

Time difference between local time and UTC

The table shows the time difference of each time zone with the UTC, which could be formulated as follows:

$$\text{Time difference} = \text{Local time}^* - \text{UTC}$$

The number of hours marked with a plus sign (+) indicate the hours ahead of the UTC, while those marked with a minus sign (-) indicate the hours behind the UTC.

Time difference	Label **	City or area	Other cities in the area	Scan step
± 0	LONDON	London		9 kHz
+ 1	C.EURO	Central Europe	Amsterdam, Berlin, Brussels, Lisbon, Madrid, Paris, Rome, Stockholm, Vienna, Zurich	
+ 2	CAIRO	Cairo	Athens, Istanbul	
+ 3	JEDDAH	Jeddah	Nairobi, Riyadh, Moscow	
+ 4	DUBAI	Dubai		
+ 5	KARACH	Karachi		
+ 6	DHAKA	Dhaka(Dacca)		
+ 7	BNGKOK	Bangkok	Jakarta	
+ 8	S.PORE	Singapore	Beijing, Hongkong	
+ 9	TOKYO	Tokyo	Seoul	
+ 10	SYDNEY	Sydney	Guam	
+ 11	SOLMON	Solomon	Noumea	
+ 12	AUKLND	Auckland	Fiji	
- 11	SAMOA	Samoa		10 kHz
- 10	HAWAII	Hawaii	Honolulu, Tahiti	
- 9	ANCHRG	Anchorage		
- 8	L.A.	Los Angeles	San Francisco, Vancouver	
- 7	DENVER	Denver	Calgary	
- 6	CHICAG	Chicago	Dallas, Mexico City	
- 5	N.Y.	New York	Lima, Panama, Toronto	
- 4	CARACS	Caracas	Santiago	
- 3	RIO	Rio de Janeiro	Buenos Aires, San Paulo	
- 2	FN.ISL	Fernando island		9 kHz
- 1	AZORES	Azores Island		

* Local time prior to DST (daylight saving time) adjustment. The DST setting does not affect the time difference indication.

** Default labels. To change the labels, see "Editing labels", page 36.

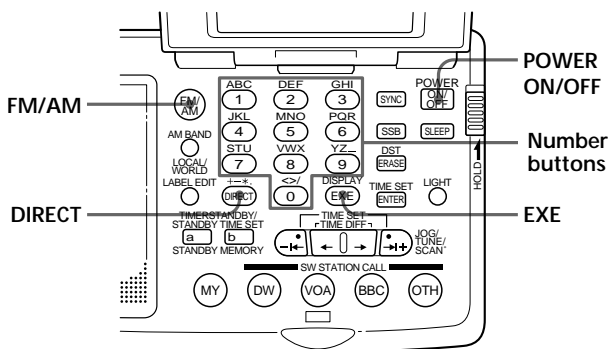
Automatic adjustment of the MW channel step

A channel step is the basic interval unit in a frequency allocation system. The MW channel step differs from country to country (10 kHz for North and South American countries, and 9 kHz for Japan, Europe and other countries). Normally, the scanning or tuning steps needs to be adjusted to match the system for the area to scan or manually tune MW frequencies. This unit, however, determines your local area from your time zone setting (the time difference from the UTC) and automatically chooses the appropriate channel step.

Various ways of reception

Direct tuning

If you know the frequency of the station you want to listen to, enter the frequency digits with the number buttons directly.



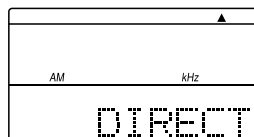
1 Press POWER ON/OFF to turn on the radio.

2 Press FM/AM to select either band.

To listen to SW (short wave), MW (medium wave) or LW (long wave) broadcasts, select AM.

3 Press DIRECT.

The frequency disappears and "DIRECT" appears in the display.



4 Press the number buttons and input the frequency of the desired station.

FM band: You can ignore the decimal point.

To enter 84.7 MHz, for example, press 8, 4 and 7.

AM band: You can ignore the last 3 digits if they are all zero.

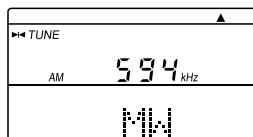
To enter 10,000 kHz, for example, press 1 and 0.

Complete each button operation within 10 seconds.

The minimum frequency step for direct input is 0.05 MHz (50 kHz) for FM, and 1 kHz for AM.

5 Press EXE to enter.

"▶▶ TUNE" appears in the display when the station is tuned in.



To correct input

Press DIRECT and repeat from step 3.

If "TRY" "AGAIN" appears in the display

When you enter an invalid frequency (i.e., a figure that is not within the frequency range of the band you chose), you will hear a beep and "TRY" "AGAIN" appears in the display.

Check the frequency and repeat from step 3.

Notes

- Complete each operation from step 3 to 5 within 10 seconds. If the display returns to the previously tuned frequency, repeat from step 3.
- The unit will not beep if the beep is set to BEEP OFF (see "Turning off the beep", page 43).

Other operations

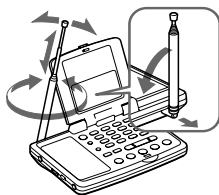
To	Press or adjust
Fine tune the reception	-I←, ←, →, ⇒I+
Adjust the volume	VOL
Turn off the radio*	POWER ON/OFF

*The radio tunes to the previously tuned frequency when you turn on the radio.

To improve reception

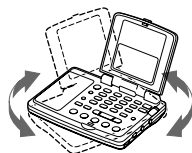
FM reception

Gently pull out the telescopic antenna and adjust the length, angle and direction (see "Extending the antenna", page 5).



MW/LW reception

Retract the telescopic antenna and rotate the unit to reorient the built-in ferrite bar antenna.



SW reception

Gently pull out the telescopic antenna vertically to its full length.

For SW reception, you can enjoy even better reception by using the supplied external antenna (see "Using the supplied external antenna", page 32).



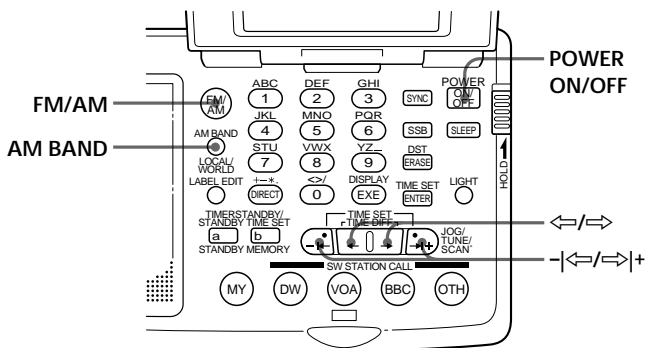
Tips

- Plug in the supplied stereo headphones to enjoy FM stereo reception. Set ST • MONO to ST or MONO to select stereo or monaural reception. Select MONO when reception is noisy or unclear.
- When listening to news programs, etc., set TONE to NEWS. Speaking voices will be heard clearer. When listening to music programs, set TONE to MUSIC.
- Reception of frequencies around 3.0MHz and 3.64 MHz may be difficult due to internal spurious signals generated by the built-in oscillators.

Various ways of reception (continued)

Manual tuning

Use $-I\leftarrow$, $\Rightarrow I+$ or \leftarrow , \Rightarrow to change the frequency manually step by step. The outer buttons ($-I\leftarrow$ and $\Rightarrow I+$) change the frequency in large frequency steps, and the inner buttons (\leftarrow and \Rightarrow) in small frequency steps.



1 Press POWER ON/OFF to turn on the radio.

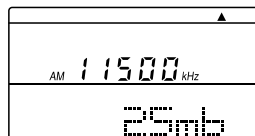
2 Press FM/AM to select either band.

To listen to SW, MW or LW broadcasts, select AM.

3 For the AM bands, hold down AM BAND and press $-I\leftarrow$ or $\Rightarrow I+$ to select MW (medium wave), LW (long wave) or a meter band (short wave).

The name of the band or the meter band and its lowest frequency appears in the display.

For FM, skip this step.



4 Press $-I\leftarrow$, $\Rightarrow I+$ or \leftarrow , \Rightarrow repeatedly to tune in to the desired broadcast station.

With each press, the frequency changes in the channel steps shown below. (The figures in the parentheses indicate the steps in the SSB mode).

Band	$-I\leftarrow$ or $\Rightarrow I+$	\leftarrow or \Rightarrow
FM	0.05 MHz	0.05 MHz
SW	5 kHz (1 kHz)	1 kHz (0.1 kHz**)
MW	9 or 10 kHz* (1 kHz)	1 kHz (0.1 kHz**)
LW	9 kHz (1 kHz)	1 kHz (0.1 kHz**)

* The frequency step is adjusted automatically to your time zone according to your local time zone setting (see "Automatic adjustment of the MW channel step", page 15).

** Units of 0.1 kHz are not indicated in the display.

Tips

- The unit starts scan tuning when \leftarrow or \rightarrow is held down (see "Scan tuning", page 20).
- The frequency changes rapidly when \leftarrow or \rightarrow is held down, and stops when released. In the AM bands (MW, SW, and LW), the unit scans continuously in the range of 150 to 29,999 kHz.

Frequency range of the bands/meter bands

The short wave range is divided into 14 bands that are generally referred to as "meter bands".

(kHz for AM / MHz for FM)

Band	Frequency Range	Scan Frequency Range	Meter band	
AM	LW	150–529	—	
	MW	530–1620	530–1620 *1 531–1620 *2	—
	SW	1621–29999	2250–2550	120 meter band
			3150–3450	90 meter band
			3850–4050	75 meter band
			4700–5100	60 meter band
			5900–6250	49 meter band
			7100–7400	41 meter band
			9400–10000	31 meter band
			11500–12150	25 meter band
			13500–13900	22 meter band
			15000–15700	19 meter band
			17450–18000	16 meter band
			18850–19100	15 meter band
21450–21950	13 meter band			
25600–26100	11 meter band			
FM	76.00–108.00	76.00–108.00	—	

*1 10 kHz channel step (see page 15).

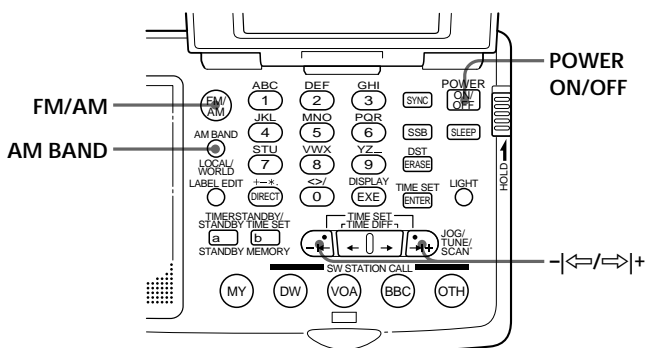
*2 9 kHz channel step (see page 15).


Note

The actual frequency range of short wave broadcasts and the range of the meter bands for this unit may differ. Refer to the supplied "Wave Handbook" for more information.

Various ways of reception (continued)

Scan tuning



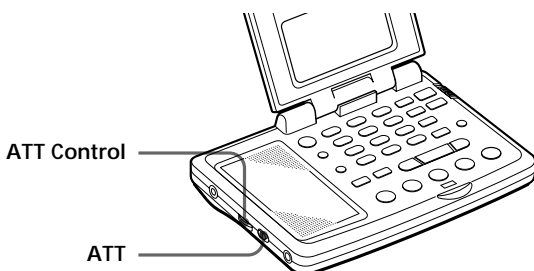
- 1** Press POWER ON/OFF to turn on the radio.
- 2** Press FM/AM to select either band.
To listen to SW, MW or LW broadcasts, select AM.
- 3** For AM bands, hold down AM BAND and press \leftarrow or \rightarrow to select MW (medium wave), LW (long wave) or a meter band (short wave).
The name of the band or the meter band and its lowest frequency appear in the display.
For FM, skip this step.
- 4** Hold down \leftarrow or \rightarrow . Release when the unit starts scanning.
"SCAN" is displayed. The unit stops at each reception and resumes scanning after about 3 seconds.
The unit scans within the frequency range of the chosen band or meter band (see "Frequency range of the bands/meter bands", page 19). In the SSB reception mode, the unit scans the whole 150 to 29999 kHz frequency range.

- 5** Press \leftarrow or \rightarrow to stop scanning and listen to the desired broadcast.
"SCAN" disappears and the name of the band appears in the display.

Tips

- The unit scans the frequencies in descending order when holding down \leftarrow , and in ascending order when holding down \rightarrow .
- To change scanning direction, hold down either \leftarrow or \rightarrow opposite to the current direction. This is convenient when, for example, you want to return to the previous reception after the unit has resumed scanning.
- When scanning for MW broadcasts at night when reception is intense, or when scanning under prevalent interference, the unit may stop scanning to null broadcasts frequently. Switch ATT to ON and adjust sensitivity with the ATT Control (see "Controlling scan stops", below). Under normal conditions, set ATT to OFF.

Controlling scan stops — using the ATT switch and the ATT Control

Use the ATT (attenuator) switch and the ATT Control to control reception sensitivity when the unit stops scanning to null broadcasts frequently or when scanning under prevalent interference. Under normal conditions, use the radio with ATT set to OFF (i.e., with maximum sensitivity).



The ATT Control is activated when ATT is switched ON. Turn the ATT Control toward MAX to reduce sensitivity. The radio will skip weaker signals and stop at only stronger ones.

Note

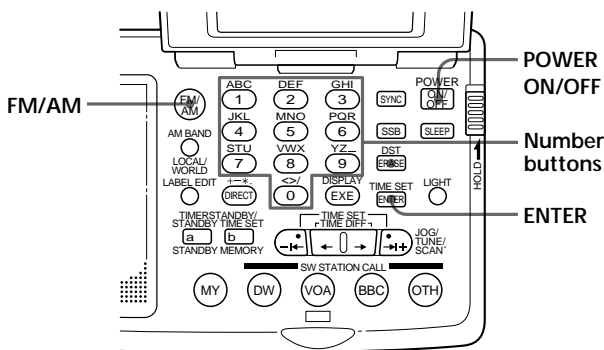
If the ATT Control is turned too much toward MAX, the radio will not stop on any weaker signals at all. Switch ATT to OFF if you do not need to use the attenuator.

Various ways of reception (continued)

Preset tuning

You can preset a total of 20 stations of your choice to the number buttons (10 for FM and 10 for AM).

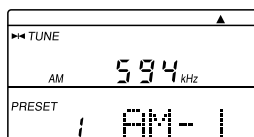
Presetting stations



- 1 Press **POWER ON/OFF** to turn on the radio.
- 2 Tune in to the station you want to preset.
- 3 Hold down **ENTER** and press a number button (0-9) of your choice.

When **ENTER** is held down, "PRESET MY" will flash in the display.

A beep sounds when a number button is pressed. The station is stored to the selected button. The preset number and the preset label are displayed.



Note

If a station is already stored to the button you chose, it will be overwritten by the new preset. If the preset label had been edited, it will return to the default setting.

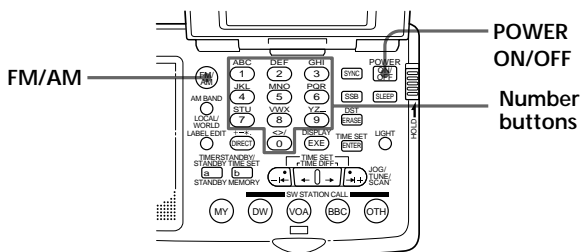
Default preset labels

Each time a station is preset, the preset key is assigned the default preset label as shown.

To change labels, see "Editing labels", page 36.

Button	AM	FM
1	AM-1	FM-1
2	AM-2	FM-2
3	AM-3	FM-3
4	AM-4	FM-4
5	AM-5	FM-5
6	AM-6	FM-6
7	AM-7	FM-7
8	AM-8	FM-8
9	AM-9	FM-9
0	AM-0	FM-0

Tuning in to a preset station



- 1 Press POWER ON/OFF to turn on the radio.
- 2 Press FM/AM to select either band.
- 3 Press a number button (0–9) of your choice.
The radio receives the station assigned to the button.

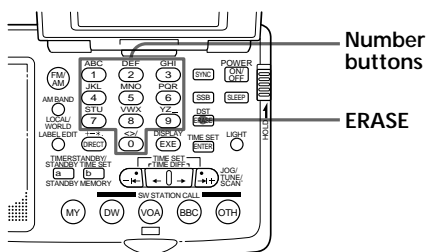
If no station is preset

A beep sounds and "MEMORY" "EMPTY" appears in the display. Then the display will return to the previous condition.

Notes

- The radio may have frequencies stored in the preset memory at factory shipment.
- The unit will not beep if the beep is set to BEEP OFF (see "Turning off the beep", page 43).

Erasing a preset station



- 1 Press a number button (0–9) for the preset station you want to erase.
- 2 Hold down ERASE.
The preset number flashes in the display while ERASE is held down.
A beep sounds after 3 seconds and the station assigned to the button you chose is erased. The preset number and the preset label disappear.

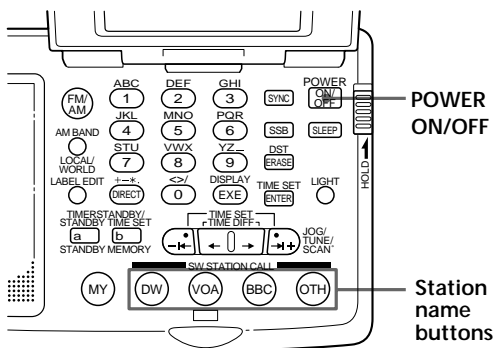
Note

When a preset station is erased, any changes to its default label is erased as well.

Various ways of reception (continued)

SW STATION CALL tuning

Tune in to major short wave stations by just pressing the station buttons: DW, VOA, BBC and OTH (others). The radio automatically chooses the frequencies used in your time zone from the SW STATION CALL ROM* encased at the bottom of the unit, scans for them, and stops scan at reception.



*ROM = Read Only Memory

1 Set the time zone to your area.

For LOCAL time, see "Setting the Local Time", page 12.

For WORLD time, see "Finding out the time in other areas of the world", page 14.

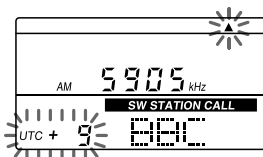
SW STATION CALL automatically selects **only the frequencies that are receivable in the area corresponding to your time zone setting**, regardless of LOCAL or WORLD time. Thus, it is crucial that you set the time zone properly to match your current location before using SW STATION CALL.

2 Press POWER ON/OFF to turn on the radio.

3 Press the station button of your choice.

"SW STATION CALL", the station name and a frequency is displayed. The time difference from the UTC and the time zone indicator flash for about 3 seconds, and then light up. Confirm your time zone setting.

The frequency actually displayed may be different from the illustration.



4 Press the same station button again.

The radio scans the frequencies for your area in ascending order, and stops at reception.

Press the button again to resume scanning.

To stop scanning

Press the same station button during scan.

To manually recall the selected frequencies one by one
Hold down the station button and press \leftarrow , \rightarrow or $-I\leftarrow$, $\rightarrow I+$.

The frequency changes quickly when $-I\leftarrow$ or $\rightarrow I+$ is held down, and stops when released.

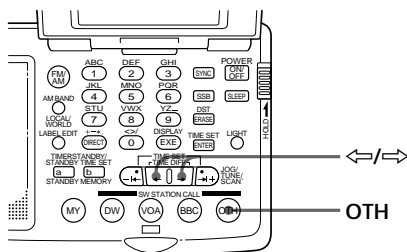
Tip

When scanning at night when reception is intense, or when scanning under prevalent interference, the unit may stop scanning to null broadcasts frequently. Switch ATT to ON and adjust sensitivity with the ATT Control (see "Controlling scan stops", page 21). Under normal conditions, set ATT to OFF.

Stations recalled by the SW STATION CALL station buttons

Button	Station and program
DW	English and German programs of Deutsche Welle
VOA	English programs of Voice of America
BBC	English programs of British Broadcasting Corporation
OTH	Choose one of the following*; R.NED – English and Dutch programs of Radio Nederland RFI – English and French programs of Radio France International R.JPN – English and Japanese programs of Radio Japan REE – English and Spanish programs of Radio Exterior de España CRI – English and Chinese programs of China Radio International

*Selecting the station for the OTH button



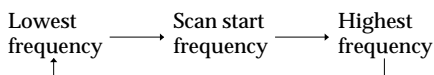
Turn off the radio if it is turned on.

Hold down OTH and press \leftarrow or \rightarrow . Release OTH when the station of your choice appears in the display.

Steps for reception is the same as the other SW STATION CALL buttons.

When there is no reception

If the radio was not able to receive any of the frequencies for the time zone stored in the ROM, scanning stops with a beep when the radio returns to the frequency where it started scanning.



Short wave reception may be difficult at times due to various factors, such as sunspot activity and atmospheric conditions. Furthermore, the major broadcast stations whose data are stored in the ROM may change the broadcast time and/or frequencies at the change of season, etc. In such cases, the radio may not be able to receive the frequencies stored in the SW STATION CALL ROM.

Updating the SW STATION CALL ROM

To conform with possible changes in frequencies, the SW STATION CALL ROM is designed to be replaceable by the user to an updated version of the ROM. The newest SW STATION CALL ROM is sold by F Corporation. The ROM is to be updated in around October every year. We recommend the ROM to be replaced at least once in 2 to 3 years.

To purchase the newest ROM, refer to "Purchasing the latest SW STATION CALL ROM" and contact F Corporation.

To exchange the ROM, see "Exchanging the SW STATION CALL ROM", page 46.

Notes

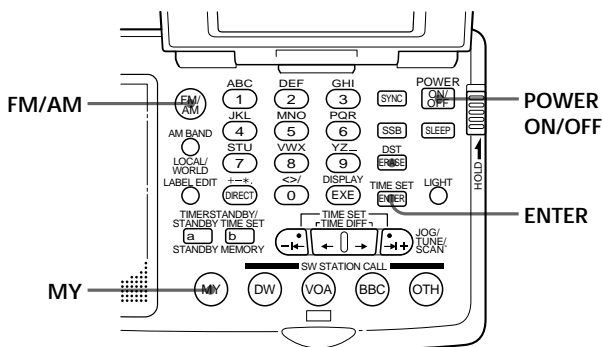
- Many of the worldwide broadcast programs of the major broadcast stations stored in the ROM are broadcast only at certain times of the day. If the station is not broadcasting on the scanned frequency at the time, the radio will not receive any broadcast or receive broadcast by some other station, such as a local station, broadcasting on the same frequency.
- If the frequency is changed by manual tuning, etc., when "SW STATION CALL" indication is lit in the display, the radio will exit SW STATION CALL and the indication will disappear.
- If there is no frequency for the station corresponding to the time zone stored in the ROM, a beep sounds, "MEMORY" "EMPTY" appears in the display, and the radio returns to the previous condition.
- If you press a station button without the ROM in the ROM compartment of the radio, a beep sounds, "NO" "ROM" appears in the display, and the radio returns to the previous condition. If the ROM is displaced when "SW STATION CALL" indication is lit in the display, a beep sounds, "NO" "ROM" appears in the display, and the radio changes to manual tuning.
- If "NO" "ROM" is displayed with the SW STATION CALL ROM inserted in the ROM compartment, the contact surface of the ROM may be dirty. See "Cleaning the SW STATION CALL ROM contact surface", page 46, and clean the contact surface with a cotton swab. Do not clean the contact springs of the main unit, as they may deform and cause a malfunction.

Various ways of reception (continued)

MY-Memory tuning

Preset up to 100 frequencies of any band (FM, SW, MW or LW) to the MY button. You can scan these stations or tune in one by one.

Presetting stations to MY-Memory



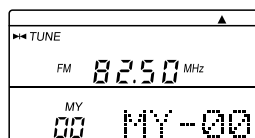
1 Press POWER ON/OFF to turn on the radio.

2 Tune in to the station you want to preset.

3 Hold down ENTER and press MY.

When ENTER is held down, "PRESET MY" will flash in the display.

A beep sounds when MY is pressed. The station is stored to the lowest available MY-Memory number (00 to 99). The MY-Memory number and the MY-Memory label are displayed.



Default MY-Memory labels

Each time a station is stored to MY-Memory, it is assigned the default MY-Memory label "MY-xx" (with the memory number in place of "xx").

To change labels, see "Editing labels", page 36.

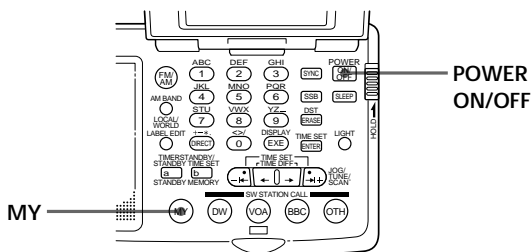
Note

The radio may have frequencies stored in MY-Memory at factory shipment. In this case, erase them before presetting stations to MY-Memory (see "Erasing a MY-Memory preset", page 29).

Tips

- If you press MY with all the MY-Memory numbers (00 to 99) assigned a station, a beep sounds, "MEMORY FULL" appears in the display, and the radio returns to the previous condition.
- MY-Memory tuning is not affected by the time zone setting.

Tuning in to a MY-Memory station



1 Press POWER ON/OFF to turn on the radio.

2 Press MY.
The radio enters the MY-Memory tuning mode.

3 Press MY again.
The radio scans the frequencies stored in MY-Memory and stops at reception.
Press the button again to resume scanning.

To stop scanning

Press MY during scan.

To manually recall the MY-Memory frequencies one by one

Hold down MY and press \leftarrow , \rightarrow or $-I\leftarrow$, $\rightarrow I+$.

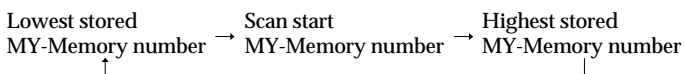
The frequency changes quickly when $-I\leftarrow$ or $\rightarrow I+$ is held down and stops when released.

Tips

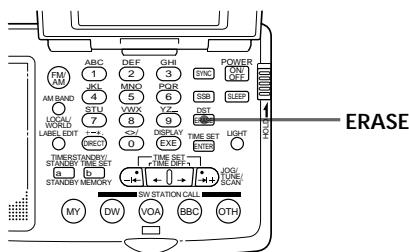
- MY-Memory scans only the stored memory numbers and skips the empty ones.
- MY-Memory scans fastest if the frequencies are stored in ascending or descending order.
- If MY is pressed with no frequency stored in MY-Memory, a beep sounds and "MEMORY" "EMPTY" appears in the display. Then the display returns to the previous condition.
- When scanning at night when reception is intense, or when scanning under prevalent interference, the unit may stop scanning to null broadcasts frequently. Switch ATT to ON and adjust sensitivity with the ATT Control (see "Controlling scan stops", page 21). Under normal conditions, set ATT to OFF.

When there is no reception

If any of the frequencies stored in MY-Memory was not received, scanning stops with a beep when the radio returns to the frequency where it started scanning.



Erasing a MY-Memory preset



1 Recall the MY-Memory number you want to erase.

2 Hold down ERASE.

The MY-Memory number flashes in the display while ERASE is held down.

A beep sounds after 3 seconds and the station assigned to the MY-Memory number is erased. The MY-Memory number and the MY-Memory label disappear.

Note

When a MY-Memory station is erased, any changes to its default label is erased as well.

To change the station stored in MY-Memory

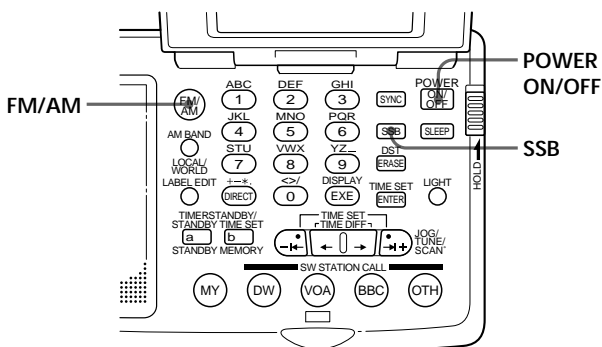
You cannot overwrite a frequency stored in MY-Memory with a new one. Erase the particular MY-Memory number first, then store a new frequency.

Note

MY-Memory stores stations to the lowest available MY-Memory number. Note, thus, that if a MY-Memory number lower than the one you erased is available, the new frequency will be stored to that number.

Receiving SSB and CW Transmissions

You can receive SSB (Single Side Band) and CW (Continuous Wave) transmissions with the built-in BFO circuit.



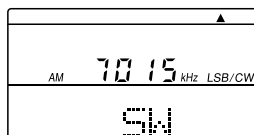
1 Press POWER ON/OFF to turn on the radio.

2 Press FM/AM and select AM.

3 Press SSB to select USB or LSB/CW.

Each time SSB is pressed, the display changes as follows:

(Normal mode) → USB → LSB/CW



4 Tune in to the desired station.

For tuning methods, see "Various ways of reception", pages 16 to 29.

Tip

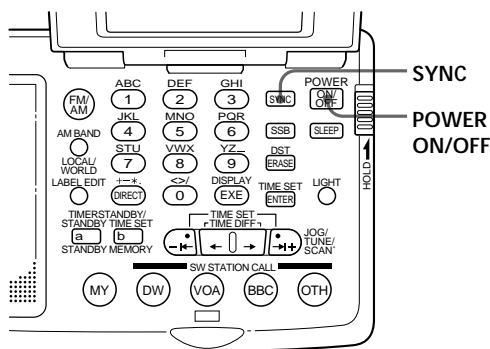
For more on SSB and CW, refer to "Tips on radio waves", page 50.

Notes

- The USB or the LSB/CW mode cannot be preset to memory. You can tune in to stations in 0.1 kHz steps in the USB or the LSB/CW mode, but the frequency digit below the decimal point is ignored when memorized.
- If a preset AM frequency is recalled during the USB or the LSB/CW mode, the mode setting remains active and the frequency is received in the respective mode.

Adjusting for optimum AM reception —Synchronous detection

Adjust AM reception (especially SW reception) to optimum condition with synchronous detection.



1 Press POWER ON/OFF to turn on the radio.

2 Tune in to the desired station.

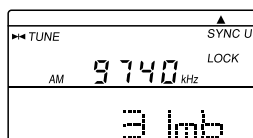
For tuning methods, see "Various ways of reception", pages 16 to 29.

3 Press SYNC repeatedly to select the synchronous detection mode with better reception (SYNC U or SYNC L).

Each time SYNC is pressed, the display changes as follows:

(Normal mode) → SYNC U → SYNC L

"LOCK" appears in the display when synchronous detection is in effect.



Tip

For more on synchronous detection, see "Tips on radio waves", page 50.

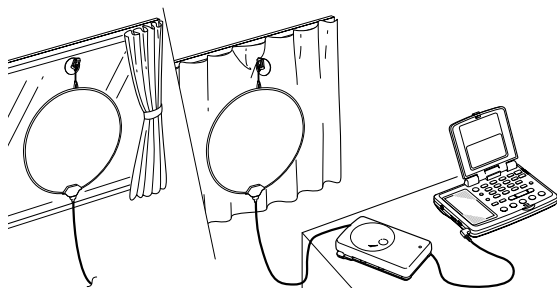
Notes

- Synchronous detection may be cancelled when the batteries become weak.
- Even when you have chosen either of the synchronous detection modes and SYNC U or SYNC L is lit in the display, synchronous detection may not take effect if reception is weak. In this case, "LOCK" will not light up.
- Synchronous detection setting cannot be preset to memory.
- If a preset AM frequency is recalled when either synchronous detection mode is in effect, the mode setting remains active and the frequency is received in the respective mode.

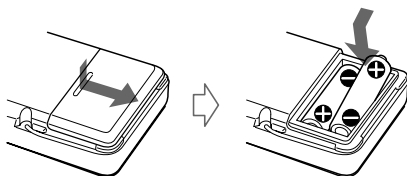
Using the supplied external antenna

Use the supplied Short Wave Active Antenna AN-LP2 for better short wave reception. The antenna gives you stable indoor reception with the built-in amplifier.

This antenna can be used only to receive the short wave meter bands from the 120 meter band to the 11 meter band as seen in "Frequency range of the bands/meter bands", page 19. Be sure to disconnect it for FM, MW or LW reception.



Inserting the Batteries



-
- 1** Open the battery compartment lid of the antenna controller.

 - 2** Insert two R6 (size AA) batteries with correct polarity.

 - 3** Close the lid.

Battery life of the active antenna

Using Sony R6 (size AA) dry batteries (JEITA*): approx. 40 hours

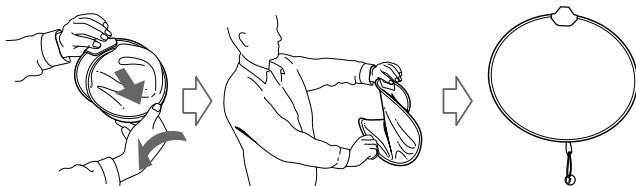
* Measured by JEITA (Japan Electronics and Information Technology Industries Association) standards. The actual battery life may vary depending on the circumstance of the unit.

When to replace the batteries

When the batteries become weak, the POWER lamp of the antenna controller dims. Replace both batteries with new ones.

Setting Up

- 1 Unfold the antenna module slowly.



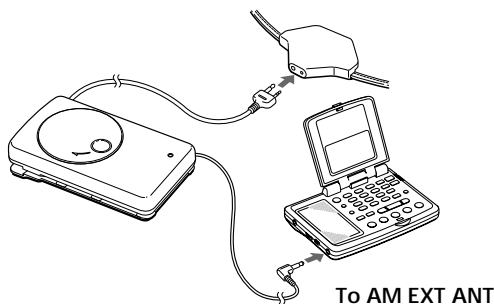
Be careful not to hit anyone or anything when unfolding the antenna module.

- 2 Pull out the long cord with the double pin plug from the antenna controller until it stops, and connect it to the antenna module.

- 3 Attach the antenna module to the window glass or the curtain.

Fix the antenna with the supplied clip or the suction cup, as seen in the illustration on the previous page.

- 4 Connect the short cord with a single pin plug to the AM EXT ANT (AM external antenna) jack of the radio.



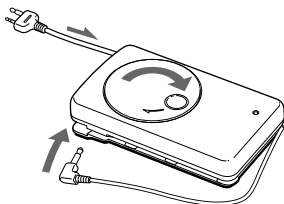
The power supply of the antenna controller is linked to the power supply of the radio. The POWER lamp lights up on the controller. Switch ATT to OFF on the radio.

On setup

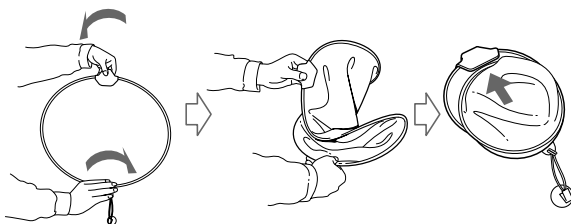
- Place the antenna module where reception is well, such as by the window.
- Reception may become poorer if the long cord of the antenna controller is kept near the radio. Keep it as far away from the radio as possible.
- Keep the radio and the antenna away from fluorescent lamps, television sets, telephones, personal computers, etc., as they may generate noise interference.
- Set up the antenna as far away from the street as possible.
- Do not use the antenna outdoors.
- When using the external antenna, be sure to retract the telescopic antenna on the main unit.

After use

- 1** Disconnect the antenna module, antenna controller and radio.
- 2** Reel up the long cord.
- 3** Wrap the short cord to the antenna controller and set it in place.



- 4** Twist and fold the antenna module, set it in place, and put it in the carrying case.

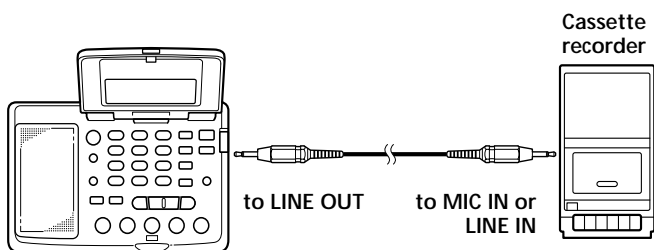


Note

- When receiving FM, MW or LW broadcasts, be sure to disconnect the active antenna. The radio cannot receive these bands with the external antenna plugged in, as the telescopic antenna and the built-in ferrite bar antenna will be disconnected.
- The supplied external antenna is to be used only with this unit. It cannot be used on other radios.
- Do not connect any other antennas other than the recommended active antennas to the AM EXT ANT jack of the unit, as the jack supplies DC voltage to power the recommended active antennas.

Recording broadcasts

Connect the radio to a cassette recorder with connecting cables to record radio broadcasts.



- 1 Connect the radio to a cassette recorder with connecting cords (not supplied).
Use the appropriate cord for the type of cassette recorder.

Cassette recorder		Connecting cord
Type	Jack	
Monaural	MIC IN (minijack)	RK-G135
	MIC IN (minijack)	RK-G134
Stereo	LINE IN (minijack)	RK-G136
	LINE IN (pinjack)	RK-G129

- 2 Tune in to the station you want to record.
- 3 Record on the cassette recorder.

If you record with a stereo recorder

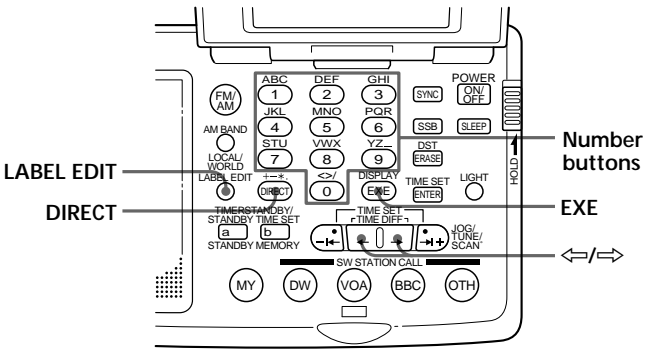
FM stereo programs are recorded in stereo. AM programs are recorded monaurally to both channels.

Tip

Adjusting VOL on the radio has no effect on the recording.

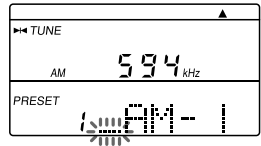
Editing labels

You can change the default label for a station preset, time zone, etc., to any combination of up to 6 alphanumeric letters.



1 Display the label you want to edit by preset tuning (page 22), MY-Memory tuning (page 27), WORLD time display (page 14) or the Standby function (page 38).

2 Press LABEL EDIT.
The first letter of the label flashes.



3 Press ← or → to move the cursor to the letter you want to change.

4 Press one of the number buttons (0 to 9) or DIRECT to enter the letter of your choice.

The first letter written above the number button is entered when the button is pressed. Every press of the button changes the letter as follows.

Ex. Pressing number button ①: A → B → C → 1

① ABC 1	② DEF 2	③ GHI 3
④ JKL 4	⑤ MNO 5	⑥ PQR 6
⑦ STU 7	⑧ VWX 8	⑨ YZ _ † 9
DIRECT + - *	⑩ < > / 0	—

† _ indicates a blank space.

5 Repeat steps 3 and 4 to change other letters.

Complete each button operation within 20 seconds.

6 Press EXE.

A beep sounds and the displayed letters are stored as the label.

If the flashing of the character stops

You took more than 20 seconds to complete a button operation.

If the display returns to the original label, press LABEL EDIT again and start over.

To cancel editing

Press LABEL EDIT before pressing EXE.

Notes

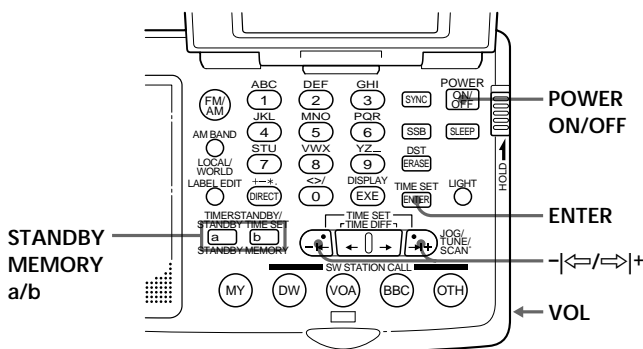
- The SW STATION CALL labels cannot be edited.
- The unit does not beep if the beep is set to BEEP OFF (see "Turning off the beep", page 43).
- An edited preset label returns to the default setting if a station is overwritten to the preset button (see "Default preset labels", page 22).

Using the timer

Waking up to the radio or buzzer — Standby function

You can wake up to your favorite radio program using the Standby function. You can preset different frequencies and standby times to STANDBY MEMORY a and b.

To wake up to the buzzer, see "To wake up to the buzzer", page 40.

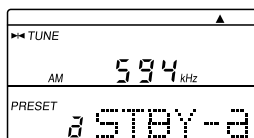


Make sure the clock is set correctly before using the Standby function (page 12).

- 1 Tune in to the station you want to preset.
- 2 Adjust VOL to your choice.
- 3 Hold down ENTER and press STANDBY MEMORY a or b.

When ENTER is held down, "PRESET MY" will flash in the display.

A beep sounds when STANDBY MEMORY a or b is pressed. The station is stored to the selected button. The STANDBY MEMORY number (a or b) and the STANDBY MEMORY label are displayed.



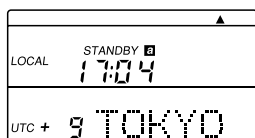
- 4 Press POWER ON/OFF to turn off the radio.
- 5 Hold down the STANDBY MEMORY button you pressed in step 3 and press -I<=> or =>I+ repeatedly to set the standby time (i.e., the time the radio is to turn on).

"STANDBY" and "a" or "b" flash while the STANDBY MEMORY button is held down.

- 6 Release the STANDBY MEMORY button.

"STANDBY" and "a" or "b" light up and the standby setting is complete. The clock indication returns to the current time.

The radio turns on at the standby time to receive the preset broadcast station.



To check the standby time

Hold down STANDBY MEMORY a or b with the radio turned off. The preset standby time is displayed while the button is pressed.

To change the standby time

Repeat steps 4 to 6 and preset a new standby time.

To cancel the standby function

Press STANDBY MEMORY a or b with the radio turned off so that "STANDBY" "a" or "b" is cleared from the display.

Make sure to release the button within a second. If the button is pressed for longer than a second, the radio goes to step 5.

At the standby time

The radio turns on, "SLEEP" lights up, and the preset broadcast station is tuned in. The radio turns off after about 60 minutes.

Notes

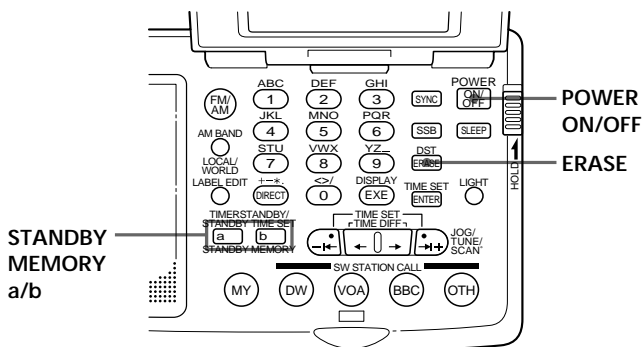
- The Standby function is activated when the currently displayed time, whether in LOCAL or WORLD display mode, reaches the standby time. Make sure, therefore, that the time display is in the mode of your choice.
- If a station was already stored to the STANDBY MEMORY button, the previous preset station is overwritten by the new preset. If the preset label had been edited, it will return to the following default;
 - a** = "STBY-a"
 - b** = "STBY-b"
 To change labels, see "Editing labels", page 36.
- Make sure that the radio is turned off before setting the standby time. You cannot set the standby time with the radio turned on.

Tips

- To temporarily cancel the Standby function, turn off the radio and slide HOLD in the direction of the arrow so that "HOLD" is displayed. The standby timer goes back to effect when HOLD is turned off ("HOLD" is cleared from the display). See "Using the hold function", page 42.
- Once the standby presets are set, the radio turns on at the preset time everyday unless the standby status is canceled (see "To cancel the standby function", above). Canceling the standby status does not erase the standby setting itself. The setting can be put back to the standby status by pressing STANDBY MEMORY a or b with the radio turned off so that "STANDBY" "a" or "b" is lit in the display.
- If the standby memory is in standby status, it takes effect even when you are listening to the radio. The radio switches to the preset standby frequency at the standby time.
- You can set both STANDBY memories to the standby status at the same time (i.e., both the **a** and **b** indicators are lit in the display). The radio turns on at the first standby time to receive the first standby frequency, then switches to the second standby frequency at the second standby time.
- If both STANDBY memories are set to the same standby time, STANDBY **a** takes precedence.

To wake up to the buzzer

If a STANDBY MEMORY without a frequency preset is activated, the buzzer sounds at the standby time. Erase if a frequency is preset.



1 Press POWER ON/OFF to turn on the radio.

2 Press STANDBY MEMORY a or b.

The preset frequency is recalled.

If no frequency is stored, a beep sounds and "MEMORY" "EMPTY" appears in the display. Go to step 4.

3 Hold down ERASE.

The Standby Memory number flashes in the display while ERASE is held down.

A beep sounds after 3 seconds and the station assigned to the STANDBY MEMORY button is erased. The Standby Memory number and the Standby Memory label disappear.

4 Follow steps 4 to 6 of "Waking up to the radio or buzzer", page 38 to set the standby time (i.e., the time the buzzer is to sound).

The buzzer sounds at the standby time.

To stop the buzzer

Press any button except LIGHT.

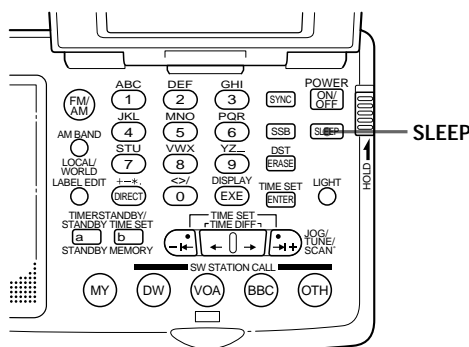
The buzzer stops after about 60 minutes if it is left on.

Notes

- The buzzer volume cannot be adjusted with VOL.
- The Standby Memory buzzer sounds regardless of the BEEP OFF setting.
- When a Standby Memory preset is erased, any changes to its default label is erased as well.

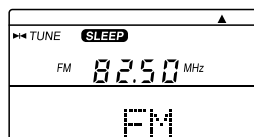
Falling asleep listening to the radio — Sleep timer

You can turn off the radio automatically after about 60 minutes using the sleep timer.



1 Press SLEEP.

If the radio was off, the radio turns on.
"SLEEP" lights up.



2 Tune in to the station of your choice.

The radio turns off automatically after about 60 minutes.

To turn off the radio before the 60 minute duration

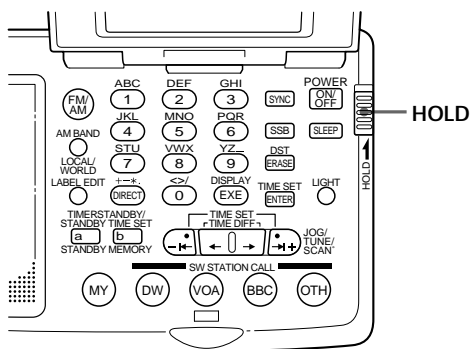
Press POWER ON/OFF.

Tips


- If SLEEP is pressed with the radio turned on, "SLEEP" lights up and the radio turns off after about 60 minutes.
- If you press SLEEP to turn on the radio, the radio tunes to the previously tuned frequency.
- If SLEEP is pressed when "SLEEP" is already lit, the sleep countdown is reset and the radio turns off after about 60 minutes from this point.

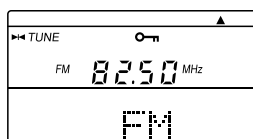
Using the hold function

When the hold function is activated, all buttons become inoperative, preventing accidental operation when the radio is being carried or used. The hold function can also be used to temporarily cancel the Standby timer function.




1 Slide HOLD in the direction of the arrow.

“” lights up and all buttons become inoperative.



To cancel the hold function

Slide HOLD in the direction opposite to the arrow so that “” disappears in the display.

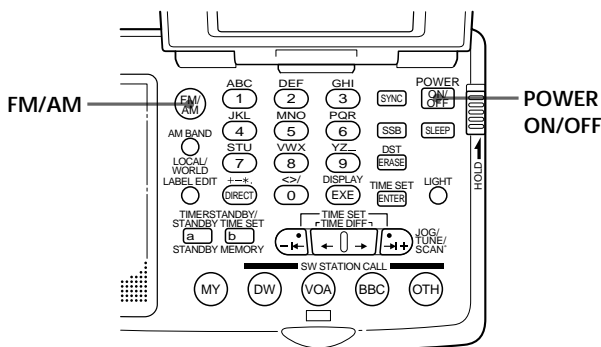
To temporarily cancel the Standby timer

When the hold function is activated, the Standby timer function is temporarily canceled (see “Waking up to the radio or buzzer — Standby function”, page 38).

Temporary cancellation of the Standby timer by the hold function is effective only when the power is turned off.

Turning off the beep

The confirmation beep can be turned off. Do so with the power turned off.



- 1 If the radio is turned on, press POWER ON/OFF to turn it off.
- 2 Hold down FM/AM for longer than 2 seconds.
A beep sounds and "BEEP" "OFF" appears in the display. The beep has been turned off.
To turn the beep back on, hold down FM/AM for longer than 2 seconds again. "BEEP" "ON" appears in the display and the beep turns on.

Tip

The beep setting does not affect the buzzer sound for the Standby timer function (see "To wake up to the buzzer", page 40).

Precautions and maintenance

On placement

- Do not leave the unit near heat sources, such as radiators or air ducts, or in a place subject to direct sunlight, excessive dust, humidity, rain, mechanical vibration or shock.
- Use the unit within a temperature range of 0°C to 40°C (32°F to 104°F). If it is used in temperatures outside this range, an irregular display (i.e., 88.88) may appear. If it is used in temperatures below this range, the display may change very slowly. The unit will return to its normal condition when the unit is used in its recommended temperature range once again.
- Reception may be difficult or noisy in vehicles or buildings. Try listening near a window.

On safety

- Operate the unit only on 3 V DC with two R6 (size AA) batteries.

For AC operation, use the supplied AC power adaptor*. Do not use any other type of AC power adaptor.

- The unit is not disconnected from the AC power source (mains) as long as it is connected to the wall outlet, even if the unit itself has been turned off.
- Disconnect the AC power adaptor from the wall outlet when the unit is not to be used for a long period of time.
- The name plate indicating operating voltage, etc., is located at the bottom of the unit.
- Should any solid object or liquid fall into the unit, unplug the unit, and have it checked by qualified personnel before operating it any further. Make sure that no liquid or foreign material enters the DC IN 3V jack of the unit. This may lead to malfunction of the unit.
- When the casing becomes soiled, clean it with a soft dry cloth dampened with mild detergent solution. Never use abrasive cleansers or chemical solvents, as they may mar the casing.
- Since a strong magnet is used for the speaker, keep personal credit cards using magnetic coding or spring-wound watches away from the unit to prevent them from possible damage caused by the magnet.
- If there is lightning and when using the external antenna, disconnect the AC power adaptor immediately from the wall outlet, if connected. Never touch the antenna wire when there is a lightning storm.
- Never connect a ground wire to a gas pipe.

* Not supplied for models for certain countries. See "Specifications".

On the active antenna AN-LP2

- Do not wash the antenna module.
- Be careful not to break the antenna module when folding it.
- Keep the antenna in its case when it is not to be used for a period of time.

Service and repair

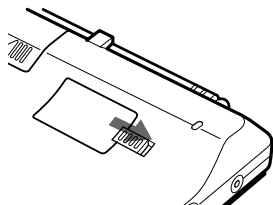
When taking your unit for service or repair, take note of important preset settings. They may be deleted depending on the type of necessary repair.

If you have any questions or problems concerning your unit, please consult your nearest Sony dealer.

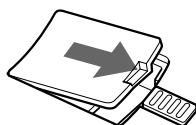
Exchanging the SW STATION CALL ROM

To purchase the newest ROM, refer to "Purchasing the latest SW STATION CALL ROM" and contact F Corporation.

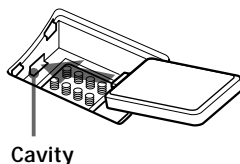
- 1 Hold down the ROM compartment lid at the bottom of the unit and slide **RELEASE** in the direction of the arrow. Then, release your finger slowly from the lid.



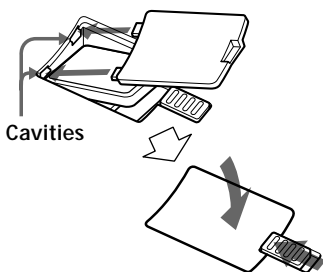
- 2 Remove the ROM compartment lid and the ROM in the compartment. Be careful not to touch the contact surfaces (metallic parts).



- 3 Insert the projection of the ROM in the compartment cavity and place the replacement ROM in the ROM compartment with the contact surface facing down. Be careful not to touch the contact surfaces.



- 4 Insert the projections of the ROM compartment lid in the compartment cavities and lock the cover by sliding **RELEASE** opposite the direction of the arrow while holding down the lid.



Note

Do not touch the contact surfaces on the ROM or the radio, as this may cause a malfunction.

Cleaning the SW STATION CALL ROM contact surface

If "NO" "ROM" is displayed with the SW STATION CALL ROM inserted in the ROM compartment, the contact surface of the ROM may be dirty.

Remove the ROM following the steps above and clean the contact surface with a cotton swab.

Note


Do not clean the contact springs of the main unit, as they may deform and cause a malfunction.

Troubleshooting

If you have any trouble with the unit, check the following before consulting your nearest Sony dealer.

Symptom	Cause	Remedy
The radio does not accept button input.	<ul style="list-style-type: none"> The HOLD function is activated. 	<ul style="list-style-type: none"> Slide HOLD in the opposite direction of the arrow so that "H" disappears in the display (page 42).
The power does not turn on when POWER ON/OFF is pressed.	<ul style="list-style-type: none"> Improper installation of batteries. Weak batteries ("E" flashes in the display). The AC power adaptor is disconnected. 	<ul style="list-style-type: none"> Insert the batteries with correct polarity. Replace with new batteries. Check and make sure that the AC power adaptor is connected properly.
The display is not operating.	<ul style="list-style-type: none"> Improper installation of batteries. 	<ul style="list-style-type: none"> Insert the batteries with correct polarity.
The display is dim.	<ul style="list-style-type: none"> Weak batteries ("E" flashes in the display). 	<ul style="list-style-type: none"> Replace with new batteries.
The display is slow.	<ul style="list-style-type: none"> The unit is being used in extremely low temperatures or in extreme humidity. 	<ul style="list-style-type: none"> Avoid subjecting the unit to extremely low temperatures or extreme humidity.
There is no sound output.	<ul style="list-style-type: none"> The unit is being used in extremely low temperatures. VOL is turned down completely. The stereo headphones are plugged in. Improper installation of batteries. 	<ul style="list-style-type: none"> Avoid subjecting the unit to extremely low temperatures. Adjust VOL to the desired setting. Unplug the stereo headphones for speaker output. Insert the batteries with correct polarity.
Poor reception.	<ul style="list-style-type: none"> Weak batteries ("E" flashes in the display). Improper tuning or antenna adjustment. Weak radio signal. ATT is set to ON. 	<ul style="list-style-type: none"> Replace with new batteries. Adjust tuning and antenna properly. Listen to the radio near a window when in a vehicle or building. Set ATT to OFF (page 21).
Cannot complete direct tuning.	<ul style="list-style-type: none"> You took more than 10 seconds for a button operation. 	<ul style="list-style-type: none"> Complete each button operation within 10 seconds.

Troubleshooting (continued)

Symptom	Cause	Remedy
Cannot preset a station.	<ul style="list-style-type: none">• Incorrect procedure.	<ul style="list-style-type: none">• Hold down ENTER and press a number button (0-9) (see page 22).
Cannot recall a preset station.	<ul style="list-style-type: none">• You pressed an incorrect number button for the desired station.• The preset setting was accidentally erased.	<ul style="list-style-type: none">• Press the correct number button for the desired preset.• Preset the station again (see page 22).
The radio does not turn on at the standby time.	<ul style="list-style-type: none">• You forgot to press STANDBY a or b.• The HOLD function is activated.• The standby time setting was erased because you took more than 3 minutes to replace the batteries.• VOL is turned down completely.• No frequencies are stored in the STANDBY MEMORY (the buzzer sounds at the preset time).	<ul style="list-style-type: none">• Press STANDBY a or b (see page 38).• Slide HOLD in the direction opposite to the arrow so that “” disappears in the display (see page 42).• Preset the standby time again.• Adjust VOL.• Store a frequency in the STANDBY MEMORY (see page 38).
SW STATION CALL does not operate.	<ul style="list-style-type: none">• The ROM compartment is empty.• Bad connection of the ROM.	<ul style="list-style-type: none">• Insert the ROM (page 46).• Clean the ROM contact surface (page 46).
Cannot preset a station in MY-Memory.	<ul style="list-style-type: none">• MY-Memory is full (00 to 99).	<ul style="list-style-type: none">• Erase a memory preset and preset the station (page 29).

Specifications

ICF-SW07

Circuit system

FM: Super heterodyne

AM: Dual conversion super heterodyne

Frequency range

FM: 76–108 MHz

SW: 1,621–29,999 kHz

MW: 530–1,620 kHz

LW: 150–529 kHz

Intermediate frequency

FM: 10.7 MHz

SW/MW/LW: 55.845 MHz (1st), 455 kHz (2nd)

Output

LINE OUT jack (stereo minijack) approx. 245 mV, less than 10 kilohms

⊘ (headphones) jack (stereo minijack) 16 ohms

Speaker

Approx. 40 mm ($1\frac{5}{8}$ inches) diameter, 8 ohms

Maximum output

200 mW (at 10 % harmonic distortion)

Power requirements

DC 3 V, two R6 (size AA) batteries

External power source

DC IN 3V jack accepts: supplied AC power adaptor*

Dimensions

Approx. 135 x 32.5 x 91 mm (w/h/d) ($5\frac{3}{8} \times 1\frac{5}{16} \times 3\frac{5}{8}$ inches) not incl. projecting parts

Mass

Approx. 220 g (7.8 oz)

Approx. 257 g (9.1 oz) incl. batteries

AN-LP2

Power requirements

DC 3 V, two R6 (size AA) batteries

Dimensions (w/h/d)

Antenna Module

In use: Approx. 490 x 480 x 17.8 mm ($19\frac{3}{8} \times 19 \times \frac{23}{32}$ in.)

Folded: Approx. 205 x 180 x 17.8 mm ($8\frac{1}{8} \times 7\frac{1}{8} \times \frac{23}{32}$ in.)

Antenna Controller

Approx. 120 x 29.5 x 72 mm ($4\frac{3}{4} \times 1\frac{3}{16} \times 2\frac{7}{8}$ in.)

Mass

Antenna Module: approx. 92 g (3.3 oz.)

Antenna Controller: approx. 144 g (5.1 oz.) incl. batteries

Supplied accessories

Stereo headphones (1)

Ear pads (2)

AC power adaptor (1)*

AC plug adaptor (1)*

Active antenna AN-LP2 (1)

Carrying case for ICF-SW07 (1)

Carrying case for AN-LP2 (1)

Wave Handbook (1)

* Not supplied with the UK, Australian, Chinese (including Hong Kong), and Argentine model.

Optional accessories

LW/MW/SW wide range antenna AN-1, AN-102

Connecting cord

RK-G135 (stereo miniplug ↔ miniplug)

RK-G134 (stereo miniplug ↔ stereo miniplug)

RK-G136 (stereo miniplug ↔ stereo miniplug)

RK-G129 (stereo miniplug ↔ two pinplugs)

Your dealer may not handle some of the above listed optional accessories. Please ask your dealer for detailed information on the optional accessories available in your country.

Design and specifications are subject to change without notice.

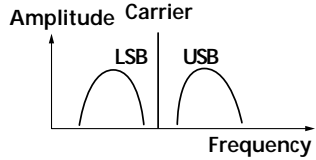
Tips on radio waves

What is SSB (Single Side Band)?

SSB is very popular among ham and business radio transmissions, and is commonly used in many amateur bands because of its superiority in signal intelligibility. Its impressive signal intelligibility is achieved with minimum interferences when compared to DSB (Double Side Band) owing to its half bandwidth structure.

In general, SSB transmissions employ the USB (Upper Side Band) modulation, while amateur band transmissions below 10 MHz employ the LSB (Lower Side Band) modulation.

Conventional radios without a BFO (Beat Frequency Oscillator) circuit cannot receive SSB transmissions successfully. This unit can receive SSB transmissions successfully with the built-in BFO (Beat Frequency Oscillator) circuit.



What is CW (Continuous Wave)?

CW is also popular among ham and business radio transmissions. Unlike other signals, the amplitude of a carrier is not modulated for CW transmissions. CW transmissions convey information by interrupting the carrier and use Morse code as a means of communication.

This unit can receive CW transmissions successfully with the built-in BFO (Beat Frequency Oscillator) circuit as beat sound only. To fully comprehend the information transmitted by CW transmissions, an understanding of the Morse code is prerequisite.

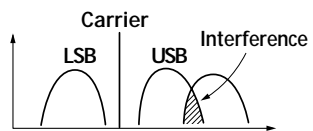
What is synchronous detection?

There are two underlying obstacles in optimum AM reception: distortions due to fading and interferences from adjacent broadcast stations.

Synchronous detection is effective in solving these obstacles.

Distortions due to fading are generally caused by over-modulation which occurs when a carrier component of the received signal is attenuated along the way. The synchronous detection circuit of this unit generates a pure carrier frequency with no level variation which is ideally synchronized with the original carrier to compensate for the attenuated carrier component, thus dramatically reducing distortion.

Likewise, AM (LW, MW, and SW) broadcast generally employs DSB (Double Side Band) signals for transmissions in which the modulated signals are transmitted using both the upper and lower side bands (USB and LSB). In most cases, one of the side bands is affected by interferences from adjacent broadcast stations (i.e., beats). The synchronous detection circuit of this unit extracts one of the two sides (USB or LSB) of the DSB (Double Side Band) signal which is free from interferences. This allows clear reception without the interferences from adjacent broadcast stations.



Only this side is received.

Advertencia

Para evitar descargas eléctricas o incendios, no exponga esta unidad a la lluvia ni a la humedad.

Para evitar descargas eléctricas, no abra la unidad. En caso de avería, solicite los servicios de personal cualificado solamente.

Características

- **Función de reloj mundial**
Busque la hora de cualquier lugar del mundo seleccionando el nombre de la ciudad en cuestión.
- **Recepción con cobertura mundial de FM estéreo/SW/MW/LW**
Sintonía sencilla y precisa con sistema sintetizador de bucle de enganche de fase (PLL) controlado por cuarzo.
FM: 76–108 MHz
SW: 1621–29999 kHz
MW: 530–1620 kHz
LW: 150–529 kHz
Para más información, consulte el “Manual de ondas radioeléctricas” suministrado.
- **Sintonía con invocación de emisoras de SW (SW STATION CALL)**
Sintonice las principales emisoras de onda corta presionando simplemente las teclas de emisoras. La radio elegirá automáticamente las frecuencias utilizadas en su huso horario de los datos de la ROM y las explorará.
- **Sintonía memorizada (MY)**
Memorizará y explorará hasta 100 frecuencias de su elección.
- **Otros cuatro métodos de sintonía para satisfacer sus necesidades**
 - **Sintonía directa:** sintonice introduciendo directamente los dígitos de la frecuencia.
 - **Sintonía manual:** sintonice manualmente cambiando la frecuencia paso por paso.
 - **Sintonía con exploración:** explorará automáticamente la banda y se parará al recibir una emisora.

- **Sintonía memorizada:** sintonice invocando una emisora memorizada presionando simplemente una tecla de memorización.

- **Edición de etiquetas**
Frecuencias memorizadas en etiquetas, husos horarios, etc., con un nombre de emisora, nombre de ciudad, etc., o cualquier combinación de hasta 6 caracteres alfanuméricos.
- **Operación con temporizador incorporado**
Conectará automáticamente la alimentación de la radio a la hora programada y sintonizará la emisora deseada. Usted podrá programar dos horas de espera y frecuencias individuales en STANDBY MEMORY a y b.
- **Temporizador cronodesconector**
Programa el temporizador cronodesconector y duérmase escuchando la radio. El temporizador desconectará automáticamente la alimentación de la radio después de aproximadamente 60 minutos.
- **Recepción de FM en estéreo**
Para disfrutar de FM en estéreo, utilice los auriculares estéreo suministrados.

IMPORTADOR:
SONY ELECTRÓNICOS DE MÉXICO, S.A. DE C.V.
HENRY FORD # 29, FRACC. IND. SAN NICOLAS
TLALNEPANTLA EDO. DE MÉXICO, C.P. 54030
R.F.C. SEM 941001 BJA TEL. 321-1000

POR FAVOR LEA DETALLADAMENTE ESTE MANUAL DE INSTRUCCIONES ANTES DE CONECTAR Y OPERAR ESTE EQUIPO.

RECUERDE QUE UN MAL USO DE SU APARATO PODRÍA ANULAR LA GARANTÍA.

Índice

Preparativos

Ubicación de partes y controles	4
Fuentes de alimentación	9
Alimentación con pilas	9
Alimentación con la corriente de la red	11
Ajuste del reloj	12
Ajuste de la hora local	12
Búsqueda de la hora en otras zonas del mundo	14

Escucha de la radio

Diversas formas de recepción	16
Sintonía directa	16
Sintonía manual	18
Sintonía con exploración	20
Sintonía memorizada	22
Sintonía con invocación de emisoras de SW (SW STATION CALL)	24
Sintonía memorizada MY	27
Recepción de transmisiones de banda lateral única (SSB) y onda continua (CW)	30
Ajuste para la recepción óptima de AM — Detección sincrónica	31

Otras operaciones

Utilización de la antena exterior suministrada	32
Grabación de emisiones de radiodifusión	35
Edición de etiquetas	36
Utilización del temporizador	38
Para despertarse con la radio o el zumbador — Función de espera	38
Para dormirse escuchando la radio — Temporizador cronodesconector	41
Utilización de la función de bloqueo	42
Desactivación de los pitidos	43

Información adicional

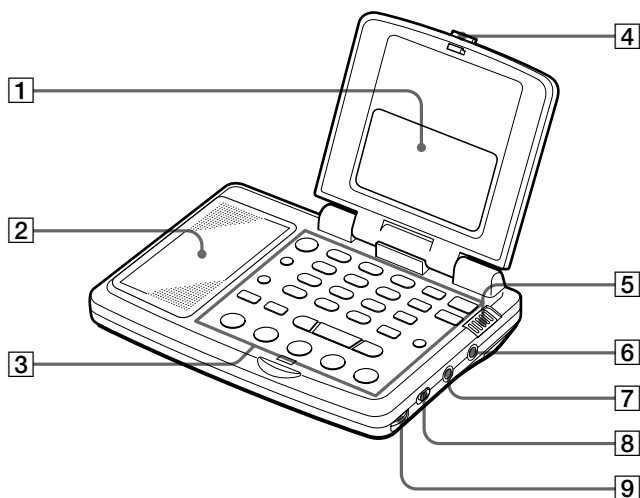
Precauciones y mantenimiento	44
Solución de problemas	47
Especificaciones	49
Sugerencias sobre las ondas radioeléctricas ..	50

ES

Ubicación de partes y controles

Con respecto a los detalles, consulte las páginas entre paréntesis.

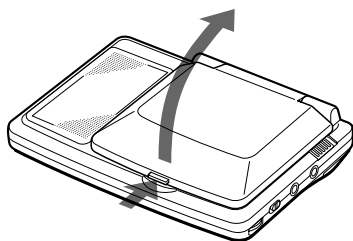
Panel frontal



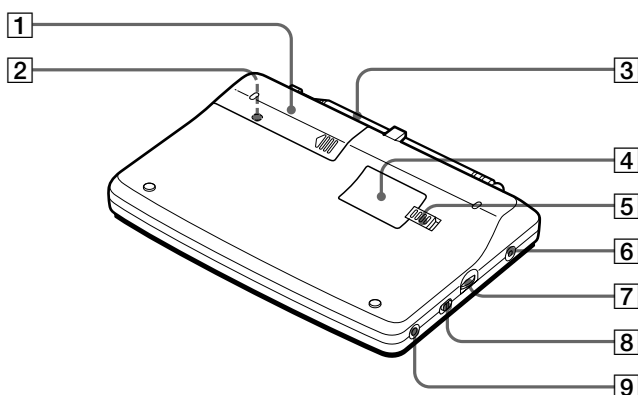
- | | |
|---------------------------------------|---|
| 1 Visualizador (7) | 6 Toma para auriculares |
| 2 Altavoz | 7 Toma de salida de línea (LINE OUT) (35) |
| 3 Controles (6) | 8 Selector de tono/estéreo•monoaural (TONE/ST•MONO) (17) |
| 4 Tecla de apertura (OPEN) (4) | 9 Control de volumen (VOL) (17) |
| 5 Mando de bloqueo (HOLD) (42) | |

Apertura de la cubierta

Para abrir la cubierta, presione la tecla OPEN. Ajuste el ángulo a su gusto.



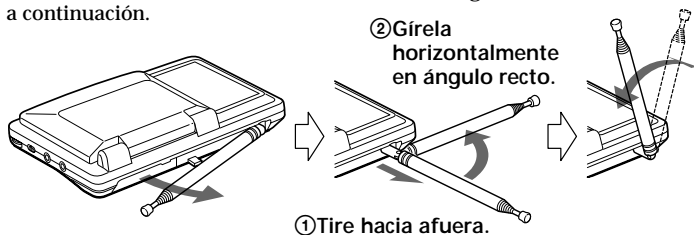
Panel posterior



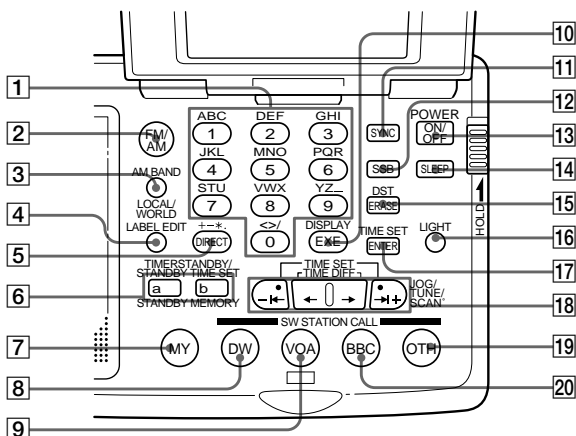
- | | |
|--|--|
| <p>1 Compartimiento de las pilas (9)</p> <p>2 Tecla de reposición (RESET)
Cuando la radio no funcione adecuadamente, presione esta tecla del compartimiento de las pilas con un objeto puntiagudo. Los ajustes del reloj, etc., volverán a los de fábrica. Las frecuencias que haya almacenado en la memoria se conservarán.</p> <p>3 Antena telescópica (17)</p> <p>4 Tapa del compartimiento de la memoria de lectura solamente (ROM) (46)</p> | <p>5 Mando deslizable de la tapa del compartimiento de la memoria de lectura solamente (ROM) (RELEASE) (46)</p> <p>6 Toma de entrada de alimentación externa (DC IN 3V \diamond \square \square) (11)</p> <p>7 Control de atenuación (ATT) (21)</p> <p>8 Interruptor de activación/desactivación de atenuación (ATT ON•OFF) (21)</p> <p>9 Toma para antena exterior de AM (AM EXT ANT) (33)</p> |
|--|--|

Extensión de la antena

Tire suavemente de la base de la antena antes de girarla, como se muestra a continuación.

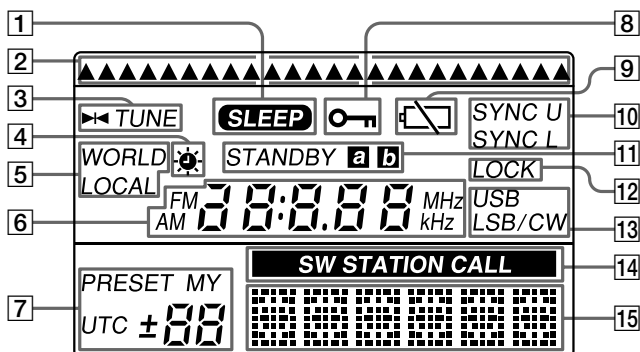


Controles



- | | |
|--|--|
| <p>1 Teclas numéricas (16, 22, 36)</p> <p>2 Tecla selectora de FM/AM (FM/AM) (16, 43)</p> <p>3 Tecla selectora de banda de AM • hora local/mundial (AM BAND • LOCAL/WORLD) (14, 18)</p> <p>4 Tecla de edición de etiquetas (LABEL EDIT) (36)</p> <p>5 Tecla de selección directa (DIRECT) (16)</p> <p>6 Tecla de memoria en espera • espera del temporizador/ajuste de hora en espera (STANDBY MEMORY • TIMER STANDBY/STANDBY TIMESET) (38)</p> <p>7 Tecla de memoria (MY) (27)</p> <p>8 Tecla de Deutsche Welle (DW) (24)</p> <p>9 Tecla de La Voz de América (VOA) (24)</p> <p>10 Tecla de ejecución • visualización (EXE • DISPLAY) (13, 16, 36) Presiónela para cambiar a la visualización del reloj cuando esté utilizando la radio. Vuelva a presionarla para regresar a la visualización anterior. Si no presiona la tecla, la visualización volverá a la condición anterior en unos 10 segundos.</p> | <p>11 Tecla de detección sincronizada (SYNC) (31)</p> <p>12 Tecla de banda lateral única (SSB) (30)</p> <p>13 Tecla de conexión/desconexión de la alimentación (POWER ON/OFF) (16)</p> <p>14 Tecla del temporizador cronodesconectador (SLEEP) (41)</p> <p>15 Tecla de borrado • hora de ahorro de luz diurna (ERASE • DST) (12, 23, 29, 40)</p> <p>16 Tecla de iluminación (LIGHT) Presione esta tecla para hacer que el visualizador se ilumine durante aproximadamente 30 segundos.</p> <p>17 Tecla de introducción • ajuste de hora (ENTER • TIME SET) (12, 22, 27, 38)</p> <p>18 Teclas de lanzadera/sintonía/exploración • diferencia de hora/ajuste de hora (JOG/TUNE/SCAN • TIME DIFF/TIME SET) (12, 18, 20)</p> <p>19 Tecla para otras emisoras (OTH) (25)</p> <p>20 Tecla de la BBC (BBC) (24)</p> |
|--|--|

Visualizador

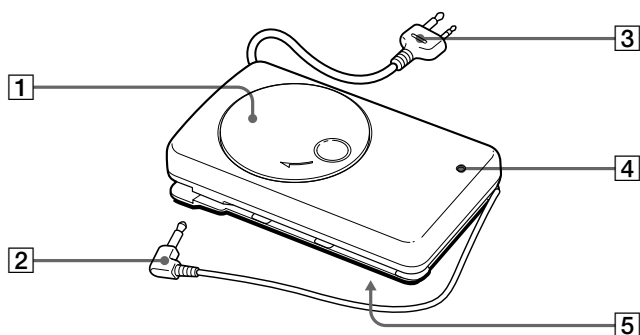


- | | |
|--|--|
| <p>1 Indicador del temporizador cronodesconector (SLEEP) (41)
Aparecerá cuando active el temporizador cronodesconector.</p> <p>2 Indicador de huso horario (12, 14)
Señalará el uso horario en el mapa correspondiente a su ajuste de diferencia de hora.</p> <p>3 Indicador de sintonía (TUNE) (16)
Aparecerá cuando sintonice una emisora.</p> <p>4 Indicador de hora de ahorro de luz diurna (12, 14)
Aparecerá cuando la visualización de la hora esté ajustada a la hora de ahorro de luz diurna.</p> <p>5 Indicador de hora mundial•local (WORLD•LOCAL) (12, 14)</p> <p>6 Visualizador de hora/frecuencia (12, 16)</p> <p>7 Visualizador de número de memoria/diferencia de hora (12, 22, 27)</p> <p>8 Indicador de bloqueo (HOLD) (42)
Aparecerá cuando active la función de HOLD. No funcionará ninguna tecla.</p> | <p>9 Indicador de las pilas (10)</p> <p>10 Indicadores de detección sincrónica (SYNC U•SYNC L) (31)</p> <p>11 Indicadores de espera (STANDBY a•b) (38)
Aparecerán cuando la unidad se encuentre a la espera de la recepción activada por el temporizador.</p> <p>12 Indicador de bloqueo de detección sincronizada (LOCK) (31)
Aparecerá cuando active la detección sincronizada.</p> <p>13 Indicadores de banda lateral única•banda lateral inferior/onda continua (USB•LSB/CW) (30)</p> <p>14 Indicador de invocación de emisoras de onda corta (SW STATION CALL) (24)</p> <p>15 Visualizador de etiquetas (12, 16)
Visualizará nombres de emisoras, ciudades, bandas, y bandas métricas memorizadas.</p> |
|--|--|

Antena activa de onda corta AN-LP2

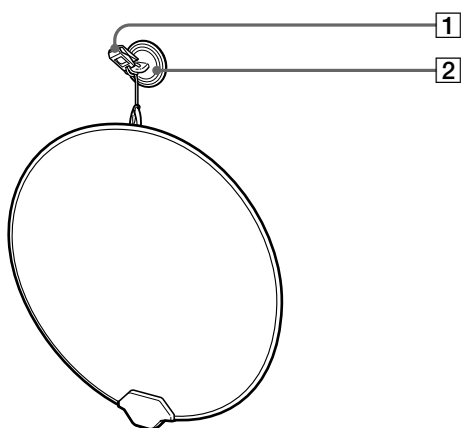
Con respecto a cómo utilizar la antena activa, consulte la página 32.

Controlador de antena



- 1 Bobinador de cable
- 2 Cable corto
- 3 Cable largo
- 4 Lámpara indicadora de alimentación
- 5 Compartimiento de las pilas

Módulo de antena



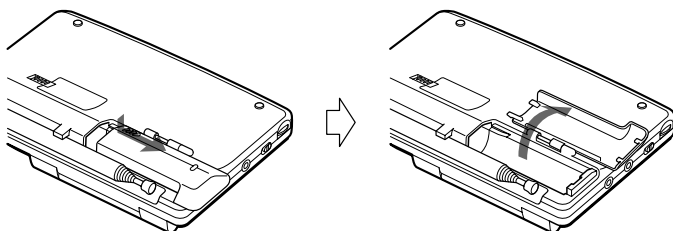
- 1 Presilla
- 2 Ventosa

Fuentes de alimentación

Alimentación con pilas

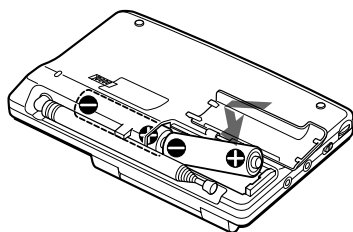
Para alimentar la unidad con la corriente de la red, consulte "Alimentación con la corriente de la red", página 11.

- 1 Deslice y abra la tapa del compartimiento de las pilas.

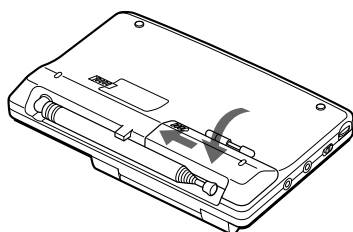


- 2 Inserte dos pilas R6 (tamaño AA) en el compartimiento para las mismas.

Insértelas con la polaridad correcta, como se muestra en la ilustración.

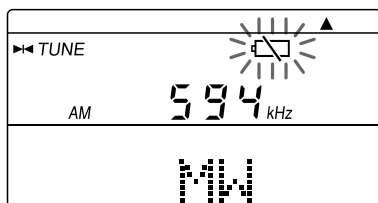


- 3 Cierre la tapa del compartimiento de las pilas.



Reemplazo de las pilas

Cuando las pilas se debiliten, el sonido puede oírse débil o distorsionado, y en el visualizador parpadeará “⚡”. Después de ello, cuando las pilas se agoten, permanecerá encendido “⚡”, y la alimentación de la unidad se desconectará. Cuando suceda esto, reemplace las pilas por otras nuevas. La unidad cambiará al modo de reloj desde cualquier otro modo.



Duración de las pilas (JEITA*)

	Alcalinas LR6 (tamaño AA) Sony	R6 (tamaño AA) Sony
FM	aprox. 32 horas	aprox. 10 horas
AM	aprox. 23 horas	aprox. 8 horas

* Medición realizada con las normas de JEITA (Japan Electronics and Information Technology Industries). La duración real de la pila puede variar dependiendo de las circunstancias de la unidad.

Sugerencias

- Reemplace las pilas antes de 3 minutos. De lo contrario, el ajuste del reloj se borraría. Las frecuencias almacenadas en la memoria no se borrarán.
- Cuando las pilas se agoten, no funcionará ninguna tecla, excepto LIGHT.
Las teclas no volverán a funcionar mientras no reemplace las pilas y presione POWER ON/OFF para conectar la alimentación y borrar la indicación “⚡”.

Notas sobre las pilas

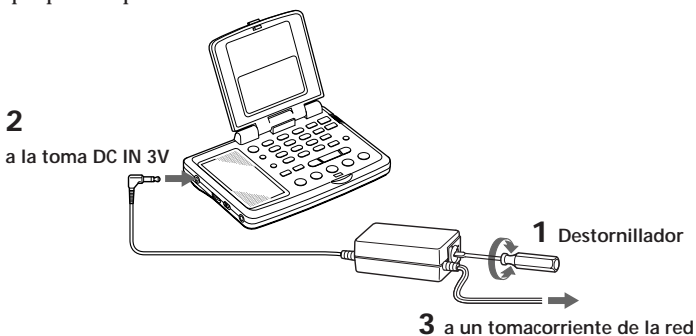
- Inserte las pilas con la polaridad correcta.
- No mezcle pilas nuevas con viejas. No mezcle pilas de tipos diferentes.
- No trate de cargar pilas.
- Cuando no vaya a utilizar la unidad durante mucho tiempo, extráigale las pilas.
- Si el electrolito de las pilas se fuga, limpie bien el compartimiento de las mismas antes de instalar otras nuevas.

Alimentación con la corriente de la red

Para alimentar la unidad con la corriente de la red, conecte el adaptador de alimentación* de CA suministrado a la toma DC IN 3V de la unidad. Antes de conectar el adaptador de CA, cerciórese de ajustar el adaptador de tensión de acuerdo con la tensión de la red local con un destornillador como se ilustra más abajo.

El adaptador de alimentación de CA no funcionará si se ajusta en OFF.

No ajuste la tensión mientras está conectado a la toma de corriente, ya que pueden producirse fallos de funcionamiento.



Notas sobre el adaptador de alimentación de CA

- No doble ni retuerza el cable de alimentación a la fuerza. No coloque objetos pesados sobre el cable de alimentación.
- Para desconectar el adaptador de alimentación del tomacorriente de la red, tire del enchufe. No tire del propio cable.
- Cuando no vaya a utilizar la unidad durante mucho tiempo, desconecte el adaptador de alimentación de CA del tomacorriente y de dicha unidad.

Sugerencia

Cuando enchufe el adaptador de alimentación de CA en la toma DC IN 3V de la unidad, las pilas se desconectarán, y la unidad cambiará automáticamente a la fuente de alimentación externa.

Notas sobre las fuentes de alimentación externas

- Mantenga las pilas instaladas incluso aunque utilice una fuente de alimentación externa, ya que sirven de alimentación de protección de la memoria. Reemplace las pilas una vez al año.
- Antes de conectar o desconectar fuentes de alimentación externas, desconecte la alimentación de la unidad. De lo contrario, la alimentación podría desconectarse y podría aparecer "E". En este caso, vuelva a conectar la alimentación para borrar la indicación "E".
- Para alimentar la unidad con pilas, desconecte en primer lugar el adaptador de alimentación de CA del tomacorriente y después de la toma DV IN 3V de la unidad. La unidad no funcionará con pilas mientras esté enchufada una clavija en la toma DC IN 3V.
- Utilice solamente un adaptador de alimentación de CA fabricado por Sony. La utilización de adaptadores de CA con especificaciones diferentes (polaridad de la clavija, etc.) podría resultar en mal funcionamiento y daños de la unidad.
- Si el enchufe del adaptador de alimentación de CA* no entra en el tomacorriente de la red, utilice el adaptador de enchufe suministrado.

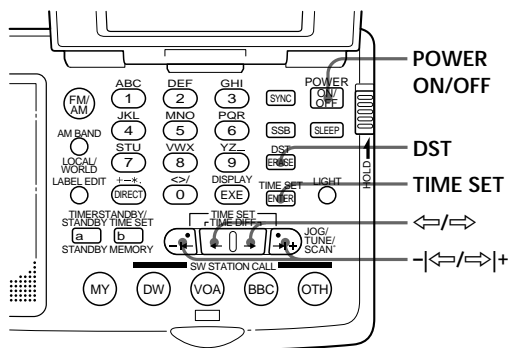


* No suministrado para ciertos países. Consulte "Especificaciones".

Ajuste del reloj

Ajuste de la hora local

Ajuste el reloj si en el visualizador parpadea "0:00" (es decir, cuando instale por primera vez las pilas o cuando desee reajustar el reloj). Ajuste el reloj con la alimentación de la radio desconectada.



Hora local (LOCAL) significa la hora de su huso horario, y hora mundial (WORLD) es la hora para cualquier otro huso horario del mundo.

El ajuste del reloj se realiza con la hora LOCAL. Antes de ajustar el reloj, consulte la tabla de la página 15 y compruebe la diferencia de hora entre la de su huso horario y la hora universal coordinada (UTC). Los nombres de las principales ciudades y sus diferencias de hora con UTC están almacenados en la memoria de la unidad.

1 Si la alimentación de la radio está conectada, presione POWER ON/OFF para desconectarla.

2 Mantenga pulsada TIME SET y presione ← o → para elegir una ciudad o diferencia de hora entre su hora local y la UTC.

Cuando presione TIME SET, la visualización del reloj cambiará automáticamente a la hora LOCAL, si estaba visualizándose la hora WORLD.

Parpadeará la indicación LOCAL.

Cada vez que presione ← o → indicador del huso horario se moverá hacia la derecha o la izquierda.

Cuando suelte TIME SET, la indicación LOCAL dejará de parpadear y permanecerá visualizada.

De esta forma habrá seleccionado su huso horario local.



3 Si su huso horario se encuentra actualmente en la hora de ahorro de luz diurna, presione DST.

☀ aparecerá en el visualizador.

Si en su huso horario no se utiliza la hora de ahorro de luz diurna, o si ya está visualizándose ☀, salte este paso.

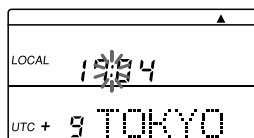
4 Mantenga pulsada TIME SET y presione \leftarrow o \rightarrow para ajustar la hora local.

Cada vez que presione \leftarrow o \rightarrow , la hora actual se reducirá o aumentará un minuto.

Para cambiar rápidamente los dígitos, mantenga presionada \leftarrow o \rightarrow

5 Suelte TIME SET.

“:” comenzará a parpadear, y el reloj se pondrá en funcionamiento.




Para cambiar a la visualización del reloj mientras la alimentación de la radio esté conectada

Presione EXE. La hora actual aparecerá durante unos 10 segundos, y después reaparecerá la visualización anterior. Para volver manualmente a la visualización anterior, presione de nuevo EXE.

La visualización no cambiará a la del reloj mientras la radio esté ejecutando la exploración.

Para las zonas que adopten la hora de ahorro de luz diurna (hora de verano)

Presione DST para hacer que se visualice la indicación  si se encuentra actualmente en el período de verano (paso 3 de la página anterior). Si se encuentra actualmente en el período de hora estándar, presione DST al comienzo del período de la hora de ahorro de luz diurna. Vuelva a presionarla al finalizar el período de la hora de ahorro de luz diurna para borrar la indicación. La visualización de la hora se ajustará en consecuencia.

Nota

Usted no podrá ajustar el reloj mientras escuche la radio.

Si la alimentación de la radio está conectada, presione en primer lugar POWER ON/OFF para desconectarla.

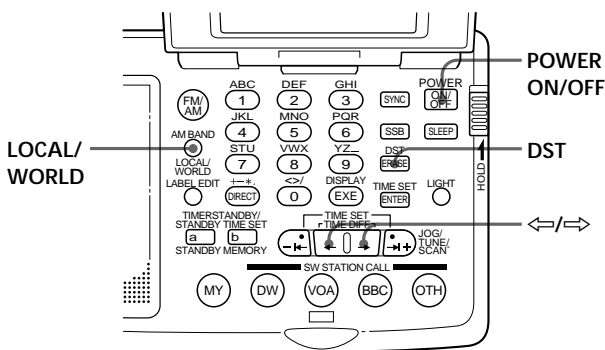
Sugerencias

- El reloj se visualizará según el sistema de 24 horas.
- Para parar el parpadeo de “0:00”, presione TIME SET.
- Para ajustar la hora al segundo, suelte TIME SET al oír una señal horaria.

Ajuste del reloj (continuación)

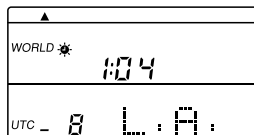
Búsqueda de la hora en otras zonas del mundo

Además de su hora local, usted podrá hacer que se visualice cualquier otro huso horario del mundo (hora WORLD). Para hacer que se visualice la hora WORLD, desconecte la alimentación de la radio.



- 1** Si la alimentación de la radio está conectada, presione POWER ON/OFF para conectarla.
- 2** Si está visualizándose la indicación LOCAL, presione LOCAL/WORLD para cambiar a la indicación WORLD.
- 3** Para elegir una ciudad o la diferencia de hora con UTC, presione ← o →.
- 4** Si el área especificada se encuentra actualmente en la hora de ahorro de luz diurna, presione DST para hacer que se visualice la indicación ☀.

Si la hora de ahorro de luz diurna no se utiliza en el área deseada, o si ya está visualizándose ☀, salte este paso. La hora actual para el área que haya especificado aparecerá en el visualizador.



Para volver a la visualización de la hora LOCAL
Presione de nuevo LOCAL/WORLD.

Si el nombre de la ciudad o el del área deseado no está memorizado

Seleccione el área eligiendo la diferencia de hora con respecto a UTC.

Para editar la etiqueta (es decir, el nombre de la ciudad) para el huso horario, consulte "Edición de etiquetas", página 36.

Diferencia de hora entre la local y UTC

La tabla siguiente muestra la diferencia de hora de cada huso horario con respecto a UTC, que puede formularse de la forma siguiente:

$$\text{Diferencia de hora} = \text{Hora local}^* - \text{UTC}$$

El número de horas marcado con un signo positivo (+) indica las horas posteriores a UTC, mientras que los marcados con un signo negativo (-) indican las horas anteriores a UTC.

Diferencia de hora	Etiqueta**	Ciudad o área	Otras ciudades del área	Intervalo de exploración
± 0	LONDON	Londres		9 kHz
+ 1	C.EURO	Europa central	Amsterdam, Berlín, Bruselas, Lisboa, Madrid, París, Roma, Estocolmo, Viena, Zurich	
+ 2	CAIRO	Cairo	Atenas, Estambul	
+ 3	JEDDAH	Jeddah	Nairobi, Riyadh, Moscú	
+ 4	DUBAI	Dubai		
+ 5	KARACH	Karachi		
+ 6	DHAKA	Dhaka(Dacca)		
+ 7	BNGKOK	Bangkok	Jakarta	
+ 8	S.PORE	Singapur	Pekín, Hongkong	
+ 9	TOKYO	Tokio	Seúl	
+ 10	SYDNEY	Sydney	Guam	
+ 11	SOLMON	Salomón	Noumea	
+ 12	AUKLND	Auckland	Fiji	
- 11	SAMOA	Samoa		10 kHz
- 10	HAWAII	Hawaii	Honolulu, Tahiti	
- 9	ANCHRG	Anchorage		
- 8	L.A.	Los Angeles	San Francisco, Vancouver	
- 7	DENVER	Denver	Calgary	
- 6	CHICAG	Chicago	Dallas, Ciudad de Méjico	
- 5	N.Y.	New York	Lima, Panamá, Toronto	
- 4	CARACS	Caracas	Santiago	
- 3	RIO	Río de Janeiro	Buenos Aires, San Paulo	9 kHz
- 2	FN.ISL	Isla Fernando		
- 1	AZORES	Islas Azores		

* Hora local antes del ajuste de la hora de ahorro de luz diurna (DST). El ajuste de DST no afectará la indicación de la diferencia de hora.

** Etiquetas predeterminadas. Para cambiar las etiquetas, consulte "Edición de etiquetas", página 36.

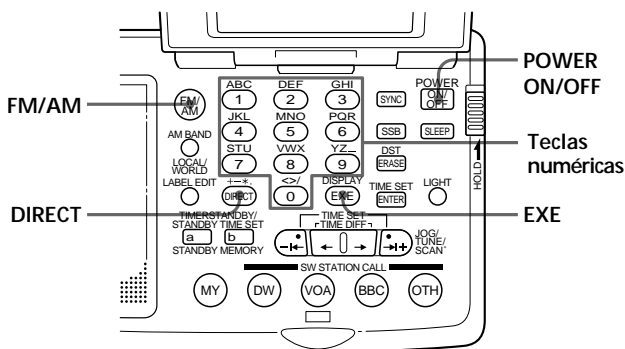
Ajuste automático del intervalo entre canales de MW

El intervalo entre canales es la unidad básica de separación en el sistema de asignación de frecuencias. El intervalo entre canales de MW difiere de país a país (10 kHz para Norte y Sudamérica, y 9 kHz para Japón, Europa, y otros países). Normalmente, el intervalo de exploración o de sintonía tendrá que ajustarse de acuerdo con el sistema del área de exploración, o habrá que sintonizar manualmente las frecuencias. Sin embargo, esta unidad juzgará su área local a partir del ajuste del huso horario (la diferencia de hora con relación a UTC) y elegirá automáticamente el intervalo entre canales apropiado.


Diversas formas de recepción

Sintonía directa

Si conoce la frecuencia de la emisora que desee escuchar, introduzca directamente los dígitos de la misma con las teclas numéricas.

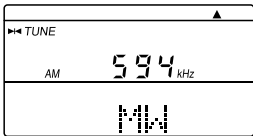


- 1** Presione POWER ON/OFF para conectar la alimentación de la radio.
- 2** Presione FM/AM para seleccionar la banda deseada. Para escuchar emisoras de SW (onda corta), MW (onda media) o LW (onda larga), seleccione AM.
- 3** Presione DIRECT. La frecuencia desaparecerá del visualizador, y aparecerá "DIRECT".


- 4** Para introducir la frecuencia de la emisora deseada, presione las teclas numéricas.

Banda de FM: Usted podrá ignorar el punto decimal. Para introducir 84,7 MHz, por ejemplo, presione 8, 4 y 7.

Banda de AM: Usted podrá ignorar los 3 últimos dígitos si todos son ceros. Para introducir 10.000 kHz, por ejemplo, presione 1 y 0. Complete cada operación de tecla antes de 10 segundos. El intervalo mínimo entre frecuencias para la introducción directa es de 0,05 MHz (50 kHz) para FM, y de 1 kHz para AM.
- 5** Para ejecutar la introducción, presione EXE. Cuando se sintonice la emisora, aparecerá "▶◀ TUNE".



Para corregir una introducción

Presione DIRECT y repita la operación desde el paso 3.

Si en el visualizador aparece "TRY" "AGAIN"

Si introduce una frecuencia inválida (es decir, una cifra que no esté dentro de la gama de frecuencias de la banda elegida), oír un pitido y en el visualizador aparecerá "TRY" "AGAIN".

Compruebe la frecuencia y repita la operación desde el paso 3.

Notas

- Complete cada operación de los pasos 3 a 5 antes de 10 segundos. Si la visualización vuelve a la frecuencia previamente sintonizada, repita la operación desde el paso 3.
- La unidad no emitirá pitidos si está ajustada a BEEP OFF (consulte "Desactivación de los pitidos", página 43).

Otras operaciones

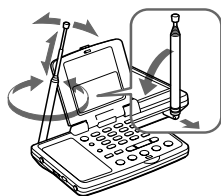
Para	Presione o ajuste
Sintonizar con precisión	-I<=>, <=>, =>, =>I+
Ajustar el volumen	VOL
Desconectar la alimentación de la radio*	POWER ON/OFF

* Cuando conecte la alimentación de la radio, ésta sintonizará la emisora previamente recibida.

Para mejorar la recepción

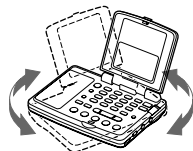
Recepción de FM

Tire suavemente de la antena telescópica y ajuste su longitud, ángulo, y orientación (consulte "Extensión de la antena", página 5).



Recepción de MW/LW

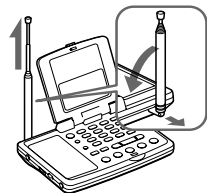
Repliegue la antena telescópica y gire la unidad a fin de orientar la antena de barra de ferrita incorporada.



Recepción de SW

Tire suavemente de la antena telescópica para extenderla verticalmente en toda su longitud.

Para SW, usted podrá disfrutar de mejor recepción utilizando la antena exterior suministrada (consulte "Utilización de la antena exterior suministrada", página 32).



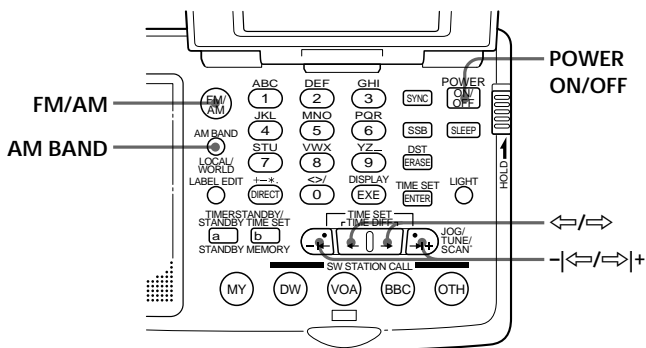
Sugerencias

- Para disfrutar de recepción de FM estéreo, enchufe los auriculares estéreo suministrados.
Para seleccionar estéreo o monoaural, ponga ST • MONO en ST o MONO. Seleccione MONO cuando la recepción sea ruidosa o poco clara.
- Para escuchar programas de noticias, etc., ajuste TONE a NEWS. Las voces se oírán con mayor claridad. Para escuchar programas de música, ajuste TONE a MUSIC.
- La recepción de frecuencias alrededor de 3,0MHz y 3,64 MHz puede resultar difícil debido a las señales parásitas internas generadas por los osciladores incorporados.

Diversas formas de recepción (continuación)

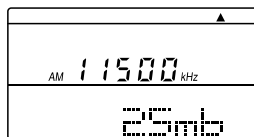
Sintonía manual

Utilice $-| \leftarrow$, $\Rightarrow |+$ o \leftarrow , \Rightarrow para cambiar manualmente paso a paso la frecuencia. Las teclas exteriores $-| \leftarrow$ y $\Rightarrow |+$ cambiarán la frecuencia en pasos mayores, y las interiores (\leftarrow y \Rightarrow) en pasos menores.



- 1** Presione POWER ON/OFF para conectar la alimentación de la radio.
- 2** Presione FM/AM para seleccionar la banda deseada. Para escuchar emisoras de SW, MW, o LW, seleccione AM.
- 3** Para las bandas de AM, mantenga pulsada AM BAND y presione $-| \leftarrow$ o $\Rightarrow |+$ a fin de seleccionar MW (onda media), LW (onda larga) o una banda métrica (onda corta).

En el visualizador aparecerán el nombre de la banda o de la banda métrica y su frecuencia inferior. Para FM, salte este paso.



- 4** Presione repetidamente $-| \leftarrow$, $\Rightarrow |+$ o \leftarrow , \Rightarrow hasta seleccionar la emisora deseada.

Con cada presión, la frecuencia cambiará con los intervalos mostrados a continuación. (Las cifras entre paréntesis indican los intervalos en el modo SSB.)

Banda	$- \leftarrow$ o $\Rightarrow +$	\leftarrow o \Rightarrow
FM	0,05 MHz	0,05 MHz
SW	5 kHz (1 kHz)	1 kHz (0,1 kHz**)
MW	9 o 10 kHz* (1 kHz)	1 kHz (0,1 kHz**)
LW	9 kHz (1 kHz)	1 kHz (0,1 kHz**)

* El intervalo entre frecuencias se ajustará automáticamente de acuerdo con el ajuste de su huso horario local (consulte "Ajuste automático del intervalo entre canales de MW", página 15).

** Las unidades de 0,1 kHz no se indicarán en el visualizador.

Sugerencias

- La unidad comenzará la sintonía con exploración cuando mantenga presionada \leftarrow o \rightarrow (consulte "Sintonía con exploración", página 20).
- La frecuencia cambiará rápidamente cuando mantenga presionada \leftarrow o \rightarrow , y se parará cuando la suelte. En las bandas de AM (MW, SW, y LW), la unidad explorará automáticamente en la gama de 150 a 29.999 kHz.

Gama de frecuencias de las bandas/bandas métricas

La gama de ondas cortas se divide en 14 bandas, que normalmente se denominan "bandas métricas".

(kHz para AM / MHz para FM)

Banda	Gama de frecuencias	Gama de frecuencias de exploración	Banda métrica	
AM	LW	150–529	—	
	MW	530–1620	530–1620 *1	—
			531–1620 *2	
	SW	1621–29999	2250–2550	Banda de 120 metros
			3150–3450	Banda de 90 metros
			3850–4050	Banda de 75 metros
			4700–5100	Banda de 60 metros
			5900–6250	Banda de 49 metros
			7100–7400	Banda de 41 metros
			9400–10000	Banda de 31 metros
			11500–12150	Banda de 25 metros
			13500–13900	Banda de 22 metros
			15000–15700	Banda de 19 metros
			17450–18000	Banda de 16 metros
18850–19100			Banda de 15 metros	
21450–21950	Banda de 13 metros			
25600–26100	Banda de 11 metros			
FM	76,00–108,00	76,00–108,00	—	

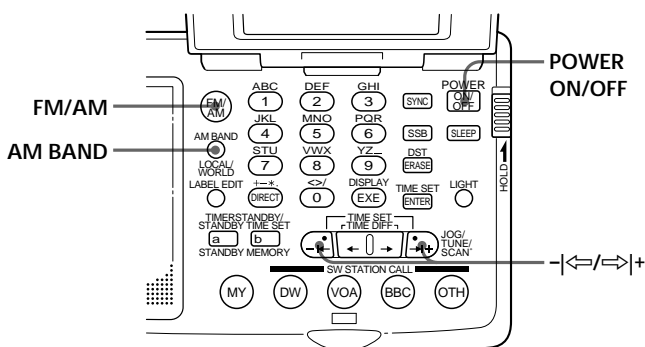
*1 Intervalo entre canales de 10 kHz (consulte la página 15).


*2 Intervalo entre canales de 9 kHz (consulte la página 15).

Nota

La gama de frecuencias real de las emisoras de onda corta y la de las bandas métricas para esta unidad puede diferir. Para más información, consulte el "Manual de ondas radioeléctricas" suministrado.

Diversas formas de recepción (continuación) Sintonía con exploración



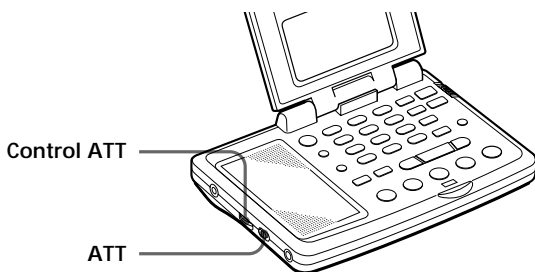
- 1** Presione POWER ON/OFF para conectar la alimentación de la radio.
- 2** Presione FM/AM para seleccionar la banda deseada. Para escuchar emisoras de SW, MW, o LW, seleccione AM.
- 3** Para bandas de AM, mantenga pulsada AM BAND y presione -|<=>|>+ para seleccionar MW (onda media), LW (onda larga), o una banda métrica (onda corta).
En el visualizador aparecerán el nombre de la banda o de la banda métrica y su frecuencia inferior.
Para FM, salte este paso.
- 4** Mantenga pulsada -|<=>|>+. Suéltela cuando la unidad comience a explorar.
Se visualizará "SCAN". La unidad se parará en cada emisora, y reanudará la exploración después de unos 3 segundos.
La unidad explorará dentro de la gama de frecuencias de la banda o de la banda métrica elegida (consulte "Gama de frecuencias de las bandas/bandas métricas", página 19). En el modo de recepción de SSB, la unidad explorará toda la gama de frecuencias de 150 a 29999 kHz.

- 5** Para parar la exploración y escuchar la emisora deseada, presione -|<=>|>+
"SCAN" desaparecerá del visualizador y aparecerán el nombre y la banda.

Sugerencias

- La unidad explorará las frecuencias en orden descendente cuando mantenga presionada $-I \leftarrow$ y en orden ascendente cuando mantenga presionada $\Rightarrow I+$.
- Para cambiar el sentido de exploración al anterior, mantenga presionada $-I \leftarrow$ o $\Rightarrow I+$. Esto será muy útil, por ejemplo, cuando desee volver a la emisora anterior después de que la unidad haya reanudado la exploración.
- Cuando explore emisoras de MW por la noche cuando la recepción sea intensa, o cuando explore cuando haya muchas interferencias, la unidad puede parar la exploración con frecuencia. Ponga ATT en ON y ajuste la sensibilidad con el control ATT (consulte “Control de las paradas de exploración”, más abajo). En condiciones normales, deje ATT en OFF.

Control de las paradas de exploración – utilizando el interruptor ATT y el control ATT

Utilice el interruptor ATT (atenuador) y el control ATT para controlar la sensibilidad de parada frecuente de la recepción de la unidad o cuando haya muchas interferencias. En condiciones normales, utilice la radio con el interruptor ATT ajustado a OFF (es decir, con la máxima sensibilidad).



El control ATT se activará cuando ponga el interruptor ATT en ON. Gire el control ATT hacia MAX para reducir la sensibilidad. La radio saltará señales débiles y se parará solamente en las más fuertes.

Nota

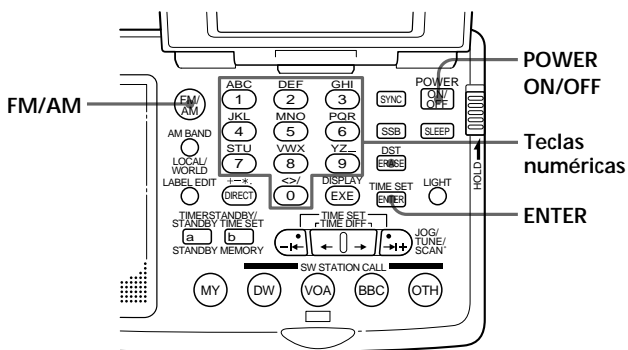
Si el control está demasiado girado hacia MAX, la radio no se parará en señales débiles. Si no necesita utilizar el atenuador, ponga el interruptor ATT en OFF.

Diversas formas de recepción (continuación)

Sintonía memorizada

Usted podrá memorizar hasta un total de 20 emisoras en las teclas de memorización (10 de FM y otras 10 de AM).

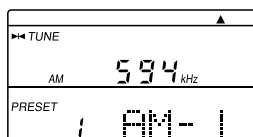
Memorización de emisoras



- 1 Presione POWER ON/OFF para conectar la alimentación de la radio.
- 2 Sintonice la emisora que desee memorizar.
- 3 Mantenga pulsada ENTER y presione la tecla numérica (0-9) correspondiente.

Cuando mantenga presionada ENTER, en el visualizador parpadeará "PRESET MY".

Cuando presione una tecla numérica sonará un pitido. La emisora se almacenará en tal tecla. Se visualizarán el número y la etiqueta de memorización.



Nota

Si ya hay una emisora almacenada en la tecla elegida, la previamente almacenada será reemplazada por la nueva. Si la etiqueta ya había sido editada, volverá al ajuste predeterminado.

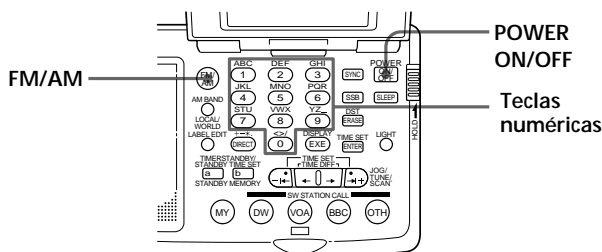
Etiquetas predeterminadas

Cada vez que presione una tecla, a ésta se le asignará la etiqueta predeterminada siguiente como se muestra.

Para cambiar las etiquetas, consulte "Edición de etiquetas", página 36.

Tecla	AM	FM
1	AM-1	FM-1
2	AM-2	FM-2
3	AM-3	FM-3
4	AM-4	FM-4
5	AM-5	FM-5
6	AM-6	FM-6
7	AM-7	FM-7
8	AM-8	FM-8
9	AM-9	FM-9
0	AM-0	FM-0

Sintonía de una emisora memorizada



- 1 Presione POWER ON/OFF para conectar la alimentación de la radio.
- 2 Presione FM/AM para seleccionar la banda deseada.
- 3 Presione la tecla numérica (0-9) correspondiente. La radio recibirá la emisora asignada a tal tecla.

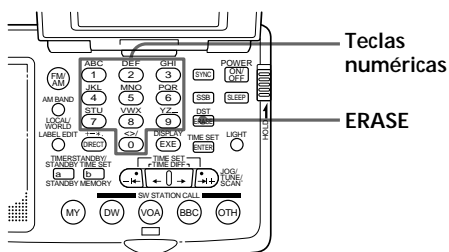
Si no hay emisoras almacenadas

Sonará un pitido y en el visualizador aparecerá "MEMORY" "EMPTY". Después la visualización volverá a la condición anterior.

Notas

- La radio puede tener frecuencias almacenadas en la memoria al salir de la fábrica.
- La unidad no emitirá pitidos si está ajustada a BEEP OFF (consulte "Desactivación de los pitidos", página 43).

Borrado de una emisora memorizada



- 1 Presione la tecla numérica (0-9) correspondiente a la emisora memorizada que desee borrar.
- 2 Mantenga presionada ERASE. El número de memorización parpadeará en el visualizador mientras mantenga presionada ERASE. 3 segundos después sonará un pitido y la emisora asignada a la tecla presionada se borrará. El número de memorización y la etiqueta preajustada desaparecerán.

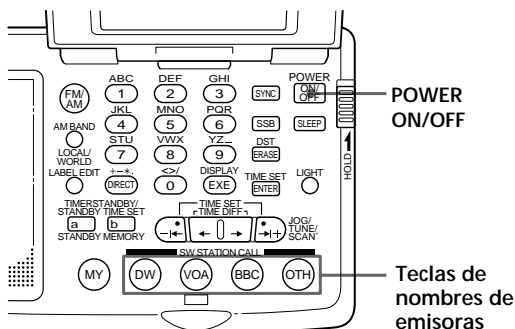
Nota

Cuando borre una emisora memorizada, se borrarán también todos los cambios realizados en su etiqueta predeterminada.

Diversas formas de recepción(continuación)

Sintonía con invocación de emisoras de SW (SW STATION CALL)

Sintonice las principales emisoras de onda corta presionando simplemente las teclas correspondientes a las mismas: DW, VOA, BBC, y OTH (otras). La radio elegirá automáticamente las frecuencias utilizadas en su huso horario en la ROM* SW STATION CALL instalada en la base de la unidad, las explorará y, cuando reciba una emisora, parará la exploración.



*ROM = Memoria de lectura solamente

1 Ajuste el huso horario de su área.

Con respecto a la hora LOCAL, consulte "Ajuste de la hora local", página 12.

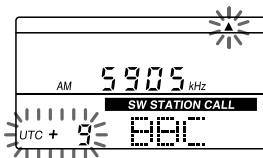
Con respecto a la hora WORLD, consulte "Búsqueda de la hora en otras áreas del mundo", página 14.

SW STATION CALL seleccionará de forma automática **solamente las frecuencias recibibles en el área correspondiente al huso horario que haya ajustado**, independientemente de la hora LOCAL o WORLD. Por lo tanto, es crucial que usted ajuste adecuadamente el huso horario de la zona en la que se encuentre antes de utilizar SW STATION CALL:

2 Presione POWER ON/OFF para conectar la alimentación de la radio.

3 Presione la tecla correspondiente a la emisora deseada.

Se visualizarán "SW STATION CALL", el nombre y la frecuencia de la emisora. La diferencia de hora con respecto a UTC y el indicador de uso horario parpadearán durante unos 3 segundos, y después permanecerán visualizados.



Confirme el ajuste de su huso horario.

La frecuencia actualmente visualizada puede ser diferente a la de la ilustración.

4 Vuelva a presionar la misma tecla de emisora.

La radio explorará las frecuencias para su área en orden ascendente y después se parará en una emisora.

Para reanudar la exploración, presione de nuevo la tecla.

Para parar la exploración

Presione de nuevo la misma tecla durante la exploración.

Para invocar las frecuencias seleccionadas una tras otra

Mantenga pulsada la tecla de emisoras y presione \leftarrow , \Rightarrow o $-I\leftarrow$, $\Rightarrow I+$.

La frecuencia cambiará rápidamente cuando mantenga presionada $-I\leftarrow$ o $\Rightarrow I+$, y se parará cuando la suelte.

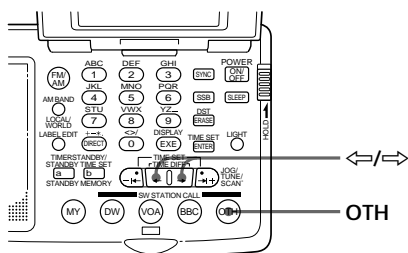
Sugerencia

Cuando explore emisoras por la noche cuando la recepción sea intensa, o cuando explore cuando haya muchas interferencias, la unidad puede parar la exploración con frecuencia. Ponga ATT en ON y ajuste la sensibilidad con el control ATT (consulte "Control de las paradas de exploración", página 21). En condiciones normales, deje ATT en OFF.

Emisoras invocadas con las teclas de emisoras SW STATION CALL

Tecla	Emisora y programa
DW	Programas en inglés y alemán de Deutsche Welle
VOA	Programas en inglés de Voice of America
BBC	Programas en inglés de British Broadcasting Corporation
OTH	Elija lo siguiente*: R.NED - Programas en inglés y holandés de Radio Nederland RFI - Programas en inglés y francés de Radio France International R.JPN - Programas en inglés y japonés de Radio Japan REE - Programas en inglés y español de Radio Exterior de España CRI - Programas en inglés y chino de China Radio International

*Selección de emisoras para la tecla OTH



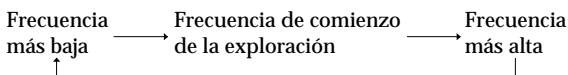
Desconecte la alimentación de la radio si está conectada.

Mantenga pulsada OTH y presione \leftarrow o \Rightarrow . Cuando en el visualizador aparezca la emisora deseada, suelte OTH,

Los pasos para la recepción son iguales que con las otras teclas SW STATION CALL.

Cuando no haya recepción

Si la radio no puede recibir ninguna de las frecuencias para el huso horario almacenadas en la ROM, la exploración se parará con un pitido cuando la radio vuelva a la frecuencia en la que se haya iniciado la exploración.



La recepción en onda corta puede resultar a veces difícil debido a varios factores, tales como la actividad solar y las condiciones atmosféricas. Además, las principales emisoras cuyos datos están almacenados en la ROM pueden cambiar la hora de emisión y/o la frecuencia con el cambio de la estación, etc. En tales casos, es posible que la radio no reciba las frecuencias almacenadas en la ROM SW STATION CALL.

Actualización de la ROM SW STATION CALL

Para ponerse de acuerdo con los posibles cambios de frecuencias, la ROM SW STATION CALL ha sido diseñada para que el usuario la reemplace por versiones actualizadas. La ROM más reciente de SW STATION CALL la vende F Corporation. La ROM se actualiza anualmente alrededor de octubre. Le recomendamos que reemplace la ROM cada 2 o 3 años.

Para adquirir la ROM más reciente, consulte “Purchasing the latest SW STATION CALL ROM” (en inglés y japonés solamente) y póngase en contacto con F Corporation.

Para cambiar la ROM, consulte “Cambio de la ROM SW STATION CALL”, página 46.

Notas

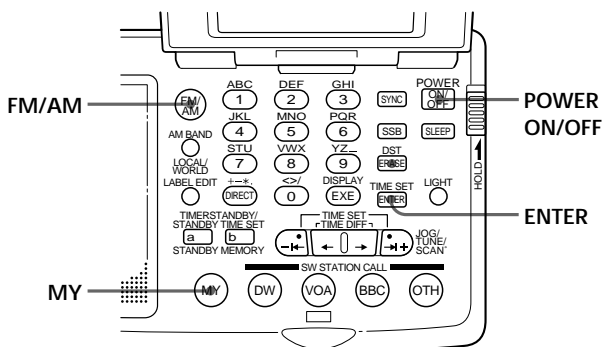
- Muchas de las emisoras mundiales almacenadas en la ROM emiten solamente a ciertas horas del día. Si una emisora no está emitiendo en la frecuencia explorada en cierto momento, la radio no recibirá la emisión de ninguna otra emisora, incluso aunque sea local.
- Si cambia la frecuencia con la sintonía manual, etc., cuando en el visualizador esté indicándose “SW STATION CALL”, la radio saldrá de la función de SW STATION CALL, y la indicación desaparecerá.
- Si no hay frecuencia para la emisora correspondiente al huso horario almacenado en la ROM, sonará un pitido, en el visualizador aparecerá “MEMORY” “EMPTY”, y la radio volverá a la condición anterior.
- Si presiona una tecla de emisoras sin ROM en el compartimiento para la ROM de la radio, sonará un pitido, en el visualizador aparecerá “NO” “ROM”, y la radio volverá a la condición anterior. Si extrae la ROM cuando en el visualizador esté indicándose “SW STATION CALL”, sonará un pitido, en el visualizador aparecerá, “NO” “ROM”, y la radio cambiará a la sintonía manual.
- Si se visualiza “NO” “ROM” con la ROM SW STATION CALL insertada en el compartimiento para la misma, es posible que la superficie de contacto de dicha ROM esté sucia. Consulte “Limpieza de la superficie de contacto de la ROM SW STATION CALL, página 46, y limpie tal superficie con un palillo de cabeza de algodón. No limpie los resortes de contacto de la unidad principal, ya que podrían deformarse y causar un mal funcionamiento.

Diversas formas de recepción (continuación)

Sintonía memorizada MY

Usted podrá almacenar hasta 100 emisoras de cualquier banda (FM, SW, MW, o LW) en la tecla MY. Estas emisoras podrá explorarlas una tras otra.

Almacenamiento de emisoras en la memoria MY



- 1 Presione POWER ON/OFF para conectar la alimentación de la radio.
- 2 Sintonice la emisora que desee almacenar.
- 3 Mantenga pulsada ENTER y presione MY. Mientras mantenga pulsada ENTER, en el visualizador parpadeará "PRESET MY". Cuando presione MY sonará un pitido. La emisora se almacenará en el número de la memoria MY más bajo disponible (00 a 99). Se visualizarán el número y la etiqueta de la memoria.



Etiquetas predeterminadas de la memoria MY

Cada vez que almacene una emisora en la memoria MY, se le asignará la etiqueta predeterminada "MY-xx" (con un número de memoria en vez de "xx").

Para cambiar las etiquetas, consulte "Edición de etiquetas", página 36.

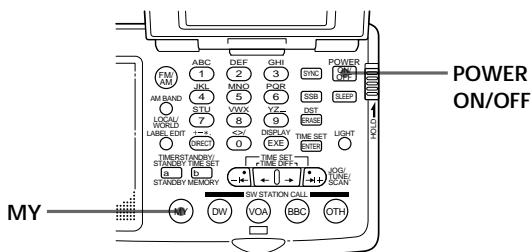
Nota

Las radio puede tener frecuencias almacenadas en la memoria MY en fábrica. En este caso, bórrelas antes de almacenar emisoras en la memoria MY, (consulte "Borrado de emisoras almacenadas en la memoria MY", página 29).

Sugerencias

- Si presiona MY con todos los números de memoria MY (00 a 99) asignados a emisoras, sonará un pitido, en el visualizador aparecerá "MEMORY" "FULL", y la radio volverá a la condición anterior.
- La sintonía con la memoria MY no se verá afectada por el ajuste del huso horario.

Sintonía de una emisora de la memoria MY



- 1** Presione POWER ON/OFF para conectar la alimentación de la radio.
- 2** Presione MY.
La radio entrará en el modo de sintonía de la memoria MY.
- 3** Vuelva a presionar MY.
La radio explorará las frecuencias almacenadas en la memoria MY y se parará al recibir una.
Para reanudar la exploración, vuelva a presionar la tecla.

Para parar la exploración
Presione MY durante la exploración.

Para invocar manualmente frecuencias de la memoria MY una tras otra

Mantenga pulsada MY y presione \leftarrow , \Rightarrow o $-I\leftrightarrow$, $\Rightarrow I+$.

La frecuencia cambiará rápidamente cuando mantenga presionada $-I\leftrightarrow$ o $\Rightarrow I+$, y se parará cuando la suelte.

Sugerencias

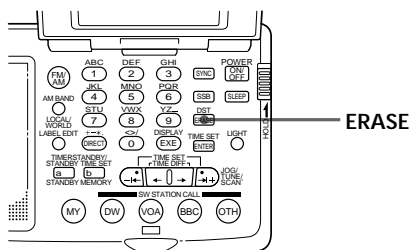
- La memoria MY solamente explorará los número almacenados en la memoria y saltará los vacíos.
- La memoria MY explorará con mayor rapidez si las frecuencias están almacenadas en orden ascendente o descendente.
- Si presiona MY sin frecuencias almacenadas en la memoria MY, sonará un pitido, y en el visualizador aparecerá "MEMORY" "EMPTY". Después la visualización volverá a la condición anterior.
- Si explora por la noche, cuando la recepción es intensa, o cuando explore cuando haya muchas interferencias, la unidad puede parar frecuentemente la exploración. Cambie ATT a ON y ajuste la sensibilidad con el control ATT (consulte "Control de las paradas de la exploración", página 21). En condiciones normales, deje ATT en OFF.

Cuando no haya recepción

Si Si no se recibe cualquiera de las frecuencias almacenadas en la memoria MY, la exploración se parará con un pitido cuando la radio vuelva a la frecuencia en la que haya iniciado la exploración.

Número más bajo almacenado en la memoria MY \rightarrow Número de la memoria MY de comienzo de la exploración \rightarrow Número más alto almacenado en la memoria MY

Borrado de emisoras almacenadas en la memoria MY



- 1 Invoque el número de la memoria MY que desee borrar.
- 2 Mantenga presionada ERASE.
Mientras mantenga presionada ERASE, el número de la memoria MY parpadeará en el visualizador.
Después de 3 segundos sonará un pitido, y la emisora asignada al número de la memoria MY se borrará. El número y la etiqueta de la memoria MY desaparecerán.

Nota

Cuando borre una emisora de la memoria MY, se borrarán también los cambios que haya realizado en su etiqueta predeterminada.

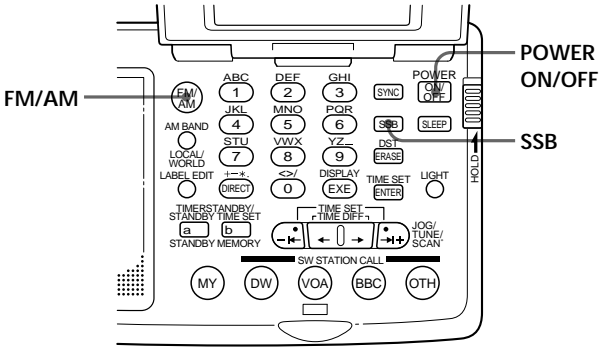
Para cambiar una emisora almacenada en la memoria MY
Usted no podrá reescribir una frecuencia almacenada en la memoria por otra nueva. Borre en primer lugar tal número particular de la memoria MY, y después almacene la nueva frecuencia.

Nota

La memoria MY almacena las emisoras en el número más bajo disponible en la misma. Por lo tanto, tenga en cuenta que si existe un número inferior al borrado, la nueva frecuencia se almacenará en tal número.

Recepción de transmisiones de banda lateral única (SSB) y onda continua (CW)

Usted podrá recibir transmisiones de banda lateral única (SSB) y de onda continua (CW) con el circuito del oscilador de tonalidad telegráfica (BFO) incorporado.



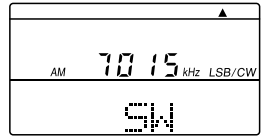
1 Presione POWER ON/OFF para conectar la alimentación de la radio.

2 Presione FM/AM para seleccionar AM.

3 Presione SSB para seleccionar USB o LSB/CW.

Cada vez que presione SSB, la banda cambiará de la forma siguiente:

(Modo normal) → USB → LSB/CW



4 Sintonice la emisora deseada.

Con respecto a los métodos de sintonía, consulte “Diversas formas de recepción”, páginas 16 a 29.

Sugerencia

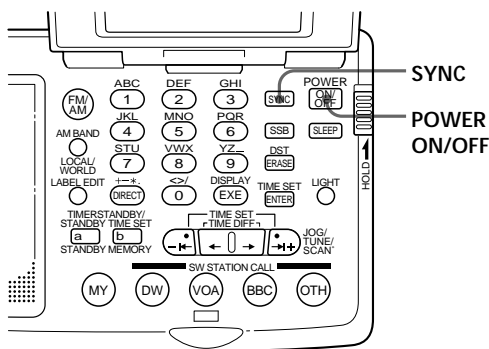
Para más información sobre SSB y CW, consulte “Sugerencias sobre las ondas radioeléctricas”, página 50.

Notas

- El modo USB o LSB/CW no podrá almacenarse en la memoria. Usted podrá sintonizar emisoras en pasos de 0,1 kHz en el modo USB o LSB/CW, pero el dígito de la frecuencia después del punto decimal se ignorará cuando se memorice.
- Si invoca una frecuencia de AM en el modo USB o LSB/CW, el ajuste de modo permanecerá activo, y la frecuencia se recibirá en el modo respectivo.

Ajuste para la recepción óptima de AM – Detección sincrónica

Ajuste la recepción de AM (especialmente recepción de SW) a la condición óptima con la detección sincrónica.



1 Presione **POWER ON/OFF** para conectar la alimentación de la radio.

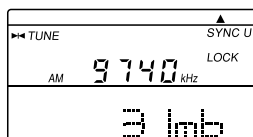
2 Sintone la emisora deseada.

Con respecto a los métodos de sintonía, consulte “Diversos modos de recepción” páginas 16 a 29.

3 Presione repetidamente **SYNC** para seleccionar el modo de detección sincrónica con la mejor recepción (**SYNC U** o **SYNC L**).

Cada vez que presione **SYNC**, la visualización cambiará de la forma siguiente:

(Modo normal) → **SYNC U** → **SYNC L**



Cuando active el modo de detección sincrónica, en el visualizador aparecerá “**LOCK**”.

Sugerencia

Para más información sobre la detección sincrónica, consulte “Sugerencias sobre las ondas radioeléctricas”, página 50.

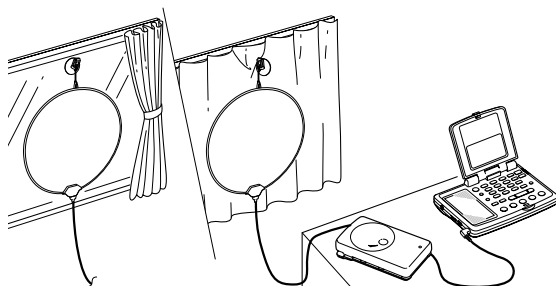
Notas

- La detección sincrónica puede cancelarse cuando se debiliten las pilas.
- Aunque haya elegido cualquiera de los modos de detección sincrónica y en el visualizador haya aparecido **SYNC U** o **SYNC L**, es posible que la recepción sincrónica no se active si la recepción es débil. En este caso, no aparecerá “**LOCK**”.
- El ajuste de detección sincrónica no podrá almacenarse en la memoria.
- Si invoca una frecuencia de AM después de haber activado cualquiera de los modos de detección sincrónica, el ajuste del modo permanecerá activo y la frecuencia se recibirá en el modo respectivo.

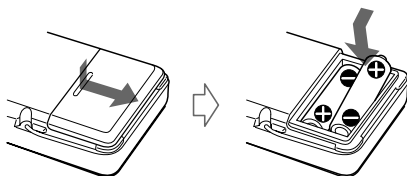
Utilización de la antena exterior suministrada

Para mejorar la recepción en onda corta, utilice la antena activa para onda corta AN-LP2 suministrada. La antena le ofrecerá una recepción estable en interiores con el amplificador incorporado.

Esta antena solamente podrá utilizarse para recibir en las bandas métricas de onda corta de 120 a 11 metros, como se indica en “Gama de frecuencias de las bandas/bandas métricas”, página 19. Cerciérese de desconectarla para la recepción de FM, MW, o LW.



Inserción de las pilas



- 1** Abra la tapa del compartimiento de las pilas del controlador de antena.
- 2** Inserte dos pilas R6 (tamaño AA) con la polaridad correcta.
- 3** Cierre la tapa.

Duración de las pilas de la antena activa

Utilizando pilas R6 (tamaño AA) Sony (JEITA*): aprox. 40 horas

* Medición realizada con las normas de JEITA (Japan Electronics and Information Technology Industries). La duración real de la pila puede variar dependiendo de las circunstancias de la unidad.

Cuándo reemplazar las pilas

Cuando las pilas se debiliten, la lámpara POWER del controlador de la antena se iluminará débilmente. Reemplace ambas pilas por otras nuevas.

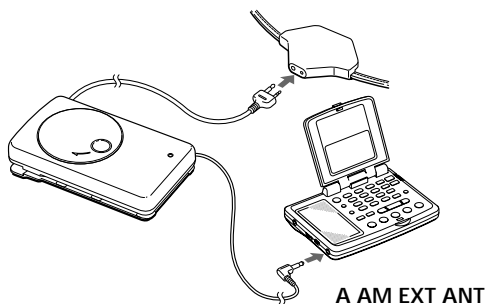
Instalación

- 1 Despliegue lentamente el módulo de antena.



Tenga cuidado de no golpear a nadie ni nada cuando despliegue el módulo de antena.

- 2 Extraiga el cable largo con clavija doble del controlador de antena hasta que se, y conéctelo al módulo de antena.
- 3 Fije el módulo de antena al cristal o a la cortina de una antena.
Fije la antena con la presilla o la ventosa suministrada, como se muestra en la ilustración de la página anterior.
- 4 Conecte el cable corto con una sola clavija a la toma AM EXT ANT (antena exterior de AM) de la radio.



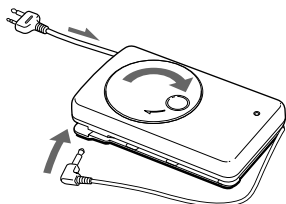
La fuente de alimentación del controlador de antena está enlazada con la de la radio. La lámpara POWER del controlador se encenderá. Cambie ATT de la radio a OFF.

Acerca de la instalación

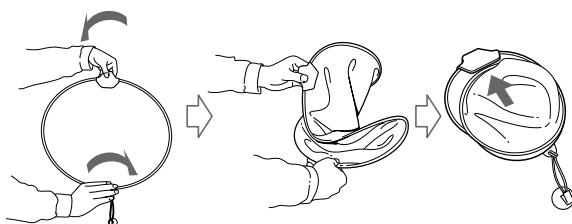
- Coloque el módulo de antena donde la recepción sea buena, como en una ventana.
- La recepción puede empeorar si el cable largo del controlador de antena se mantiene cerca de la radio. Manténgalo lo más alejado posible de la radio.
- Mantenga la radio y la antena alejados de lámparas fluorescentes, televisores, teléfonos, PC, etc., ya que estos aparatos pueden generar interferencias de ruido.
- Coloque la antena lo más alejada posible de calles.
- No utilice la antena en exteriores.
- Antes de utilizar la antena exterior, cerciórese de replegar la antena telescópica de la antena principal.

Después de la utilización

- 1** Desconecte el módulo de antena, el controlador de antena, y la alimentación de la radio.
- 2** Bobine el cable largo.
- 3** Enrolle el cable corto en el controlador de antena y colóquelo en su lugar.



-
- 4** Retuerza y pliegue el módulo de antena, colóquelo en su lugar, y métalo en la funda de transporte.

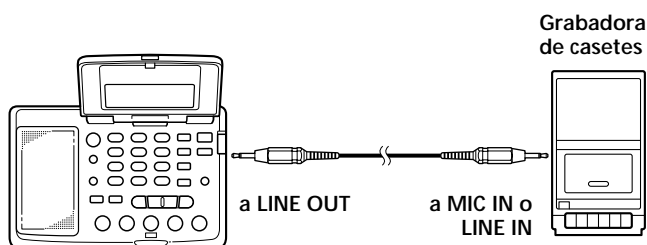


Nota

- Para recibir emisoras de FM, MW o LW, cerciéndose de desconectar la antena activa. La radio no podrá recibir estas bandas con la antena exterior conectada, ya que la antena telescópica y la antena de barra de ferrita estarán desconectadas.
- La antena exterior suministrada es para utilizarse solamente con esta unidad. No podrá usarse con otras radios.
- No conecte ninguna antena que no sean las activas recomendadas a la toma AM EXT ANT de la unidad, ya que tal toma suministra tensión de CC para alimentar dichas antenas activas recomendadas.

Grabación de emisiones de radiodifusión

Para grabar programas de radiodifusión, conecte la radio a una grabadora de casetes utilizando cables conectores.



- 1 Conecte la radio a una videograbadora utilizando cables conectores (no suministrados).
Utilice el cable apropiado para el tipo de grabadora de casetes.

Grabadora de casetes		Cable conector
Tipo	Toma	
Monoaural	MIC IN (minitoma)	RK-G135
Estéreo	MIC IN (minitoma)	RK-G134
	LINE IN (minitoma)	RK-G136
	LINE IN (toma monopolar)	RK-G129

- 2 Sintonice la emisora cuyos programas desee grabar.
- 3 Grabe en la grabadora de casetes.

Si graba con una grabadora de casetes estéreo

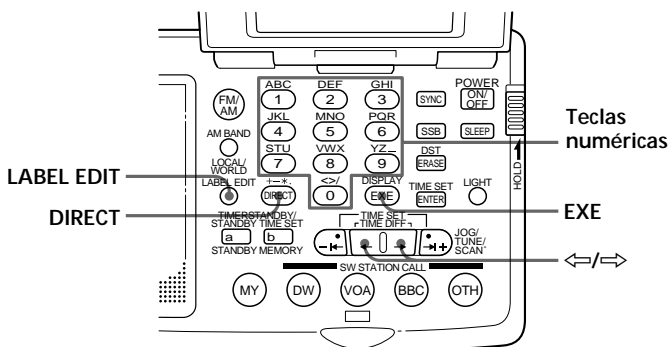
Los programas de FM estéreo se grabarán en estéreo. Los programas de AM se grabarán en forma monoaural en ambos canales.

Sugerencia

El ajuste de VOL de la radio no tendrá efecto sobre la grabación.

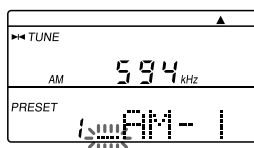
Edición de etiquetas

Usted podrá cambiar la etiqueta predeterminada para una emisora almacenada, el huso horario, etc., por cualquier combinación de hasta 6 caracteres alfanuméricos.



1 Haga que se visualice la etiqueta que desee editar mediante la sintonía memorizada (página 22), la sintonía de la memoria MY (página 27), la visualización de la hora WORLD (página 14), o la función de espera (página 38).

2 Presione LABEL EDIT. Parpadeará el primer carácter de la etiqueta.



3 Presione ← o → para mover el cursor hasta el carácter que desee cambiar.

4 Presione una de las teclas numéricas (0 a 9) o DIRECT para introducir el carácter deseado.

Cuando presione una tecla numérica, se introducirá el primer carácter escrito sobre la misma de la forma siguiente.

Ej. Presión de la tecla numérica ①: A → B → C → 1

① ABC 1	② DEF 2	③ GHI 3
④ JKL 4	⑤ MNO 5	⑥ PQR 6
⑦ STU 7	⑧ VWX 8	⑨ YZ [†] 9
DIRECT + - * .	⑩ < > / 0	—

[†] [†] indica un espacio en blanco.

5 Repita los pasos 3 y 4 para cambiar otros caracteres.
Complete cada operación de tecla antes de 20 segundos.

6 Presione EXE.
Sonará un pitido, y los caracteres visualizados se almacenarán como la etiqueta.

Si el parpadeo de los caracteres se para

Usted tardó más de 20 segundos en completar una operación de teclas.

Si la visualización vuelve a la etiqueta original, presione de nuevo LABEL EDIT y comience otra vez.

Para cancelar la edición

Presione LABEL EDIT antes de presionar EXE.

Notas

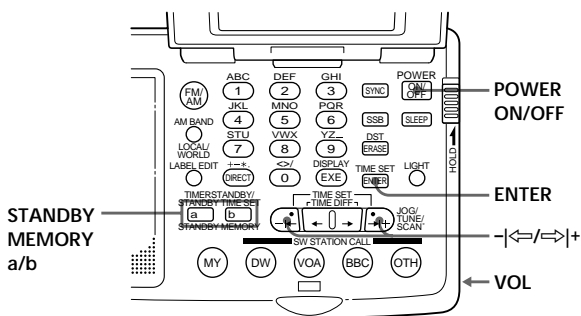
- Las etiquetas de SW STATION CALL no podrán editarse.
- La unidad no emitirá pitidos si la ha ajustado a BEEF OFF (consulte "Desactivación de los pitidos", página 43).
- Una etiqueta almacenada volverá a su ajuste predeterminado si reescribe una emisora en una tecla de memorización (consulte "Etiquetas almacenadas predeterminadas", página 22).

Utilización del temporizador

Para despertarse con la radio o el zumbador — Función de espera

Usted podrá despertarse con su programa radiofónico favorito utilizando la función de espera. En STANDBY MEMORY a y b podrá almacenar frecuencia y horas de espera diferentes.

Para despertarse con el zumbador, consulte “Para despertarse con el zumbador”, página 40.

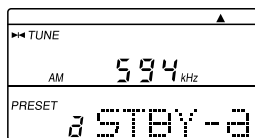


Antes de utilizar la función de espera (página 12), cerciőrese de que el reloj est3 correctamente ajustado.

- 1 Sintonic3 la emisora que desee memorizar.
- 2 Ajuste VOL a su gusto.
- 3 Mantenga pulsada ENTER y presione STANDBY MEMORY a o b.

Cuando mantenga presionada ENTER, en el visualizador parpadear3 “PRESET MY”.

Cuando presione STANDBY MEMORY a o b, sonar3 un pitido. La emisora se almacenar3 en la tecla seleccionada. Se visualizar3 el n3mero de STANDBY MEMORY (a o b) y la etiqueta de STANDBY MEMORY.



- 4 Presione POWER ON/OFF para desconectar la alimentaci3n de la radio.

- 5 Mantenga pulsada la tecla STANDBY MEMORY que presion3 en el paso 3 y presione repetidamente -I↔ o ⇨I+ para ajustar la hora de espera (es decir, la hora de conexi3n de la alimentaci3n de la radio).

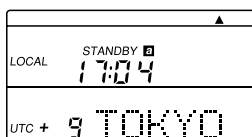
Mientras mantenga presionada la tecla STANDBY MEMORY, parpadear3n “STANDBY” y “a” o “b”.

- 6 Suelte la tecla STANDBY MEMORY.

“STANDBY” y “a” o “b” permanecer3n visualizados y el ajuste de espera habr3 finalizado.

La indicaci3n del reloj volver3 a la de la hora actual.

La alimentaci3n de la radio se conectar3 a la hora de espera para recibir la emisora memorizada.



Para comprobar la hora de espera

Mantenga pulsada STANDBY MEMORY a o b con la alimentación de la radio desconectada. Mientras mantenga presionada la tecla, se visualizará la hora de espera programada.

Para cambiar la hora de espera

Repita los pasos 4 a 6 y programe una nueva hora de espera.

Para cancelar la función de espera

Presione STANDBY MEMORY a o b con la alimentación de la radio desconectada de forma que "STANDBY" "a" o "b" se borre del visualizador.

Cerciórese de soltar la tecla antes de un segundo. Si mantiene presionada la tecla durante más de un segundo, la radio volverá al paso 5.

A la hora de espera

La alimentación de la radio se conectará, aparecerá "SLEEP", y se sintonizará la emisora almacenada. La alimentación de la radio se desconectará después de unos 60 minutos.

Notas

- La función de espera se activará cuando la hora actualmente visualizada, en el modo de visualización LOCAL o WORLD, alcance la hora de espera. Por lo tanto, cerciórese de que la visualización de la hora esté en el modo deseado.
- Si ya hay una emisora almacenada en la tecla STANDBY MEMORY, la nueva se reescribirá sobre la anterior. Si edita la etiqueta memorizada, ésta volverá al ajuste predeterminado siguiente.

a = "STBY-a"

b = "STBY-b"

Para cambiar las etiquetas, consulte "Edición de etiquetas", página 36.

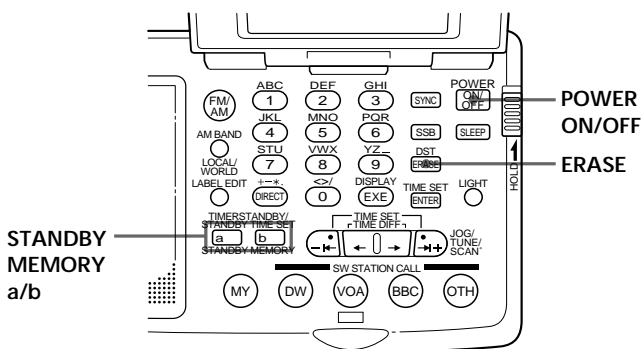
- Antes de ajustar la hora de espera, cerciórese de desconectar la alimentación de la radio. Usted no podrá ajustar la hora de espera con la alimentación de la radio conectada.

Sugerencias

- Para cancelar temporalmente la función de espera, desconecte la alimentación de la radio y deslice HOLD en el sentido de la flecha de forma que se visualice "⏻". El temporizador de espera volverá a activarse cuando desactive la función de bloqueo ("⏻" desaparecerá del visualizador). Consulte "Utilización de la función de bloqueo", página 42.
- Después de haber programado la función de espera, la alimentación de la radio se conectará diariamente a la hora programada a menos que cancele el estado de espera (consulte "Para cancelar la función de espera", de arriba). La cancelación del estado de espera no borrará el propio ajuste. El ajuste podrá devolverse al estado de espera presionando STANDBY MEMORY a o b con la alimentación de la radio desconectada de forma que en el visualizador aparezca STANDBY "a" o "b".
- Si la memoria de espera está en el estado de espera, funcionará incluso aunque esté escuchando la radio. La radio cambiará a la frecuencia de espera memorizada a la hora de espera.
- Usted podrá programar ambas memorias STANDBY al estado de espera al mismo tiempo (es decir, ambos indicadores, **a** y **b**, indicados en el visualizador). La alimentación de la radio se conectará a la primera hora de espera para recibir la primera frecuencia de espera, y después cambiará a la segunda a la segunda hora de espera.
- Si ambas memorias STANDBY MEMORY están programadas a la misma hora de espera, tendrá prioridad STANDBY **a**.

Para despertarse con el zumbador

Si una memoria STANDBY MEMORY sin frecuencia memorizada está activada, a la hora de espera sonará el zumbador. Borre si hay una frecuencia memorizada.



- 1** Presione POWER ON/OFF para conectar la alimentación de la radio.
- 2** Presione STANDBY MEMORY a o b.
La frecuencia memorizada se invocará.
Si no hay frecuencia memorizada, sonará un pitido y en el visualizador aparecerá "MEMORY" "EMPTY". Vaya al paso 4.
- 3** Mantenga presionada ERASE.
Mientras mantenga presionada ERASE, en el visualizador parpadeará el número de memoria de espera.
Después de 3 segundos sonará un pitido y la emisora asignada a la tecla STANDBY MEMORY se borrará. Desaparecerán el número y la etiqueta de la memoria de espera.
- 4** Realice los pasos 4 a 6 de "Para despertarse con la radio o el zumbador", página 38 para programar la hora de espera (es decir, la hora a la que sonará el zumbador).
El zumbador sonará a la hora de espera

Para silenciar el zumbador

Presione cualquier tecla excepto LIGHT.

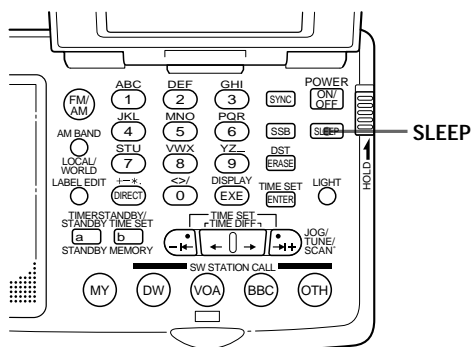
Si deja sonar el zumbador, se silenciará después de aproximadamente 60 minutos.

Notas

- El volumen del zumbador no podrá ajustarse con VOL.
- El zumbador de la memoria de espera sonará independientemente del ajuste de BEEP OFF.
- Cuando borre una memoria de espera, se borrarán también todos los cambios de su etiqueta predeterminada.

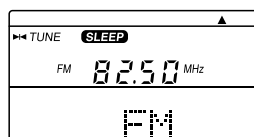
Para dormirse escuchando la radio — Temporizador cronodesconector

Usted podrá hacer que la alimentación de la radio se desconecte automáticamente después de unos 60 minutos utilizando el temporizador cronodesconector.



1 Presione SLEEP.

Si la alimentación de la radio estaba desconectada, se conectará. Aparecerá "SLEEP".



2 Sintonice la emisora deseada.

La alimentación de la radio se desconectará automáticamente después de unos 60 minutos.

Para desconectar la alimentación de la radio antes de la duración de 60 minutos

Presione POWER ON/OFF.

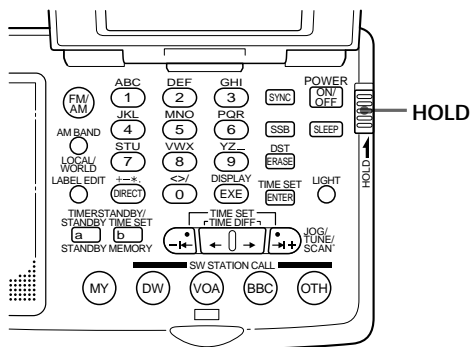
Sugerencias

- Si presiona SLEEP con la alimentación de la radio conectada, aparecerá "SLEEP" y la alimentación se desconectará después de unos 60 segundos.
- Si presiona SLEEP para conectar la alimentación de la radio, ésta sintonizará la emisora previamente recibida.
- Si presiona SLEEP cuando esté indicándose "SLEEP", la cuenta atrás del temporizador cronodesconector se repondrá a cero y la alimentación de la radio se desconectará después de unos 60 minutos a partir de este punto.

Utilización de la función de bloqueo

Cuando active la función de bloqueo, no funcionará ninguna tecla a fin de evitar la operación accidental cuando transporte o utilice la radio.

La función de bloqueo también podrá utilizarse para cancelar temporalmente la función del temporizador de espera.



1 Deslice HOLD en el sentido de la flecha.

Aparecerá "⏻" y no funcionará ninguna tecla.



Para cancelar la función de bloqueo

Deslice HOLD en sentido opuesto al de la flecha de forma que "⏻" desaparezca del visualizador.

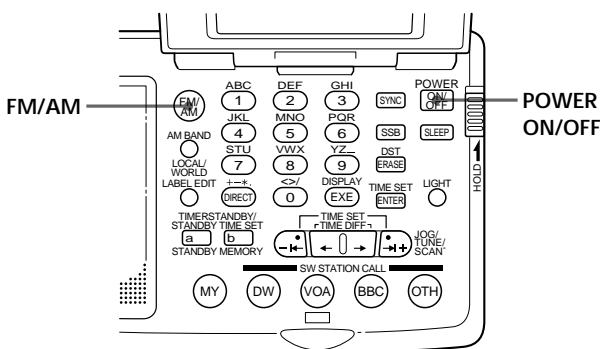
Para cancelar temporalmente el temporizador de espera

Cuando active la función de bloqueo, la función del temporizador de espera se cancelará temporalmente (consulte "Para despertarse con la radio o el zumbador — Función de espera", página 38).

La cancelación temporal del temporizador de espera mediante la función de bloqueo solamente será efectiva cuando la alimentación esté desconectada.

Desactivación de los pitidos

Los pitidos de confirmación podrán desactivarse. Realice esto con la alimentación desconectada.



- 1** Si la alimentación de la radio está conectada, presione POWER ON/OFF para desconectarla.
- 2** Mantenga presionada FM/AM durante más de 2 segundos.
Sonará un pitido, y en el visualizador aparecerá "BEEP" "OFF". Los pitidos se habrán desactivado.
Para volver a activar los pitidos, mantenga de nuevo presionada FM/AM durante más de 2 segundos. En el visualizador aparecerá "BEEP" "ON" y los pitidos habrán quedado activados.

Sugerencia

El ajuste de los pitidos no afectará el sonido del zumbador para la función del temporizador de espera (consulte "Para despertarse con el zumbador", página 40).

Precauciones y mantenimiento

Ubicación

- No deje la unidad cerca de fuentes térmicas, tales como radiadores ni conductos de ventilación, ni en un lugar sometido a la luz solar directa, polvo excesivo, humedad, lluvia, vibraciones mecánicas, ni choques.
- Utilice la unidad dentro de una gama de temperaturas de 0°C a 40°C. Si la usase en temperaturas fuera de esta gama, podría aparecer una visualización irregular (es decir, 88.88). Si la utilizase en temperaturas inferiores a esta gama, la visualización podría de forma muy lenta. La unidad volverá a su condición normal cuando la utilice de nuevo dentro de la gama de temperaturas recomendada.
- La recepción puede ser difícil o ruidosa en vehículos o edificios. Pruebe a escuchar cerca de una ventana.

Seguridad

- Alimente la unidad solamente con 3 V CC con dos pilas R6 (taño AA).

Para alimentarla con CA, utilice el adaptador de alimentación de CA suministrado*. No use ningún otro tipo de alimentador de CA.

- La unidad no se desconectará de la fuente de alimentación de CA (red) mientras esté enchufada en un tomacorriente, incluso aunque desconecte la alimentación de la propia unidad.
- Cuando no vaya a utilizar la unidad durante mucho tiempo, desconecte el adaptador de alimentación de CA del tomacorriente de la red.
- La placa de características en la que se indica la tensión de alimentación, etc., se encuentra en la base de la unidad.
- Si dentro de la unidad cae algún objeto sólido o líquido, desenchúfelo y haga que sea comprobada por personal cualificado antes de utilizarla de nuevo. Cerciórese de que en la toma DC IN 3V no entre ningún líquido ni ningún objeto extraño. Esto podría causar el mal funcionamiento de la unidad.
- Cuando se ensucie la caja, límpiela con un paño suave y seco o ligeramente humedecido en una solución poco concentrada de detergente. No utilice nunca limpiadores abrasivos ni disolventes químicos, ya que podría dañar la caja.
- Como el altavoz utiliza un imán intenso, mantenga las tarjetas de crédito, que utilizan codificación magnética, y los relojes de cuerda alejados de la unidad para evitar el posible daño que podrías causar tal imán.

- En caso de tormentas eléctricas y cuando utilice la antena exterior, desconecte inmediatamente el adaptador de alimentación de CA del tomacorriente de la red, si está conectado. No toque nunca la antena durante una tormenta eléctrica.
 - No conecte nunca un conductor de puesta a tierra a un tubo de gas.
- * No suministrado para ciertos países. Consulte "Especificaciones".

Antena activa AN-LP2

- No lave el módulo de antena.
- Tenga cuidado de no romper el módulo de antena cuando lo pliegue.
- Cuando no vaya a utilizar la antena durante mucho tiempo, guárdela en su caja.

Servicio y reparación

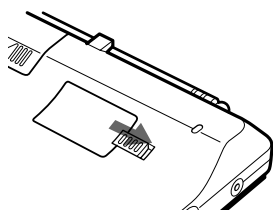
Antes de llevar la unidad para su servicio o reparación, anote los ajustes almacenados importantes. Estos ajustes podrían borrarse dependiendo del tipo de reparación necesaria

Si tiene cualquier pregunta o problema en relación con su unidad, consulte a su proveedor Sony.

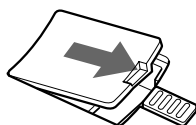
Cambio de la ROM SW STATION CALL

Para adquirir la ROM más reciente, consulte "Purchasing the latest SW STATION CALL ROM" (en inglés y japonés solamente) y póngase en contacto con F Corporation.

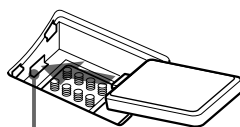
- 1 Mantenga presionada la tapa del compartimiento de la ROM de la base de la unidad y deslice RELEASE en el sentido de la flecha. Después suelte lentamente su dedo de la tapa.



- 2 Extraiga la tapa del compartimiento de la ROM del compartimiento. Tenga cuidado de no tocar las superficies de contacto (partes metálicas).

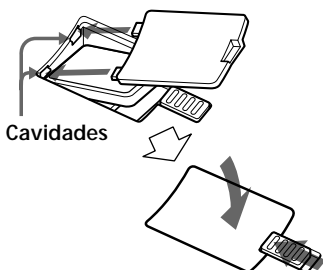


- 3 Inserte la parte saliente de la ROM en la cavidad del compartimiento y coloque la nueva ROM en el compartimiento para la misma con la superficie de contacto encarada hacia abajo. Tenga cuidado de no tocar las superficies de contacto.



Cavidad

- 4 Inserte las partes salientes de la tapa del compartimiento de la ROM en las cavidades de dicho compartimiento y bloquee la tapa deslizando RELEASE en sentido opuesto al de la flecha manteniendo presionada la tapa.



Cavidades

Nota

No toque las superficies de contacto de la ROM ni de la radio, ya que podría causar un mal funcionamiento.

Limpieza de la superficie de contacto de la ROM SW STATION CALL

Si se visualiza "NO" "ROM" cuando haya insertado la ROM SW STATION CALL en su compartimiento, es posible que la superficie de contacto de dicha ROM esté sucia.




Extraiga la ROM siguiendo los pasos anteriores y limpie la superficie de contacto con un palillo de cabeza de algodón.

Nota



No limpie los resortes de contacto de la unidad principal, ya que podría deformarlos y causar un mal funcionamiento.

Solución de problemas

Si tiene cualquier problema con la unidad, compruebe lo siguiente antes de consultar a su proveedor Sony.

Síntoma	Causa	Solución
La radio no acepta la introducción de teclas.	<ul style="list-style-type: none"> • La función de bloqueo (HOLD) está activada. 	<ul style="list-style-type: none"> • Deslice HOLD en sentido opuesto al de la flecha de forma que “” desaparezca del visualizador (página 42).
La alimentación no se conecta al presionar POWER ON/OFF.	<ul style="list-style-type: none"> • Las pilas están inadecuadamente instaladas. • Pilas débiles (“” parpadea en el visualizador). • El adaptador de alimentación de CA está desconectado. 	<ul style="list-style-type: none"> • Inserte las pilas con la polaridad correcta. • Reemplace las pilas por otras nuevas. • Compruebe si el adaptador de alimentación de CA esté correctamente conectado.
El visualizador no funciona.	<ul style="list-style-type: none"> • Las pilas están inadecuadamente instaladas. 	<ul style="list-style-type: none"> • Inserte las pilas con la polaridad correcta.
La visualización es débil.	<ul style="list-style-type: none"> • Pilas débiles (“” parpadea en el visualizador). 	<ul style="list-style-type: none"> • Reemplace las pilas por otras nuevas.
La visualización es lenta.	<ul style="list-style-type: none"> • Las pilas están inadecuadamente instaladas. 	<ul style="list-style-type: none"> • Evite someter la unidad a temperaturas y humedad extremadas.
No hay salida de sonido.	<ul style="list-style-type: none"> • La unidad se está utilizando con temperaturas extremadamente bajas. • VOL está ajustado al nivel mínimo. • Los auriculares estéreo están enchufados. • Las pilas están inadecuadamente instaladas. 	<ul style="list-style-type: none"> • Evite someter la unidad a temperaturas extremadamente bajas. • Ajuste VOL al nivel deseado. • Para que haya salida a través del altavoz, desenchufe los auriculares estéreo. • Inserte las pilas con la polaridad correcta.

Solución de problemas (continuación)

Síntoma	Causa	Solución
La recepción es deficiente.	<ul style="list-style-type: none"> • Pilas débiles (“”) parpadea en el visualizador). • Ajuste de sintonía o de la antena inadecuado. • Señal de radio débil • ATT está ajustado a ON. 	<ul style="list-style-type: none"> • Reemplace las pilas por otras nuevas. • Ajuste adecuadamente la sintonía y la antena. • Escuche la radio cerca de una ventana cuando se encuentre en un vehículo o en un edificio. • Ponga ATT en OFF (página 21).
No es posible completar la sintonía directa.	<ul style="list-style-type: none"> • Usted ha tardado más de 10 segundos en una operación de teclas. 	<ul style="list-style-type: none"> • Complete cada operación de teclas antes de 10 segundos.
No es posible memorizar una emisora.	<ul style="list-style-type: none"> • Procedimiento incorrecto. 	<ul style="list-style-type: none"> • Mantenga pulsada ENTER y presione una tecla numérica (0-9) (página 22).
No es posible invocar una emisora memorizada.	<ul style="list-style-type: none"> • Ha presionado una tecla incorrecta para la emisora deseada. • El ajuste memorizado se borró accidentalmente. 	<ul style="list-style-type: none"> • Presione la tecla numérica correcta para la emisora deseada. • Vuelva a memorizar la emisora (página 22).
La alimentación de la radio no se conecta a la hora de espera.	<ul style="list-style-type: none"> • Usted se olvidó de presionar STANDBY a o b. • La función de bloqueo (HOLD) está activada. • El ajuste de la hora de espera se borró porque usted tardó más de 3 minutos en reemplazar las pilas. • VOL está ajustado al nivel mínimo. • No hay frecuencias almacenadas en STANDBY MEMORY (el zumbador sonará a la hora programada). 	<ul style="list-style-type: none"> • Presione STANDBY a o b (consulte la página 38). • Deslice HOLD en sentido opuesto al de la flecha de forma que “” desaparezca del visualizador (página 42). • Vuelva a programar la hora de espera. • Ajuste VOL. • Almacene una frecuencia en la memoria STANDBY MEMORY (página 38).
SW STATION CALL no funciona.	<ul style="list-style-type: none"> • El compartimiento de la ROM está vacío. • La ROM está mal conectada. 	<ul style="list-style-type: none"> • Inserte la ROM (página 46). • Limpie la superficie de contacto de la ROM (página 46).
No es posible memorizar una emisora en la memoria MY.	<ul style="list-style-type: none"> • La memoria MY está llena (00 a 99). 	<ul style="list-style-type: none"> • Borre una memoria y almacene una emisora (página 29).

Especificaciones

ICF-SW07

Sistema de circuito

FM: Superheterodino

AM: Superheterodino de conversión doble

Gama de frecuencias

FM: 76–108 MHz

SW: 1.621–29.999 kHz

MW: 530–1.620 kHz

LW: 150–529 kHz

Frecuencia intermedia

FM: 10,7 MHz

SW/MW/LW: 55,845 MHz (primera), 455 kHz (segunda)

Salida

Toma LINE OUT (minitoma estéreo) aprox. 245 mV, menos de 10 kilohmios

Toma \square (auriculares) (minitoma estéreo) 16 ohmios

Altavoz

Aprox. 40 mm de diámetro, 8 ohmios

Salida máxima

200 mW (al 10 % de distorsión armónica)

Alimentación

DC 3 V, dos pilas R6 (tamaño AA)

Fuente de alimentación externa

La toma DC IN 3V acepta: Adaptador de alimentación de CA suministrado*

Dimensiones

Aprox. 135 x 32,5 x 91 mm (an/al/prf), excluyendo partes salientes

Masa

Aprox. 220 g

Aprox. 257 g incluyendo las pilas

AN-LP2

Alimentación

DC 3 V, dos pilas R6 (tamaño AA)

Dimensiones (an/al/prf)

Módulo de antena

En utilización: Aprox. 490 x 480 x 17,8 mm

Plegada: Aprox. 205 x 180 x 17,8 mm

Controlador de antena

Aprox. 120 x 29,5 x 72 mm

Masa

Módulo de antena: aprox. 92 g

Controlador de antena: aprox. 144 g, incluyendo las pilas

Accesorios suministrados

Auriculares estéreo (1)

Almohadillas auriculares (2)

Adaptador de alimentación de CA (1)*

Adaptador de CA (1)*

Antena activa AN-LP2 (1)

Funda de transporte para el ICF-SW07 (1)

Funda de transporte para la AN-LP2 (1)

Manual de ondas radioeléctricas (1)

* No suministrado con los modelos para el Reino Unido, Australia, China (incluyendo Hong Kong), ni Argentina.

Accesorios opcionales

Antena de gama amplia para LW/MW/SW AN-1, AN-102

Cables conectores

RK-G135 (miniclavija estéreo ↔ miniclavija)

RK-G134 (miniclavija estéreo ↔ miniclavija estéreo)

RK-G136 (miniclavija estéreo ↔ miniclavija estéreo)

RK-G129 (miniclavija estéreo ↔ dos clavijas monopolar)

Es posible que su proveedor no disponga de algunos de los accesorios opcionales indicados arriba. Solicite información detallada a su proveedor sobre los accesorios opcionales disponibles en su país.

El diseño y las especificaciones están sujetos a cambio sin previo aviso.

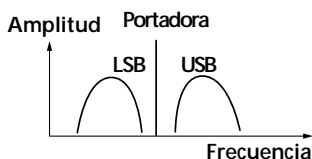
Sugerencias sobre las ondas radioeléctricas

¿Qué es SSB (Banda lateral única)?

SSB es muy popular para las transmisiones de radioaficionados y comerciales, y se utiliza comúnmente en muchas bandas de radioaficionados por su superioridad en cuanto a inteligibilidad de las señales. Su impresionante inteligibilidad de señales se consigue con interferencias mínimas en comparación con DSB (Banda lateral doble) debido a su estructura de mitad de anchura de banda.

En general, las transmisiones en SSB emplean la modulación de USB (Banda lateral superior), mientras que las transmisiones en la banda de radioaficionados inferiores a 10 MHz emplean la modulación de LSB (Banda lateral inferior).

Los aparatos de radio convencionales sin circuito BFO (Oscilador de tonalidad telegráfica) no pueden recibir satisfactoriamente transmisiones de SSB. Esta unidad puede recibir satisfactoriamente transmisiones de SSB con el circuito BFO incorporado.



¿Qué es CW (Onda continua)?

CW es también muy popular para las transmisiones de radioaficionados y comerciales. A diferencia de otras señales, la amplitud de la portadora de las transmisiones de CW no se modula. Las transmisiones de CW envían información interrumpiendo la portadora y utilizan el código Morse como medio de comunicación. Esta unidad puede recibir satisfactoriamente transmisiones de CW con el circuito BFO (Oscilador de tonalidad telegráfica) incorporado como sonido de batido solamente. Para comprender completamente la información transmitida con las transmisiones de CW, es imprescindible conocer el código Morse.

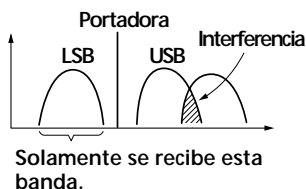
¿Qué es detección sincrónica?

En la recepción óptima de AM existen dos obstáculos: distorsiones debidas al desvanecimiento y a las interferencias de emisoras adyacentes.

La detección sincrónica es muy efectiva para resolver estos obstáculos.

Las distorsiones debidas al desvanecimiento se deben generalmente a la sobremodulación producida cuando un componente de la portadora de la señal recibida se atenúa en la vía de transmisión. El circuito de detección sincrónica de esta unidad genera una frecuencia portadora pura sin variación de nivel, que está idealmente sincronizado con la portadora original para compensar el componente atenuado de la portadora y reducir drásticamente la distorsión.

De forma similar, en AM (LW, MW, y SW) se emplean señales de DSB (Banda lateral doble), para las transmisiones en las que se envían señales moduladas utilizando las bandas laterales superior e inferior (USB y LSB). En la mayoría de los casos, una de las bandas laterales se ve afectada por interferencias de emisoras adyacentes (es decir, batidos). El circuito de detección sincrónica de esta unidad extraerá la banda (USB o LSB) de la señal de DSB (Banda lateral doble) que esté libre de interferencias. Esto le permitirá conseguir una recepción sin interferencias de emisoras adyacentes.



<http://www.world.sony.com/>

Printed on recycled paper

Printed using vegetable oil ink with less than
1% VOC (Volatile Organic Compound).

Sony Corporation Printed in Japan